わたしの聖書が一番！３巻

神様の特別な日を覚える～ギベオン人

～出エジプト記20章－ヨシュア記9章～

もくじ

第1章　神様の特別な日を覚える …… 1
第2章　自分以外の人をどうやって愛するか …… 9
第3章　破られた約束 …… 17
第4章　神様の住まわれる場所 …… 25
第5章　神様の美しい聖所 …… 33
第6章　ナダブとアビウ …… 41
第7章　ふたりの勇敢なスパイ …… 49
第8章　荒野での反乱 …… 57
第9章　悲しいあやまち …… 65
第10章　よくばりな預言者バラム …… 74
第11章　ついに約束の地へ …… 82
第12章　祝福と呪い …… 90
第13章　ギベオン人 …… 98

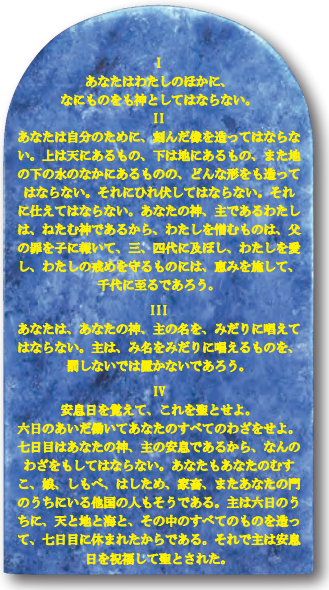
子供のための日々の
聖書研究ガイド

第1章
神様の特別な日を覚える

暗唱聖句

「あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない。これはわたしとあなたがたとの間の、代々にわたるしるしであって、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、知らせるためのものである」。出エジプト記31：13

日曜日



十戒

神様の十戒は、すべてが愛について教えています。最初の四つの戒めは、神様をどのように愛するかを教えています。残りの六つの戒めは、人と人とが互いに愛し合う方法を教えています。今週は、第四の戒めについて学びます。十戒の中心にある戒めです。そこを読んで、覚えはじめましょう。出エジプト20：8－11。

もういちど、11節を読んでください。ここを読むと、そのはるか昔、神様が私たちの世界をつくられたときについて書かれている聖句を、思い出しませんか？創世記2章の2節と3節を読んでください。創造のとき以来、神様の律法は変わりましたか？

Little Folk Visuals

だれかを愛するとき、その人と一緒にいたいと思うようになります。アダムとエバをはじめ、創造主を愛したすべての人たちは、安息日が大好きでした。その日は、神様といっしょに過ごせる特別な日だったからです。カインの子供たちをはじめ、サタンに従ったすべての人たちは、創造主を憎み、安息日に神様とともに過ごすことを拒みました。安息日を守るというのは、自分たちが神様を心から愛し、神様が世界をおつくりになったことを喜んでいることを示す、特別なしるしなのです。エゼキエル書20章12節と20節に、このしるしのことが書かれています。

イスラエルの人たちが最初にエジプトへ行ったころ、神様の律法を守ることは、それほど大変ではありませんでした。そのころは、ヨセフがエジプトの総理大臣で、パロは、ヨセフの家族に対してとても親切でした。

ところが、ヨセフと親切なパロが死んだあとで、すべてが変わってしまいました。エ

ジプト人たちは、イスラエル人を奴隷にしてしまい、とても意地悪になりました。イスラエル人たちは、安息日も休むことなく、毎日仕事をしないと、とてもひどい目にあいました。多くの人たちは怖くなって、安息日を守らないことにしました。そして、神様に従い続ける人たちは、ほんの少しだけになってしまったのです。

あのような苦しい中でも、みんなで神様に信頼し、神様とともに過ごす日として、安息日を守り続けるべきでした。神様はご自分の民を愛しておられ、彼らがふたたび自由で幸福になることを願っておられました。神様はモーセをエジプトに戻して、彼らが神様に信頼するなら、彼らを救い出し、安息日やその他の律法を守れるようにしてあげると、伝えさせられました。

彼らがふたたび、安息日を神様といっしょに過ごすようになったので、パロはひじょうに怒りました。彼らは仕事をなまけるために、安息日を守っているのだと言って、パロは力ずくで、彼らがこれまでよりももっと働くようにさせたのでした。出エジプト5：4－9。しかしその後、彼らは自由の身となって、シナイに来ていました。神様が、彼らを自由の身にしてくださったのです。彼らが神様を愛して信頼し、従うことを学ぶにつれて、安息日のたびに、彼らは、神様から与えられた自由について思い出すはずでした。

考えてみよう: 安息日を守るあなたにとって、それは今でも、あなたが神様を愛し信頼していることの、特別なしるしとなっていますか？

月曜日

あなたは、第四の戒めを、全部言うことができますか？その戒めの、最初の言葉は何ですか？「安息日を覚え」なさいというのは、「忘れてはいけません」ということですよね。今日は、なぜ神様は、私たちに安息日を覚えてほしいのか、なぜサタンは、私たちに安息日のことを忘れてほしいのか、考えてみましょう。

はじめに、神様が私たちに覚えてほしいことがらを、数えてみましょう。出エジプト記20章の8節に、二つのことが記されています。ここで神様は、どの日について述べておられますか？私たちはその日を、どのようにして守るのですか？

次に、9節を読んでください。働く日は何日ありますか？これらの日に、どれだけの仕事をすることになっていますか？

10節を読んでください。どの日が安息日ですか？カレンダーを見てください。七日目は、土曜日になっていますか？この日の何が、そんなに特別なのでしょう？私たちは、他の日に一生けんめい働かなくてはいけません。けれども安息日には、仕事をしてはいけません、とあります。神様は、私たちに休んでほしいのでしょうか？この

日は、人間だけが休めばよいのでしょうか？家畜、つまり人間が仕事に使う動物も休ませなさい、とありますね。

次に、**11 節**を読んでください。神様は何日かけて、この世界をつくられましたか？七日目に、神様はどうなさいましたか？その日を特別な日とするために、神様がなさった二つのことは何ですか？

イエス様がこの世界をおつくりになったことを、サタンは私たちに知ってほしいと思っていますか？この世界はたまたま、何億年もかかって今のようになったのだと、彼は私たちに信じ込ませようとしています。

サタンは私たちに、神様ではなく、神様によってつくられた、さまざまな物を拝ませようとしています。人々が神様と過ごす時をもつことを、彼はとてもいやがるのです。

考えてみよう：人々がこの戒めに従うことを選ぶのを、サタンはなぜいやがるのでしょうか？多くの人たちが、神様の特別な安息日について知らないというのは、とても悲しいことですね。

火曜日

イエス様も、安息日を聖なる日として守られたことを、あなたは知っていましたか？**ルカによる福音書 4 章の 16 節**を読んで、イエス様が安息日のたびに何をなさったか調べてください。一生の間、イエス様は、安息日が人のための特別なおくりものとしてつくられたことを、人々に示しました。**マルコによる福音書 2 章の 27 節**を読んでください。イエス様は、安息日に、人々を助けて幸せにしたいと思っていました。弟子たちも、イエス様のおかげで、安息日が好きになりました。**ルカによる福音書 23 章の 56 節**を読んでください。

サタンは、イエス様のしていることがきらいでした。パロのように、人々を奴隷にしたかったのです。

イエス様は、サタンのみじめな奴隷になっている私たちを自由の身にするため、けんめいに働かれました。十戒のひとつを、いちどでもイエス様に破らせることができたら、私たちみんなが滅びてしまうことを、サタンは知っていました。しかしイエス様は、ただのいちども、サタンに負けることはありませんでした。

私たちをサタンから守るために、イエス様がどれほど働き、また苦しまれたか、私たちには決して分からないでしょう。いちどサタンが、イエス様をはげしく誘惑したことがありました。あまりにはげしかったので、汗といっしょに血がふき出してきたほどでした。

イエス様は、ご自分から進んで、私たちのために死んでくださいました。私たちみんなの罪を、自分の罪であるかのように背負ったために、彼は死んでしまったの

です。彼の死は、他にどんなことをしてくれたのでしょう？**ローマ人への手紙6章23節**を読んでください。彼が死なれたのは、私たちが、創造されたときのアダムとエバのようにつくり変えられるためでした。

イエス様は、金曜日の午後、日が沈む前に死なれました。十字架の上で、彼は最後の力をふりしぼって、「終わった」と叫びました。この地上での働きを、終えられたのでした。**ヨハネ17：4**。

日が沈む前に、彼のなきがら〔死んだからだ〕は、墓に入れられました。働きを終えられたイエス様は、創造のわざを終えられたときのように、安息日に休まれました。それから日曜日に、よみがえられて、次の働きを始められたのです。彼は最後まで、神様の律法を完全に守りました。サタンの負けです。

考えてみよう：イエス様がしてくださったことを思うとき、彼とその戒めを、これまでよりももっと愛するようになるのではないでしょうか？

水曜日

アダムとエバが、子羊を犠牲にささげるようになってから、神の民は、メシヤ〔救い主〕がこられるのを待っていました。彼らをサタンから救うためにこられ、死んでくださると、神様が約束しておられたお方がメシヤでした。

メシヤであられたイエス様は、すべての人を幸せにしたいと思っていました。彼らが幸福になるただひとつの道は、十戒に従うことであることを、彼はごぞんじでした。しかし、ほとんどの場合、民は律法に従わなかったために、不幸な目にばかりあっていました。

神様は、ご自分の民を祝福したかったのですが、彼らがそれをさせませんでした。来る日もくる日も、子羊をささげていたのに、神の子羊であられるイエス様が、彼らを罪とサタンから自由の身にするために死んでくださるという大切な教訓を、忘れてしまっていたのです。彼らはただ、メシヤが強い軍隊を引きつれて来て、敵をやっつけてくれるとばかり思っていました。

イエス様がおいでになったころ、イスラエルの人たちは、ユダヤ人（ユダ族の人たち）と呼ばれていました。イエス様の母親のマリヤはユダヤ人であったので、イエス様もユダヤ人として生まれました。ところがイエス様は、ユダヤ人が期待していたようなメシヤではなかったので、ほとんどの人が、彼を信じようとしませんでした。

イエス様が死んで、よみがえられた後で、多くの人が彼を信じるようになりました。最初に彼を信じたのは、ユダヤ人でしたが、いつしか、ユダヤ人もそうでない人も、キリストを信じるすべての人は、クリスチャンと呼ばれるようになりました。

彼らはみな、安息日をきよく守っていました。

今日、ほとんどのクリスチャンは、安息日（土曜日）をきよく守っていますか？今日、多くのクリスチャンは、日曜日が礼拝の日であると言っています。イエス様が、日曜日に墓からよみがえられたからだと言うのです。けれどもイエス様は、安息日に墓の中で休まれ、日曜日によみがえられて、ふたたび働きを開始されたのでした。また彼に従った人たちは、復活の後も、安息日を守り続けました。

考えてみよう：神様が、十戒を変えたことがありましたか？ただの一度もありません。ほとんどのクリスチャンが日曜日を守っている、ほんとうの理由は何ですか？そのことについては、明日のところで勉強しましょう。

木曜日

イエス様が私たちの世界に来られたころ、ユダヤ人は、ローマというよその国に支配されていました。ローマ人をきらっていたユダヤ人は、よく彼らとさわぎを起こしたので、ローマ人もユダヤ人がきらいでした。ローマ人たちは、クリスチャンのことを、ユダヤ人と同じに考えていたので、クリスチャンの人たちにもひどいことをしました。

ローマ人は異教徒〔偶像礼拝をする人〕で、多くの神々を拝んでいました。イエス様のよみがえりから240年くらいたったころ、太陽神〔太陽を神としたもの〕がいちばん大切な神として、拝まれるようになりました。それから、太陽の日である日曜日が、この太陽の神を礼拝する特別な日となったのでした。

あるとき、ローマの支配者であったコンスタンティヌスという人が、自分はクリスチャンになったと宣言しました。しかし彼は、自分はクリスチャンであると言いながら、なおも太陽を拝んでいたのです。

ついに彼は、クリスチャンは安息日に礼拝をしてもよいという法律〔国の規則〕を作りましたが、その日は悲しみと断食〔何も食べないこと〕の日であるとしました。反対に日曜日を、クリスチャンにとっても異教徒にとっても、楽しい祝いの日にしてしまいました。

それから、何が起こったと思いますか？少しずつ、多くのクリスチャンが、神様の安息日を忘れるようになり、異教の祝日である日曜日を守るようになりました。ユダヤ人のように見られることを嫌っていた多くのクリスチャンは、礼拝日を変えれば、ユダヤ人呼ばわりされることもなくなるだろうと考えたのでした。

それでも、神様とその律法に従い続けた、わずかばかりのクリスチャンもいました。神様は、そのような忠実な人たちを、どれほど喜ばれたことでしょう。

考えてみよう：いつの時代にも、神様に従い、安息日をきよく守ってきた人たちが

いました。あなたは、彼らのようになることを選んでいますか？

金曜日

だれか特別な人がたずねてくるというのは、とても楽しみなことですね。そんなとき、あなたの家族は、準備のために何をしますか？いつもより、家の中と外をきれいにしますか？特別な食事をつくる、お母さんのお手伝いをしますか？きっと、ふだんよりもいい服を着て、その特別な人のために、何か特別な計画をたてるのではないでしょうか？

私たちは、そのようにして安息日の備えをし、その日をむかえるべきです。イエス様といっしょに過ごす、特別な日なのですから。

金曜日の夕日が沈むそのときから、イエス様は私たちと特別な時間を過ごしたいと望んでおられます。私たちも、アダムとエバのように、賛美の歌をうたうことによって、みことばを聞いたり読んだりすることによって、また祈りのうちに語ることによって、イエス様をむかえることができます。

安息日の朝は、あなたが目を覚ますずっと前から、この日を最高の日とするために、天使たちが、せっせと用意をしてくれています。あなたが早くから起きて、遅れずに教会に行ってほしいと思っているのです。

神の家である教会に入るとき、あなたも天使たちのように、うやうやしい態度をとっていますか？

安息日の午後は、イエス様や家族の人たちといっしょに、何か楽しいことをして過ごしていますか？安息日の午後にできる特別なことを、書き出してみましょう。下に、その例をいくつかあげてみます：

- ■教会の人たちを、家族ごとに、食事に招待する。
- ■自然の中を散歩する。
- ■ひとり暮らしの人や、病気の人をたずねる。
- ■近所の子供たちに、聖書のお話を聞かせる。
- ■絵のついた、暗唱聖句のカードをつくる。
- ■安息日学校に来ていなかったお友だちに、手紙を書く。

考えてみよう：安息日は、十戒のまん中〔中心〕にある戒めですが、エデンの園のまん中には何がありましたか？**創世記２章の９節**を読んでください。イエス様がふたたび来られる前に、ちょうどアダムとエバが、園にある二本の木のどちらかを選ばなければならなかったように、一人ひとりが、神様の律法に従うか従わないかを選ばなくてはいけなくなります。安息日をきよく守ることは、天の神様に従うことを選んでいることの「しるし」となるでしょう。**エゼキエル 20：20。**

もっと学ぼう！

- ★**出エジプト記 20：8-11；**
- ★**人類のあけぼの上巻 p. 358-359**
- ★**あがないの歴史 p. 174-175**
- ★**各時代の大争闘 p. 151-185**
- ★**各時代の希望 p. 360-373**
- ★**あがないの歴史 p. 102-105**

ポールのカナリア　―パート1

エイミー・シェラード

ポールとお母さんは古い長屋に住んでいて、そこは、他にもたくさんの人がいました。ポールのお父さんは亡くなってしまい、お母さんは、毎日けんめいに働いて、食べ物を買い、家賃〔部屋の借り賃〕を払うためのお金をかせいでいました。ポールも、何か仕事をして、お母さんを助けたいと思っていましたが、彼は、足が不自由だったのです。生まれてから、いちども歩いたことがありませんでした。

ある寒い、雨のふる日、ポールはいすにすわって、部屋にひとつしかない窓から外をながめていました。窓から見えるのは、となりにある高い建物の壁だけです。ポールの住んでいた長屋とその建物の間には、緑の草も、木も、花もありませんでした。そこには、ゴミと古い箱がつまれた、せまい裏通りがありました。

とつぜん、風が強くなり、雨が窓をはげしく打ちつけたので、ポールは外を見ることができなくなりました。窓のそばの壁は、しっくいがはがれ落ちて、その下にある板が見えていました。その板は雨でぬれてくるし、まどのすき間からも、水が入ってきました。

ポールはとてもさびしく、みじめな気持になりました。目には涙があふれてきました。「ぼくはだめな人間だ」と、ひとりごとを言いました。「ぼくみたいな役立たずは、他にいないはずだ。ぼくなんか、生まれてこなければよかったのではないだろうか」。でもすぐに、お母さんのことが頭にうかび、そのように考えるのはやめました。お母さんは、仕事から帰ってきてポールの顔を見ると、いつでも喜びの笑顔を浮かべ、彼を強くだきしめてくれるのです。

強い風で、窓がガタガタ鳴り、となりの部屋では、ブラインドもカタカタ音を立てています。しばらく嵐を見ていたポールは怖くなり、目をそらそうとしました。しかしすぐに、また彼の目は、外の何かにくぎづけになりました。窓台のはしに、何かがいます。小さな鳥のように見えます。そう、それはまぎれもなく、一羽の鳥でした。窓のたなに、しがみついていたのです。

ポールは、「まあ、かわいそうな小鳥さん、ぼくが助けてあげるからね」と話しかけました。それから窓をあけ、そっと手を伸ばしました。つっかい棒がないと、窓はすぐに落ちてきて、閉じてしまいます。その窓が、彼の肩に重くのしかかります。

ポールは肩の痛みをこらえながら、夢中で小鳥を救出しようとしました。

はじめ、小鳥は吹き飛ばされそうになっていましたが、風向きが変わり、風に押されて、家の中に飛びこんできました。窓を閉めるとすぐに、ポールはずぶぬれになった小鳥をひろいあげ、その羽を優しくふいてあげました。小鳥は、しばらく手の中でじっと横たわっていました。息もしていないように見えました。それからゆっくりと起きあがりましたが、寒さでぶるぶる震えていました。そこでポールは、まず毛布で自分自身をくるみ、小鳥を毛布の中で抱いてあげました。暖かい腕と毛布の中で、小鳥はすぐに眠ってしまいました。すやすや眠っている小鳥を見ていると、ポールはとても幸せな気持ちになりました。そしてしばらくすると、彼も眠ってしまったのでした。

（続く）

第2章
自分以外の人をどうやって愛するか

暗唱聖句

「神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである」。―Ⅰヨハネ4：11

日曜日

神様のすばらしい十戒の最後の六つは、どのようにして、自分を愛するように他の人たちを愛するかが、述べられています。

出エジプト記20章12節の、第五条から始めましょう。何と書かれていますか？

両親〔父と母〕を敬うとは、どういう意味だと思いますか？お父さんとお母さんに「愛しています」と言ったり、贈り物をあげたりするよりも、もっと深い意味がありますか？あなたはどう思いますか？

両親を敬うとは、彼らを愛し、彼らに従うことを意味します。両親を愛し、彼らに従うことを学ぶにつれて、神様を愛し、神様に従うことを、私たちは学ぶのです。ならば、それはとても大切なことではないでしょうか？もちろん大切です。愛の神様とその律法に従うことを学ばなければ、私たちは、サタンの言いなりになるしかありませんよね。

あなたは、すぐに従うことを学んでいるでしょうか？あなたは思いやりがあって、役に立つ子供でしょうか？もしそうであれば、あなたは両親を敬っています。

おじいさんとおばあさんに対しては、どうでしょうか？彼らを敬うことも、この戒めを守ることになります。私たちがおじいさんとおばあさんを愛し、思いやりを示すなら、彼らはとても喜んでくれるはずです。おじいさんとおばあさんを敬う方法に、どのようなものがありますか？

天の神様が自分の父であることを知ったとき、イエス様はまだ12歳でした。その時、もうヨセフとマリヤに従う必要はないと決めたのでしょうか？いいえ。

30歳になったとき、イエス様は両親の家を去り、ある特別な働きを始められました。そもそも彼は、その働きをするために、

この世界に来られたのでした。しかしその時まで、イエス様はどこで、何をしておられたのでしょうか？**ルカによる福音書2章の51節**を読んでください。

十字架の上で今にも死のうとしておられた時でも、イエス様は、お母さんのことを考えておられました。**ヨハネ19：26, 27**。両親を敬いなさいとの戒めに、イエス様は最後まで従ったのでした。私たちのために、すばらしい模範を残されましたね。

考えてみよう：神様もサタンも、両親に従えば、私たちも彼らも幸せになることを知っています。私たちがめそめそしたり、いじけたり、ぶつぶつ言ったりするのは、父と母を敬うことになるでしょうか？口ごたえをしたり、すぐに言うことを聞かなかったりするのはどうでしょう？この大事な戒めに、もっとよく従えるようになるために、あなたができることを考えてみましょう。

月曜日

第六の戒めに従わないとはどういうことか、想像することができますか？**出エジプト20：3**。他の人を殺す人たちが、本当にいるのでしょうか？残念ながら、私たちの世界には、人殺しをする人たちが多くいて、それはとても悲しいことですね。ニュースで、戦争や殺人のことが取りあげられない日はありません。

中には、自分で自分を殺す人たちもいます。自殺といいますが、それは、銃や毒物を使って行なうものだけではありません。お酒を飲んだり、たばこを吸ったり、あるいは体によくない物をこのんで食べるといった悪い習慣によって、ゆっくり自分自身を殺すこともできるのです。人々にこの戒めを破らせようと、サタンはできるかぎりのことをしています。

たたかいや殺し合いのビデオゲームやおもちゃ、またはまんがの本などはどうでしょう？このようなものでイエス様が遊んでいるのを、想像することができますか？イエス様だったら、おもちゃの銃をつくったり、それで遊んだりすると思いますか？おもちゃの銃や、あるいは自分の人さし指を人に向けて、うつまねをすると思いますか？

カインとアベルの物語を覚えていますか？カインは、どんな気持ちになったのでしょう？**創世記4：5**。憎しみや怒りは、殺人となにか関係がありますか？**ヨハネ第一の手紙3章の15節**を読んでください。

つまり、私たちが誰かをおこったり嫌ったりしているとしたら、それは第六の戒め

を破っていることになるのでしょうか?だとしたら、それは大変なことですね。自分はいい人間だと言いながら、イエス様を憎み、彼を殺そうとたくらんでいる人たちに向かって、彼らは誰の子供であるとイエス様は言われましたか?**ヨハネによる福音書8章の37節と44節**を読んでください。

考えてみよう: 第六の戒めは、思っていたよりも深い意味がありますか?あなたはそれに従いたいですか?あなたは、他の子供たちの模範〔見習うべき手本〕になれますか?そのようになろうと努力するなら、イエス様が喜んで助けてくださいます。

火曜日

出エジプト記20章の14節を読んでください。この戒めは、お父さんとお母さんが、幸せな家庭をつくる手助けをしてくれます。この戒めは、子供たちが幸せになる手助けもしてくれます。

この戒めを破らせることができれば、私たちが不幸になることを、サタンはよく知っていて、彼は私たちを誘惑する機会をうかがっています。

男の子と女の子をかってにくっつけて、恋人どうしにしてしまい、その人たちをからかうといういたずらを、見たり聞いたりしたことがありますか?そのようないたずらは、とてもばかげていて、よくないものです。それは、私たちが大きくなって、ちょうどいい時に、神様が与えようとしておられる幸福な家庭を、だいなしにする危険があるのです。

サタンは、私たちにこの戒めを破らせようとして、いろんな悪いことを見たり聞いたりさせようとしています。しかしイエス様は、心をきれいに保つために必要な勇気と力を、私たちに与えようとしておられるのです。

考えてみよう: つつしみ深い服装や行動は、私たちがこの大事な戒めを守る手助けをしてくれると思いますか?ならば、男の子と女の子をかってにカップルにして、からかうのはやめよう、または自分がからかわれても、気にするのはやめようと、今すぐ決心してはどうでしょうか?

水曜日

ある戒めはとても短くても、じっさいは多くを語っていることが、分かってきましたね。八番目の戒めは何ですか。**出エジプト20:15**。

もちろん、どろぼうや強盗がどういう人たちかは、だれでも知っていますね。ふだん私たちは、彼らがやるようなことを、自分は絶対にやらないと考えています。かえって私たちは、そのような悪い人たちをとりしまる法律があり、警察官がいることを感謝していますよね。

盗むとは、どういうことですか?自分のではない何かを、勝手にとることではな

いでしょうか？

ふだん私たちが考えていることとは違う種類の、盗みというものがありますか？クッキーをつまみ食いするのは、盗みでしょうか？何かを借りて、返さないのも、盗むのと同じではないでしょうか？

多くの忙しい人にとって、時間というのは、とても大切なものです。いつも時間に遅れて、きちんと時間を守る人たちを待たせるのは、彼らの時間を盗んでいることにならないでしょうか？

安息日はどうでしょう？安息日は、神様の特別な時間です。神様の時間のまちがった過ごし方も、盗みではないでしょうか？

サタンは、神様からこの世界を盗もうとしましたが、それでも、この世界とその中のすべては、神様のものです。**詩篇50：10－12**。私たちがもうけるお金や物のうち、十分の一はご自分のものであると、神様は言われました。私たちがもうけるお金や物は、すべて神様が与えてくださるのですが、そのうちの十分の一までも自分のために使うならば、それは何をしていることであると、神様は言われますか？**マラキ書3章の8節**を読んでください。

ほとんどの人は、神様から盗んでも、そのことに気づいていません。またそうすることによって、どれほどの祝福をのがしているかも分かっていません。

9節と10節を読んでください。

考えてみよう：これからは、ずっと正直に、また誠実〔正しく真実であること〕に生きることを決心するなら、あなたの人生はどのように変わると思いますか？

木曜日

まず、9番目の戒めを読んでください。**出エジプト20：16**。

偽証するというのは、うそをつくのと同じことです。しかし、「隣人について」とは、どういう意味でしょう？私たちの隣人とは、だれのことでしょう？となり近所に住んでいる人たちだけが、私たちの隣人なのでしょうか？ある日、ひとりの律法学者が、わたしの隣人とは誰のことですか、とイエス様に尋ねました。**ルカ10：25－29**。

その時、イエス様は、世界中のすべての人が、ひとつの大きな家族であることを教えてくれる、ある物語をお話しになりました。**30節から37節**を読んでください。私たちは、だれもがお互いを必要としていて、助けを必要としている人はだれでも、私たちの隣人なのです。ですから私たちは、お互いに、相手のことを気にかける必要があります。そうすれば、私たちみんなが、親切で頼りになる人になる

はずです。人に対して、うそをつかなくなります。どんなごまかしも、決してしなくなります。イエス様のお話の中で、神様の律法を守っているふりをしていた人たちは、他の人を自分のように愛していませんでした。ふりをするというのも、うそをつくようなものです。

うそをつくのにも、いろいろな方法がありますね。では、大きなうそとか、小さなうそとかは、あるのでしょうか？小さいうそなら、神様は気になさならないでしょうか？これらの質問の正しい答えは何か、イエス様に尋ねてみてください。**右のわくの中に、考えるべき質問を、いくつかのせました。**

考えてみよう：サタンが、天国とこの世界で、あらゆる問題や不幸をひき起したとき、すべてはうそから始まりました。イエス様が私たちを天国へ連れていって、この世界を新しくつくり変えるとき、そこにはうそをつく人がひとりでもいますか？イエス様が私たちに、いつでも本当のことを言うように学ばせようとしておられる理由が、この質問の答えに隠されています。

十戒の第９条

下のあいているところに、「はい」か「いいえ」かを書きなさい：

小さなうそは、この戒めを破っていることになりますか？＿＿＿＿

何も言わなくても、うそをつくことはできますか？＿＿＿＿

どうやって？いくつかの方法を考えてみましょう。

テストでカンニングをすることは、うそをつくことと同じですか？

＿＿＿＿なぜ？

いつも本当のことを言わない人を、信頼することができますか？

＿＿＿＿

いつも本当のことを言う人を、あなたは好きになれますか？＿＿＿＿

あなたは、いつも本当のことを言う人になりたいですか？＿＿＿＿

金曜日

十番目の戒めを読んでみましょう？
出エジプト 20：17。

むさぼるとは、どういう意味ですか？それは、自分のものではない何かを、または私たちにとってよくない何かを、かってにほしがることです。そして、他の戒めについても言えることですが、むさぼりは、心の中で始まります。

サタンが初めて、神様についてうそをつく前に、彼は神様の栄光と権力について考え、それらのもの—特にイエス様の栄光と権力をほしがったのでした。彼は、イエス様と同じくらい偉くなりたかったのです。そのことばかり考えているうちに、いろいろなうそを考えついたのでした。

これは、心の中で行われるものなので、むさぼる癖をつけるのは、とても簡単なことです。そのような癖がつくと、持っていないものをいつも欲しがるようになり、そういった願いがかなえば、自分は幸せになれると考えてしまうのです。そうなると、いつも他人をねたみ、うらやむようになり、かえって不幸せになってしまいます。なぜなら、たとえ欲しいものが手に入ったとしても、決して満足はしないからです。もっとほかの何かが欲しくなります。

ピリピ人への手紙 4 章 11 節と**テモテ第一の手紙 6 章 8 節**に、本当に幸せになる秘訣〔とっておきの方法〕が書かれています。いつも満足し、幸せでいられるというのは、すばらしいことではないでしょうか？

考えてみよう：むさぼったことは、ありますか？友だちのようになりたくて、洋服や、何か他のものをねだったりしたことがありますか？他の誰かさんのように、もっと人気者に、もっときれいな人に、またはもっと才能のある人になれたら、もっと幸せになれると、考えたことがありますか？イエス様にすべてを任せて、満足してみてはどうでしょう？

もっと学ぼう！

★出エジプト記 20:12-17

★人類のあけぼの上巻 p. 359-361

ポールのカナリアーパート2

エイミー・シェラード

ポールは足の不自由な少年で、お母さんと二人で貧しい長屋に住んでいました。ある嵐の日、強い風にあおられて、一羽の小鳥が、窓から部屋の中に飛び込んできました。

その日、お母さんが仕事から帰ってくると、ポールが毛布にくるまって寝ていたので、びっくりしてしまいました。お母さんは、「ポール、気分でも悪いの?」と心配そうな声でたずねながら、彼のところにかけよりました。

ポールは目を覚まし、お母さんを見てにっこりしました。すぐに嵐のときの出来事を思い出したのです。「気分は悪くないよ。嵐が吹き荒れているときに、窓からこんなものが部屋に飛びこんできたんだ」。

ポールが毛布を広げると、かわいい小鳥があらわれたので、お母さんもにっこりしました。ポールは、起こったことを全部、お母さんに話しました。「ペットと呼ぶことにしたんだ。かわいいでしょ?」と彼は言いました。

確かに、とてもかわいい小鳥だと、お母さんは思いましたが、羽のひとつが傷ついて、少したれさがっていました。よく見ると、小さな足の指も、二本なくなっていました。ペットは、お母さんを見て、チュッチュッと鳴きました。小鳥は、暖かくてかわいたところが好きでした。ポールとお母さんが話している間、ペットは、やわらかくて黄色い羽毛をふくらませて、ていねいに毛づくろいをしていました。

「きっと、お腹をすかせているでしょうね」とお母さんが言いました。「近所に、小鳥を飼っている人がいるから、エサを少し分けてもらえるか、聞いてくるわ」。

すぐにお母さんは、小鳥のエサをもって戻ってきました。ペットが夢中でそれを食べるのを見て、二人は笑ってしまいました。ペットのために、小さいコップに水も入れてあげました。

寝る時間になって、ポールは、棒を二脚のいすに引っかけ、ペットがその棒の上で眠れるようにしてあげました。小鳥は頭を羽の下にうずめて、すぐにぐっすり眠ってしまいました。

その日から、ポールは寂しくなくなりました。でも、ペットを飼うには、もっとエサが必要です。お母さんには、エサを買

うよぶんのお金はありません。ポールは、「ペットのエサ代は、ぼくがどうにかして稼がなくては」と自分に言い聞かせました。

それから彼は、すぐ隣に住んでいる、ジェーンのことを考えました。ジェーンの部屋は、建物から突き出ていて、彼女とポールは、窓ごしに顔をあわせて、よく話をしました。ジェーンは、足の不自由な少年のことを、気の毒に思っていました。彼女はよく、「こんにちは、ポール」と声をかけてくれます。ポールは、彼女が時々いすにすわって、手で何かを作っていたのを思い出しました。何か、内職〔家でお金をかせぐためにする、ちょっとした仕事〕をしていたのだろうと思いました。もしかしたらジェーンは、何か手を使ってやる仕事について知っていて、自分にそのことを教えてくれるかもしれない、と彼は考えたのです。

ポールは足が不自由で、体も少し曲がっていましたが、手はふつうの人のように使うことができました。指もまっすぐで、足が不自由な分、ふつうの子供よりも力がありました。

ポールは、窓のところまで体をひきずっていきました。となりの窓の近くには、ちょうどジェーンがいます。そして思った通り、彼女は、忙しそうに手で何かを作っていました。

ポールがジェーンを呼ぶと、彼女は顔をあげ、にっこりしました。

「何を作っているの、ジェーン?」とポールが尋ねました。

「何か、レースのようなものを作っているのよ」と彼女は答えました。

「むずかしいの?」

「いいえ、かんたんよ!あなたでも、できるようになるわよ」。

「ペットのエサを買えるくらいのお金が稼げるかな?」

「もちろんよ。私が教えてあげようか?」

「うん、頼むよ!」

「それじゃあ、今日の夕方にでも、お宅におじゃまするわ」とジェーンは約束してくれました。ポールは、彼女の来るのが、まちどおしくてたまりませんでした。

(続く)

第3章
破られた約束

子供のための日々の
聖書研究ガイド

暗唱聖句

「あなたはわたしのほかに、
なにものをも神としてはならない」。
—出エジプト記 20：3

日曜日

神様の十戒を学ぶのは、楽しいですか？それらを、ぜんぶ覚えましたか？

神様は私たちを愛しておられ、私たちが、世界で一番幸せな民になることを望んでおられます。神様は、そのために十戒を与えてくださったのです。いつも神様のそばにいて、信頼しているなら、神様が、十戒を守る手助けをしてくださいます。

神様がシナイ山で十戒をお語りになり、人々がその驚くほど大きな力を見たとき、彼らは、とても怖くなってしまいました。彼らはモーセに、あなたが神様と語って、それから私たちに、どうすべきかを話してくださいとお願いしました。彼らはまだ、神様に信頼することと、神様の愛について、学んでいる途中でした。彼らは、神様が言われることはすべて行いますと、まじめに約束したばかりでした。

そこでモーセは、黒い雲におおわれている山に、ひとりで登っていきました。山からおりてくると、彼は注意ぶかく、契約の本と呼ばれる巻物に、神様が語られたことを書きました。それからみんなで、とても大事な、特別な集会をもちました。その集会で、モーセは何をしましたか？出エジプト 24：7。

民はふたたび、従うことを約束しました。

彼らは、本当に従うつもりだったと思いますか？そう、彼らは本気でした。それからモーセは、ふたたび山に登り、神様とお話ししました。この時には、だれがいっしょに行きましたか？9節。

モーセとアロン、そしてアロンの息子たちと七十人の長老たちがキャンプに戻ってきたとき、民が自分たちの約束を覚えていられるように、ある特別なものを与えると、神様はモーセに言われました。それは何でしたか？何に書かれていましたか？12節を読んでください。

こんどは、ヨシュアだけが、モーセと行くことになりました。二人がいない間は、だれが民の責任者でしたか？13，14節。

考えてみよう：この時までに、イスラエル人たちが自由の身になってから、何週間もたっていました。神様にとって不可能〔できないこと〕はないということを、神様は証明しておられましたか？彼らのために行われた、すばらしいふしぎな出来事を、あなたは五つぐらい思い出すことができますか？

月曜日

どの国にも、民〔人々〕を守り、お互いの争いごとをうまく片づけるための、法律というものがあります。また、法律に従わない人を罰する決まりもあります。

イスラエルは大きな国になろうとしていたので、人々を安全で幸福にするための法律〔または律法〕が必要でした。十戒に従うという約束を、彼らが守る手助けをしたいと、神様は望んでおられました。神様の助けを借りるようになれば、彼らは神様を心から愛し、信頼し、従うはずでした。また人々は、心から愛し合うようになるはずでした。そうなっていたら、イスラエルは、どれほどすばらしい国になっていたことでしょう。

さて、モーセとヨシュアは山の上にいました。その時にもまた、すばらしいことが起こりました。出エジプト記24章16節から18節を読んでください。

40日にわたり、神様は、ご自分の民がどのように律法を守るべきかについて、モーセに多くのことを語られました。またモーセに、だれが神様を愛し、信頼し、従うことを選んでいるかを示す、特別なしるしについても語られました。出エジプト31：16－17。

それから神様は、モーセに十戒を与えられたのでした。18節。

考えてみよう：十戒は、だれがどのように書きましたか？何の上に書かれていましたか？とてもかたい石の上に刻まれたものは、かんたんに消すことができますか？いいえ。神様の律法は決して変えられないことを、神様は私たちに知ってほしいと望んでおられると、あなたは思いますか？

火曜日

山のふもとでは、人々が、モーセとヨシュアの帰りを待っていました。何日もたちました。何週間もたちました。人々は、おちつかなくなってきました。もしかしたら、モーセとヨシュアはもう戻ってこないかもしれない。

神の民といっしょにエジプトを出てきた、「入り混じった群衆」を覚えていますか？ほとんどの場合、最初に文句を言いだすのが、この「入り混じった群衆」でした。この時、彼らは、自分たちがいいと思っていることを、イスラエルの人々にすすめたのでした。出エジプト 32：1。

モーセがるすの間、アロンが代わりをまかされていました。今こそ、神様の約束に信頼するよう、民に教え、彼らを助ける、すばらしいチャンスでした。ところが、何が起こりましたか？2－5 節。

モーセのお兄さんのアロンが、あのようなことをしてしまうなんて、信じられないですね。どうして、そんなにおくびょうになってしまったのでしょう？

あのようなことが起ころうとは、モーセは思ってもみませんでした。でも、神様はご存知でしたか？もちろん、ご存知でした。とうとう、山の上で六週間ちかくもすごしたあとで、神様が、ふもとの様子を彼に告げました。それから、神様はモーセをテストなさいました。民は神様に信頼することを拒みつづけるので、彼らを滅ぼして、モーセの家族だけを救おう、とおっしゃったのです。10 節。

モーセは、すぐに断りました。神様がご自分の民を愛しておられることを、彼は知っていました。もし神様がイスラエル人を滅ぼされたら、エジプト人はどう思うだろうと考えて、彼はたまらない気持ちになったのでした。12 節。

考えてみよう：もしも指導者が間違ったことをしていたら、自分も同じようにまちがうのは簡単ですか？もしアロンが、神様に信頼して従ったなら、神様は彼をお助けになったでしょうか？怖くなったからといって、神様の律法に逆らうのは、言い訳になるでしょうか？あなたはどう思いますか？

水曜日

すでに人々は、神様とかわした聖なる契約、または約束を破ってしまったと、神様はモーセに告げられました。ヨシュアといっしょに山をおりるとき、モーセは、何かを注意ぶかくたずさえていました。それは何でしたか？出エジプト 32：

15，16。

それから、奇妙な〔めずらしく、ふしぎな〕音が聞こえてきました。ヨシュアは、何の音だと思いましたか？ 17 節。けれども、モーセには分かっていました。彼は、ヨシュアに何と言いましたか？ 18 節。

キャンプに近づくと、人々が偶像のまわりを踊りながら、叫んでいるのが見えました。モーセは、ぞっとしました。人々は、約束を完全に破ってしまったのです。まったく約束などしていないかのようでした。

彼らのふるまいは、まるで偶像を拝む異教徒のようでした。

モーセの姿を目にしたとき、彼らはすぐに、自分たちのしていることをやめました。人々は、モーセが何かを持ち上げて、それを力いっぱい地面にたたきつけるのを見ました。するとそれは、すさまじい音をたてて砕けました。次に、何が起こりましたか？ 19 － 21 節を読んでください。

アロンの言い訳を聞いているときに、心から神様に忠実にしたがう人は、ひとりもいないのだろうかと、モーセは思いました。そのような人を、どうやって見つけだすことができるでしょうか？神様に忠実で、モーセの味方になったのは、どの部族の人たちでしたか？ 26 － 28 節。

忠実であることを選んだ人たちは、ほかの部族にも多くいました。彼らは、自分たちのしたことを、心から悪かったと思ったのでした。

いつまでも逆らい続けた人たちは、すぐに罰しなければならないことを、神様はご存知でした。自分たちの罪がどれほど

恐ろしいものであるかを、みんなが知らなくてはいけませんでした。

考えてみよう： 人々が破ったのは、十戒のどの戒めとどの戒めでしたか？モーセは激しく怒りましたが、それは間違いでしたか？たとえ怒っても、罪にはならない場合があると、聖書は言っています。エペソ4：26。神は、罪を憎まれます。私たちは、罪を犯すと、かならず傷つきます。神様とモーセは、イスラエルの人々を愛していたので、彼らの罪を怒ったのです。罪は、それと関わる人をかならず傷つけるので、そのことを知っている人は、怒りを覚えるのです。私たちは、人を愛して罪を憎まなくてはいけません。そして、他の人たちが神様に従う手助けをしてあげなくてはいけません。

木曜日

イスラエルの人たちは、十戒を守ることを約束していましたが、自分の力で守ることができると、本気で思っていました。神様にまったく信頼しないかぎり、決して従うことはできないことを、神様は、何度もなんども教えようとなさいましたが、彼らは理解しませんでした。

罪が私たちの世界に入ってきていらい、すべての人は、生まれつき神様に逆らうようになっています。だれもが、生まれつき、悪いことをしたいのです。なんど約束しようとも、イエス様が私たちを助けてくださらなければ、従うことは決してできないのです。イエス様は私たちを助け、私たちを完全に変えたいと望んでおられます。それを、ありがたいと感じていますか?

神様がお書きになった石の板を、モーセがこなごなにしたとき、人々は、自分たちが約束を破ったことを悟りました。彼らは、律法にそむいたのです。気がつけば、偶像を拝んでいました。自分から進んで約束を破ったので、悪いのは自分たちであることを、人々は知っていました。「神様は、私たちに罰をお与えになるのだろうか?ゆるしてくださらないのだろうか?」と、彼らは考えました。

もちろん、神様は彼らをゆるすつもりでした。たとえ神様に逆らっても、そのことを心から悪かったと思うならば、神様はいつでもゆるしてくださいます。アダムとエバが最初に罪を犯したときから、神様は、ゆるしを与えると約束しておられたのでした。この約束は、決して変わることはありませんでした。

神様は、ご自分がどれほど彼らを愛し、ゆるしたいと思っているかを、彼らに分かってもらいたいと望んでおられ、そのために、すばらしい計画をたてられたのでした。つまりそれは、彼らが十戒を守るのを助けるための計画でした。その計画をモーセに伝えるために、神様は、彼をもういちど山に呼ばれたのでした。

考えてみよう: 私たちが十戒を破ったからといって、その中のひとつの戒めでも、変えられることがありますか?いいえ。これまで、神様の完全な律法が変えられたことはいちどもなく、これからも、変えられることは決してありません。神様に信頼して従う人たちが、最後にどうなるかについて、聖書が何と言っているか読んでみましょう。**黙示録 14:12;22:14**。イエス様を選んだことを、あなたは喜んでいますか?

金曜日

ふたたび、モーセは40日間、山の上にいました。このときも、神様といっしょに過ごしていたのです。きっと、すばらしい経験だったことでしょう。それは、学校で学んでいるようなものでした。もちろん、神様が先生でした。

出エジプト記34章の1節から4節までを読んでください。神様はモーセに、何をもってくるようにと言われましたか？

神様は、十戒について、ていねいに説明なさいました。モーセが、イスラエルの人たちに、十戒をきちんと教えられるようになるためでした。もういちど、神様は十戒をお書きになりました。この時は、モーセが山に運んできた、二枚の石の板に書かれました。

モーセが山にいた間中、神様は、ある特別な力を彼に与えられました。40日間、モーセはまったく疲れなかったので、眠る必要がありませんでした。のどがかわくことも、お腹がすくこともなかったので、飲んだり食べたりする必要もありませんでした。

モーセは、神様の栄光を見ました。神様の愛とあわれみについて、さらに多くのことを学びました。また、イスラエルの人たちに与えるための、さらに多くの指示も受けました。

あなたもそこにいて、モーセと神様がいっしょにいる様子を見て、彼らの話を聞いてみたかったと思いませんか？神様とお話するというのは、どのようなものなのでしょうね。モーセは、天使たちにも会ったと思いますか？天使たちの歌を聞いたかもしれませんね。彼も、天使たちといっしょに、神様を賛美したかもしれませんね。

出エジプト記、レビ記、民数記、申命記を勉強すれば、40日の間に、神様が山の上で教えられたことについて、多くのことを学べます。

二度目の40日間に、神様とモーセはとても親しく語り合ったので、モーセの顔は、神様の栄光で輝いていました。イスラエルの人たちは、モーセの帰りを熱心に待ちわびていました。でも、山から戻ってきた彼を見て、人々はどうしましたか？**29－35節**。

考えてみよう：モーセが山にいる間、神様との契約について、人々に分かりやすく教えるための、あるすばらしい計画が示されました。それについては、来週から学び始めます。

もっと学ぼう！

★出エジプト記24、32、34章

★人類のあけぼの上巻 p. 361-404

★あがないの歴史 p. 175-185

ポールのカナリア―パート３

エイミー・シェラード

ポールの隣に住んでいるジェーンが、嵐の日に、ポールのへやに飛びこんできた、ペットというカナリアのエサ代をかせぐ方法を教えると約束してくれました。

ジェーンは約束どおり、ポールに編み物のやり方を教えてくれました。習い始めてすぐに、ポールは、自分にもできる仕事であることが分かりました。ペットも、ポールのやることにたいへん興味を持ったみたいで、彼が使っていた糸をくちばしで引っぱったり、彼の仕事について、鳥の言葉でああだこうだと言ったりしていました。しかし、ペットのやることは仕事のじゃまだったので、ポールはペットをとまり木に戻しました。しばらくすると、ついにポールの編み物が完成しました。

ジェーンは、とても喜んでくれました。彼女は、興奮している少年に向かって、「あなたが作ったものは、私が売ってあげるわ」と言ってくれました。「この仕事をがんばれば、きっとペットのエサと、鳥かごが買えるようになるわよ」。

ポールは笑いながら、ジェーンに、「ペットには、鳥かごはいらないんだよ」と言いました。「でも、お母さんのために、オレンジかリンゴが買えるようになるかもね」。

ペットはとても頭のいい小鳥で、じきに、ポールが教えたいろいろな芸を覚えてしまいました。そのひとつが、死んだふりをすることでした。死んだふりをするようにポールが言うと、すぐにペットはあおむけに寝っころがり、そのまま動かなくなります。またポールが、自分のくちびるの間に種をはさむと、ペットはやさしく種をくちばしでとってから、それを食べてしまいます。

中には、ペットが自分で考え出した芸もありました。ポールが仕事に熱中していて、自分と遊んでくれないと、ペットは彼の頭の上に飛んでいき、髪の毛を引っぱるのです。ときには、まゆ毛を引っぱることもあります。

お母さんは、ポールの変化にたいへん驚きました。以前は、静かに、寂しそうにすわっていただけなのに、今では、指を忙しく動かしながら歌っているのです。ペットも、ポールといっしょに、よく歌いました。今では、ポールのじゃまをすることもなく、彼のひざの上にすわって、仕事をする彼をじっと見ています。ポールは心だけでなく、体もどん

どん成長し、背も伸びていることが、お母さんにはよく分かりました。いつの日か、彼も大人になって、自分のめんどうを見てくれるようになるだろうと、お母さんは思いました。

ある朝、まだ日が昇らない前の、とても早い時間に、とてもはらはらさせられるようなことが起こりました。ペットがけん命に髪の毛とまゆ毛を引っぱるので、ポールは目を覚ましました。「もう少し寝かせてくれよ。まだ起きる時間じゃないんだから」と言いながら、小鳥をとまり木に戻そうとしました。ところが、ペットは言うことを聞こうとしません。

ペットをつかもうと手を伸ばしたときに、壁に手がふれました。どういうわけか、壁が熱くなっていました。

ポールは、「お母さん、起きて!壁が、ものすごく熱いんだけど」と呼びかけました。お母さんは、ろうかに走っていって、近所の人たちを起こしました。間もなく、消防士がかけつけてきて、すぐに隣のへやの火を消してくれました。でも、ポールとお母さんのへやも、かなり焼けてしまいました。隣のへやにあったストーブのすぐ近くに服がかけてあって、その服に火がついてしまったのでした。

職人さんたちがきて、ポールたちの部屋を直している間、ポールとペットは、ジェーンの家族のところに泊めてもらいました。長屋の人たちが、建物と、そこに住んでいる人たちの命を救ったカナリアを見にやってきました。長屋の持ち主もやってきました。多くの人の命が助かり、もし建物が焼け落ちていたら、たくさんのお金も損することになったはずなので、彼はとても感謝していました。火事が他のへやに広がる前に、ペットがポールを起こしたおかげで、被害は少なくてすんだのでした。

火事の被害にあったへやの修理が終わったあとで、長屋の持ち主が、何かお礼をさせてほしいとポールに頼みました。

そこでポールは、「外に出られるようになるための、松葉づえが欲しいんですけど」と遠慮がちに答えました。

長屋の持ち主は、喜んで松葉づえを買ってくれました。ポールのお母さんのために、新しいミシンも買ってくれました。これで、お母さんも、外に出て行かないで、ポールと家の中で過ごしながら、仕事をすることができます。さらに彼は、ペットの鳥かごと、一年分のエサまで買ってくれました。

迷子の小鳥に出会ってから、ポールの人生は大きく変わりました。ポールだけでなく、お母さんや、その他おおぜいの人たちも、ペットのおかげでとても幸せになりました。あの小さなカナリアは、私たちのよき模範だとは思いませんか?

第4章
神様の住まわれる場所

暗唱聖句

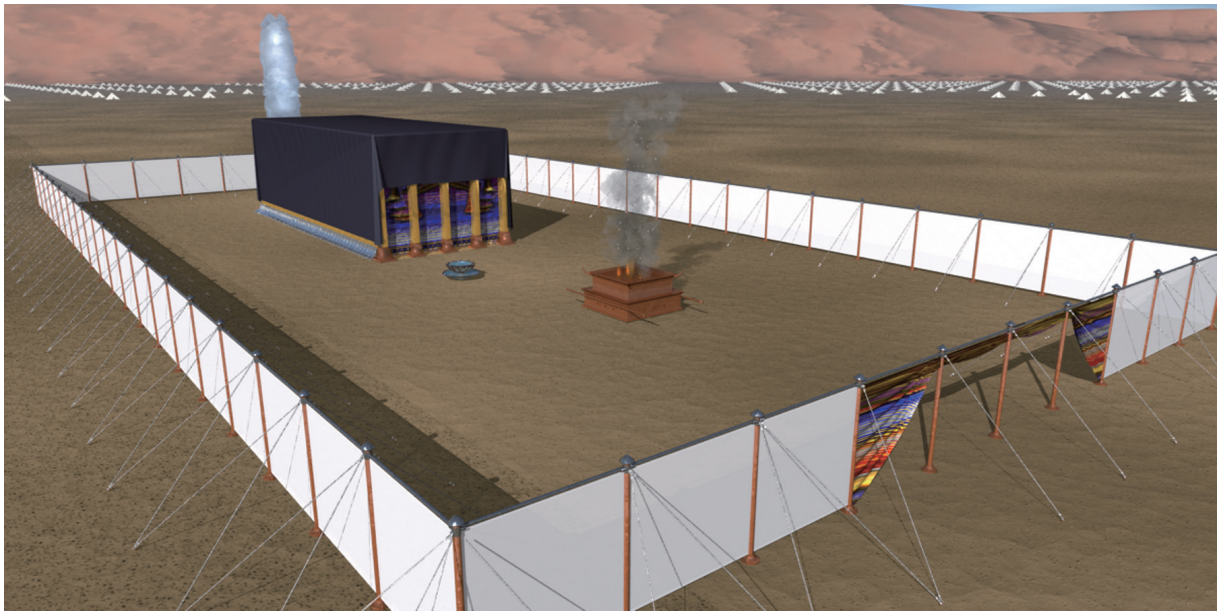
「また、彼らにわたしのために聖所を造らせなさい。わたしが彼らのうちに住むためである」。
—出エジプト記25：8

日曜日

神様がテントに住まわれるなんて、考えられますか？今週は、イスラエルの人たちが荒野をさまよっていたころ、神様が住んでおられた特別なテントについて学びます。

イスラエルの人たちは、テント〔天幕〕に住んでいましたよね。テントなら、砂漠を旅していても、場所から場所へと、かんたんに移すことができました。ちょうどそのころ、神様の家もテントであったというのは、驚くべきことでしょうか？神様は、ご自分の民と親しくなって、敵であるサタンから彼らを救うための計画を分かってもらいたいと、望んでおられました。

カナンの地で、イスラエル人が自分たちの家を建てて住むようになった後でも、神様はまだ、このテントに住んでおられました。約四百年もの間、神様はテントの家にとどまられました。ただし、それはた



Sean Eichelberger

だのテントではありませんでした。とても特別なテントだったのです。

あなたは、宝さがしは好きですか?テントとはいえ、神様の家は、美しい宝物でいっぱいでした。どんな泥棒でも、それらの宝物を盗むことはできませんでした。天使たちによって、守られていたからです。昼間は、雲の柱がテントの上にあって、砂漠の暑い太陽をふせぐ、影をつくっていました。また夜の間は、それがやんわりと光って、神様がそこにおられることと、そこを守っておられることを示していました。

あなたは、物語は好きですか?神様のテント〔天幕〕の中は、イエス様と、彼が私たちを救う計画についての物語であふれていました。そこには、イエス様がどうやって私たち一人ひとりの罪をおゆるしになるかについての、物語がありました。イエス様が、サタンを完全に打ち負かす物語もありました。喜ばしい物語もあれば、悲しい物語もありました。イエス様がこの世界に来られて、人の子として生きるようになるというのは、実に喜ばしい物語でした。

しかし、イエス様が私たちの罪のために死ぬことになるというのは、とても悲しい物語でした。それでも、イエス様に信頼するすべての人は、サタンと罪と死から自由になって、イエス様と共に永遠に生きるようになるというのが、すべての物語の結末〔終わりの部分〕なので、どの物語もハッピーエンドなのです。

神様のテントの家は、聖所、または幕屋と呼ばれました。

考えてみよう: 神様のテントの家について学ぶのは、楽しみですか?**ヨハネによる福音書3章の16節と17節**を読んでください。神様の聖所は、この聖句を理解する手助けをしてくれます。神様のすばらしい計画を、あなたは感謝していますか?ならば、神様にそのことを伝えましょう。

月曜日

山にいる間に、神様のテントの家を建てるための指示がモーセに与えられました。**出エジプト記25章の8節と9節**を読んでください。

もちろん、聖所が造られる前も、神様はいつでも民とともにおられました。けれども聖所は、神様にとって、さらに特別な場所だったのです。イスラエルのテント〔天幕〕のまん中に、とても神聖なテントが建てられることになりました。

おもちゃの人形の家や、プラモデル〔模型〕の飛行機を見たことがありますか?とても小さいものでも、本物の家や飛行機に似せてつくられてありますね。神様はモーセに、聖所の図案〔デザイン〕をお与えになりましたが、それは、天国にある神様のごうかな宮殿の小さな模型だったのです。

天国にある神様の宮殿は、私たちが考えるよりも、はるかに大きくて美しいものです。そこには、本物の神様の王座があり、またそこは、私たちを救うためのすばらしい計画が立てられた場所でもあり

ます。イエス様の弟子であったヨハネは、天の聖所の幻を見せられました。**黙示録11章の19節**を読んでください。

イスラエルの人たちや私たちに、人を救うための神様のすばらしい計画をよりよく理解させるために、神様は小さな模型をつくらせたのでした。

考えてみよう：私たちは、教会に行くとき、神様がそこで私たちに会ってくださるのだということを覚えていますか？イスラエル人が建てようとしていた聖所は、最初の教会堂でした。そのころの牧師たちは、祭司と呼ばれていました。

火曜日

モーセが山から帰ってきて、神様が彼に示されたことを人々に語ったとき、イスラエルのキャンプは喜びにわきました。神様の聖所をつくるための計画が、モーセに与えられていました。そして、だれにでも、聖所をつくるためのお手伝いをすることができました。

ところが、聖所の計画について話す前に、モーセは民に何を思い出させるようにと、神様から言われていましたか？**出エジプト35：1－3**。神様はもういちど、第四の戒めの中にある、特別なしるしを思い出させようとしておられました。

いよいよ、建築が始まりました。聖所は、神様の雲が導くところは、どこにでも行くことになっていたので、いつでも組み立てたり、ばらしたりできるようになっていて、持ち運びがしやすいものでした。しかし、聖所を建てるのに必要な、たくさんの材料をすべて、砂漠の中で、どうやって手に入れたらよいのでしょうか？**4節と5節**を読んでください。

民は、どのような気持ちで、ささげ物をすることになっていましたか？「心から喜んで」とありますね。いやいやながらささげられるものを、神様は受けたくありませんでした。

聖所を建てるのに必要な材料には、どのようなものがありましたか？**5－9節**。

聖所では、実にたくさんの材料が使われることになっていましたね。それらは、家具や幕〔カーテン〕、また祭司の着物、その他たくさんのものをつくるのに使われました。

モーセの話が終わったとき、人々は、それぞれのテントに帰っていきました。何をささげたらよいだろう？十分にささげることができるだろうか？奴隷であった彼らは、とても貧しかったのですが、エジプトを去

る少し前に、エジプト人たちから、たくさんの金や銀、衣服などをもらっていました。出エジプト 12：35 － 36。

しかしイスラエルの人々は、聖所を建てるために、これらの高価な物を喜んでささげるでしょうか？どのようなことが起こったか、見てみましょう。出エジプト 35：20 － 21，29。

神様にゆるされたことを感謝していた彼らは、その感謝の心を、ささげ物で表しました。あまりにもささげものが多かったので、最後は、もうささげなくてもよろしいと言わなくてはならなかったほどでした。出エジプト 36：4－7。

考えてみよう：牧師が、教会の人たちに、もう献金をしなくてもいいと言っているのを聞いたことがありますか？もしも神の民が、イスラエル人のようにささげたとしたら、イエス様の福音〔喜ばしい知らせ〕は、もっと早く伝わるだろうと思いませんか？あなたは、神様のために、何でも喜んでささげる気持ちがありますか？あなたがどんなに若かったとしても、イエス様は、あなたを用いることができるのです。

水曜日

聖所を建てるには、いろいろなタラント〔才能や能力〕をもった人が必要でした。働きにふさわしい人を、どうやって見つけたらよいのでしょう？だれが働きを助ける気持ちがあり、自分のタラントを喜んでささげるかを、神様はすでにご存知でした。そのような人たちに、神様は、もっと多くのタラントをお与えになりました。そのような人たちには、他の人たちに教える方法も示されました。

聖所を建てるために、たくさんの人たちが多くのささげ物をもってきて、建築の手伝いをする人たちも多く集まったので、神様はとてもお喜びになりました。モーセもたいへん喜びました。サタンはどれほど怒ったことでしょう。特別な民をおこすという神様の計画を、だいなしにしたと、彼は思っていたのでした。

すでに何度も言いましたが、聖所は、天国にある神様の大宮殿の模型となるのでした。どうしてそれが分かりますか？ヘブル 8：1－2，5。

模型は、それほど大きいものではありませんでした。長さは 16 メートルくらいで、幅は 5 メートルくらいでした。しかしそれは、人を救う神様の計画を、民に思い出させるものでした。ですから、すべて神様の指示どおり、正確に、きっちり造られなくてはいけませんでした。人々は、神様の図案〔デザイン〕に注意ぶかく従いましたか？出エジプト 39：42 － 43。

聖所または幕屋が完成したとき、これまでずっと彼らを導いてきた雲が動くのを、みんなが熱心に見ていました。神様は、それをお喜びになりましたか？出エジプト 40：34 － 38。

考えてみよう：神様がお与えになったすばらしい十戒に従うためのお手本を、私たちも持っていますか？そう、持っていますね。それは誰ですか？イエス様ですね。

イエス様というお手本を、あなたは喜んでいますか？

木曜日

聖所または幕屋を、想像力を働かせながら、訪ねてみましょう。まず朝早く、日が昇るころから始めます。白い衣を着た祭司のひとりが、私たちを案内してくれます。はじめに、案内役の祭司は、幕屋のまわりにある白いフェンスを見せてくれます。フェンスの高さは2メートル30センチくらいで、幕屋の高さはその倍くらいあるので、人々は、自分たちのテントから、幕屋の上のほうを見ることができます。けれどもフェンス自体は、美しい銀の柱の間にある、さおにかかった白い布でおおわれているので、フェンスの内側を直接見ることはできません。「フェンスの布は、どうして白いのですか？また、祭司の服も、どうして白いのですか？」と、案内役の祭司に尋ねてみました。「白い布は、イエス様が完全であることを、私たちに思い出させてくれます。彼は私たちの罪をゆるし、彼のきれいな生涯〔一生〕で、私たちをおおってくれるのです」という答えでした。祭司の白い衣は、私たちの模範〔お手本〕であるイエス様のようになることを、思い出させてくれる、ということでした。

Betty Lukens

門のところにやってくると、「この入口がどの方角を向いているか分かりますか？」と祭司が尋ねました。ちょうど、太陽が昇ってくるところだったので、すぐに「東」と答えることができました。祭司はさらに、「どうしてだか分りますか？」と尋ねます。少し考えてから、ある考えがうかびました。「異教徒〔偶像を拝む人〕たちは太陽を拝むので、神の民は、太陽に背を向けて、神様を礼拝できるように、ですか？」祭司はにっこりして、「その通りですよ」と言いました。

Sean Eichelberger

門には、青と紫と深紅〔濃い赤〕色で織られた、美しい幕があります。青は、イエス様が、十戒の中で、神様とその愛について私たちに示された真理をあらわしています。紫は、この世界が今でもイエス様のものであることをあらわしています。本物の王さまはサタンではなく、イエス様なのです。深紅色は、サタンから私たちを救うために、イエス様が流そうとしておられた血をあらわしています。幕のかかった門を通るときに、私たちは、神様のところへ行くただひとつの道は、イエス様だけであることを思い出すのです。

考えてみよう：門のところへ来るときに、私たちは、どうやってイエス様を思い出すことになっていますか？

金曜日

次に、聖所の外庭にやってきました。まず、約2メートル40センチ四方〔一辺の長さ〕の、大きな祭壇が見えます。祭壇は、ピカピカの青銅でおおわれています。新しい10円玉のような色です。

毎日、朝と夕に、子羊が殺され、たきぎといっしょに祭壇の上におかれて焼かれます。この祭壇では、他にもいろいろないけにえ〔犠牲〕がささげられました。いけにえが焼かれている間、それをささげる人々は、外庭で祈っています。いつの日か、汚れのない子羊のように、イエス様が彼らの罪のために死なれることを思いえがきながら、祈っているのです。

焼かれるいけにえからは、煙が立ちのぼっていくのが見えます。その煙は、まわりのテントからも、よく見ることができます。毎日、朝と夕にのぼっていく煙を見て、人々は、そのいけにえが何を意味しているかについて考えるのです。そして、自分たちの罪がゆるされるように祈り、イエス様のすばらしい愛を感謝するのです。

イエス様に罪をゆるしてもらったことを、イエス様によって義とされたとも言います。つまりそれは、私たちがイエス様を愛し、イエス様に従うことを選ぶとき、私たちの罪深い品性〔人格〕の代わりに、イエス様の汚れのない清い品性が与えられることを意味します。そのとき神様は、私たちのではなく、イエス様の完全な生涯と品性をご覧になるのです。そのとき私たちは、いちども罪を犯したことのない者とみなされるのです。そうなると、神様も私たちも、どれほど幸せになれることでしょう。

考えてみよう：イエス様を愛し、彼に従うことを選ぶとき、イエス様が私たちを助けてくださって、思いと行いの悪いところを変えてくださいます。すばらしい十戒に従うことを学べば学ぶほど、私たちは、ますますイエス様のようになるのです。イエス様を心から愛するならば、十戒に従わなかったときには悲しくなり、その罪を悔やむようになります。そして、彼のゆるしを求めるようになります。イエス様はどんな時でも私たちを愛してくださるので、彼に従うことを選び、助けを求める人を、変えてくださるのです。サタンがあなたを誘惑して、そんなことをしても無駄だとささやいても、その声に耳をかたむけてはいけません。

もっと学ぼう！

★出エジプト記25－27章；30章；31章；35章；36章；39：32－40；

★人類のあけぼの上巻 p. 405-423

★あがないの歴史 p. 186-193

小さな灯台守—パート1

エイミー・シェラード

メリーのお父さんは、灯台守〔灯台の番をする人〕でした。灯台というのは、海のそばにある高い塔で、そのてっぺんには部屋があって、そこから一晩中、明るい光を放ちます。その光が、そのあたりをとおる船に場所を知らせて、危ないところに近づかないよう注意をうながします。まるで、「船乗りさんたち、気をつけて！ここは砂と岩があるから、あまり近づかないように」と言っているようです。

かつて灯台守たちは、灯台に住みこみで働き、たびたびランプの手入れをしました。昔は、電気の明かりはなく、巨大な芯に火をともしていました。芯の後ろには反射板〔光を反射させるもの〕があって、火がつけられると、何倍にも明るくされた光が、海を照らすようになっていました。

メリーのお父さんが働いていた灯台は、ほとんどの時間、水におおわれている場所に建てられていました。けれども1日に3時間くらいは、潮が引いている間に、大きな岩の上を歩いて、陸にわたることができました。陸にわたっても、岩が水におおわれてしまう前には、かならず灯台に戻ることにしていました。メリーのお父さんは、毎日暗くなる前に、彼女が無事、灯台に戻れるように気をくばっていました。

ある日の午後、メリーはひとりで灯台にいました。潮が引いている間に、お父さんは岩をわたって、買い物に出かけました。「メリー、心配しなくてもいいからね」とお父さんは言いました。また、「岩が水におおわれる前に、お父さんはかならず戻ってくるからね。そして夕方になったら、いつものように明かりをともすから」と言ってから娘にキスをし、いそいで出ていきました。

メリーのお母さんは？お母さんは、2年前に亡くなってしまいました。メリーとお父さんは、彼女のことをとても恋しく思いました。けれどもメリーは、ひとりでもこわくありませんでした。お父さんはいつでも約束を守ることを、知っていたからです。また、やるべきことがたくさんあって、時間はあっというまに過ぎていきました。

6時になって、メリーは心配になってきました。灯台の小さな窓から外を見ながら、お父さんはどうしてまだ戻らないのだ

ろうと考えていました。もうすぐ、潮が満ちてきます。

7時になって、水がだんだんと岩をおおってきました。メリーは、窓から外をのぞきながら、「お父さん、いそいで」と思わず叫びました。「もう少ししたら、水が岩をおおってしまって、灯台の明かりをつける時間に間にあわないわ」。

そしてとうとう、水が岩をおおってしまい、あたりはどんどん暗くなってきました。おまけに、風が強くなってきて、黒い雲が空にひろがってきました。「たいへんだ、嵐がやってくるわ」と、メリーは思いました。今となっては、もうお父さんが戻るのは無理だということが、彼女にも分かりました。彼女ひとりでは、大きな芯に火をともして、嵐の中をとおりすぎる船に、光で危険を知らせることもできません。近くをとおりすぎる船は、灯台の光をあてにしているはずです。お父さんが大きな芯に火をともすのを、メリーは何度も見たことがありますが、彼女は小さすぎて、芯に火をつけることなどできないのです。

メリーは、泣き出してしまいました。泣いているうちに、大好きだったお母さんがよく言っていたことを、思い出しました。「困ったときにはいつでも、イエス様に頼りなさい」。彼女は部屋のすみっこへ行き、そこでひざまずいて祈りました。「イエス様、どうぞ私に、やるべきことを教えてください。どうか、大切なお父さんをお守りください。ぶじに戻ってこられますように」。

（続く）

第5章
神様の美しい聖所

子供のための日々の聖書研究ガイド

暗唱聖句

「人々がわたしにむかって『われらは主の家に行こう』と言ったとき、わたしは喜んだ」。一詩篇 122：1

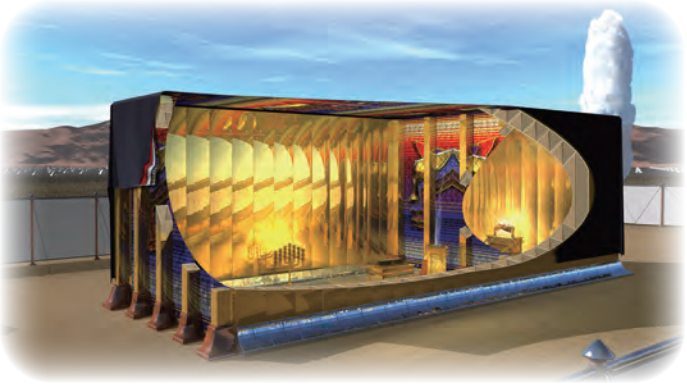
日曜日

今週は、ひきつづき、美しい聖所を訪ねてみます。先週は、何を見たか覚えていますか？白い布のフェンスや、入り口の美しい幕、子羊を犠牲にささげる祭壇や、人々が祈りをささげたりする庭などがありましたね。

次に、祭壇と聖所の入り口の間に、祭壇のようにピカピカした金属でできた、大きな洗面器のようなものが目にとまります。それには、水がいっぱい入っています。案内役の祭司によると、それは洗盤と呼ばれているそうです。聖所で働く祭司たちは、清潔でなくてはいけませんでした。そこで彼らは、祭壇でささげ物を焼く前や、聖所の中に入っていく前には、まず洗盤のところで靴をぬぎ、手と足を洗ったのでした。

洗盤は、たくさんの女の人たちが聖所のためにささげた、鏡でできていました。

Sean Eichelberger



Sean Eichelberger

多くの人の、惜しみないささげ物のおかげで、美しい聖所ができ上がっていったわけです。

白いフェンス〔囲い〕をとおって中に入るための門は一つしかありませんでしたが、聖所の中に入るための門も、ひとつだけでした。中庭に入るときと同じように、そこにも、青と紫と深紅〔濃い赤〕色の幕があります。ひとつの門と幕は、どちらも、私たちがゆるされ、天の神様にたちかえる方法はひとつしかないことを教えています。つまりそれは、イエス様の生涯〔一生〕と死に信頼することによってであります。ヨハネ 10：7，9；14：6。

考えてみよう：神様は、私たちの体と服がきれいであることを望んでおられますか？特に教会へは、きれいな体と服装で行くことを、望まれるのではないでしょうか？神様は、私たちの心〔思い〕もきれいにたもつことを望んでおられるでしょうか？私たちは、安息日にも、ほかの日と同じように、遊びや仕事のことを考えるでしょうか？神様は、私たちをとても愛しておられるので、私たちをサタンのわなから助け出すために、イエス様を救いの門としてくださいました。

月曜日

今日は、聖所の中に入っていって、いくつかの美しい宝を見てみましょう。中に入れるのは祭司だけなので、案内役の祭司に、中の様子を語ってもらうしかありません。

祭司は、ほとんど信じられないようなことを言います。へや全体が、かすかに光り輝いているというのです。匂いもすばらしいそうです。壁とそれぞれの備品に光が反射して、わずかな光でも全体が明るくなるのです。なぜでしょう？壁とそれぞれの備品は、すべて純金でおおわれているからです。

案内人によると、中はふたつの部屋に分かれているそうです。最初の部屋は聖所と呼ばれ、二番目の部屋は至聖所と呼ばれています。ふたつの部屋の間には、きらびやかな幕があり、これまで見てきた二枚の幕よりも美しいものです。

その幕は、天井よりも低いところから下がっているので、祭司たちは、もうひとつの部屋からもれる光を見ることができます。その光は、神様のご臨在の光そのものだそうです。時々、その光が明るくなりすぎると、祭司たちは、部屋を出なければならないこともあるそうです。

聖所に窓はありません。部屋の中を照らす光は、左側にある、美しい金の燭台からきています。

燭台には、七本の枝があります。それぞれの枝のてっぺんには、油の皿があり、その中には芯があります。祭司たちが、芯を切りそろえてきれいにし、皿に油を入れるとき、すべてのランプをいちどに取り出すことはありません。ランプは昼も夜も、絶えず燃えているのです。

Sean Eichelberger

明かりは、イエス様が世の光であることを、私たちに思い起こさせます。神様は決して眠ることがなく、絶えず私たちを見守っておられます。油は、私たちに正しいことを選ばせて、十戒に従う手助けをしてくれる、聖霊のようなものです。私たちがそれをするとき、私たちもまた、イエス様の光を輝かしていることになるのです。

考えてみよう：私たちが礼拝のために教会へ行くとき、そこには、神様が特別にいてくださるのでしょうか？ならば、私たちは、教会でどのような態度をとるべきでしょうか？

火曜日

案内役の祭司が、聖所と呼ばれる第一の部屋について語ってくれます。入って左側には、金の燭台がありました。右側には、金のテーブルがあります。その上には、積まれたパンが二列にならんで置かれています。とくべつな、聖なるパンです。それぞれ、六枚ずつ積まれていて、パンの一枚一枚が、イスラエルの各部族をあらわしています。いいにおいのする香りが、パンの上に振りかけられています。

Sean Eichelberger

案内役の祭司によると、安息日ごとに、新しく焼かれたパンが、そこに置かれるそうです。とりかえられたパンは、祭司たちが食べることになっています。

パンといえば、イエス様も、ご自分のことを、命のパンであると言われました。私たちは、みことばというイエス様の言葉、すなわち聖書を学ぶことによって、命のパンを食べるのです。それと同時に、私たちに毎日食べ物を与えてくださるのも、イエス様であることを覚えるのです。私たちは、毎日、どちらの食べ物も必要としています。

次に、案内役の祭司は、聖所と至聖所をへだてている幕の前にある、美しい金の香壇について語ってくれます。その香の祭壇に、最初に火をつけたのは、神様ご自身であったそうです。祭司たちはいつも、この神聖な火で、香をたいたのでした。

毎日、朝と夕の同じ時刻に、外庭でいけにえがささげられ、人々は祈りと罪の告白をおこない、ひとりの祭司が、香壇の上の燃える炭を使って、香を燃やしました。それをしている間、祭司は、神様の光が輝いている至聖所のほうを向いていました。香の煙がたちこめると、外にいる人たちも、その匂いをかぐことができました。神様は、自分たちの罪深い生涯ではなく、イエス様の完全な生涯をご覧になることを、人々は、信仰によって知るのでした。

考えてみよう： 聖書の物語を学び、暗唱聖句を覚えることが、イエス様のみことばを食べることです。食べ物を食べることによって、体が健康で丈夫になるように、みことばを食べると、心が健康で丈夫になり、イエス様のためにもっと働くことができるようになります。イエス様は、毎日、私たちと話をすることをお喜びになります。私たちは、お祈りを終えるときに、「イエス様のみ名によってお祈りします。アーメン」などと言いますが、それはつまり、イエス様が私たちのためにしてくださったことに信頼しているということなのです。そうするとき、神様は、かならず私たちの祈りを聞いてくださいます。

Sean Eichelberger

水曜日

案内役の祭司自身も、至聖所の中にはいちども入ったことがなく、もちろん、実際に中の様子を見たこともないそうです。そこは、もっとも神聖で重要な場所です。そこに入っていけるのは、大祭司だけで、しかも年にいちど、贖罪の日だけでした。

至聖所に置かれているのは、たったひとつの備品だけでした。神聖な金の箱です。その箱の中には、二枚の石の板がありました。それには何が書かれていたか、覚えていますか？だれが、どのように書いたものでしたか？二枚の石の板には、神様の十戒が書かれており、サタンはこれらの戒めをとても嫌っています。さらに、得意のうそを使い、十戒を偽って伝えています。彼が何よりも望んでいるのは、これらの戒めを破壊し、私たちに十戒を忘れさせることなのです。

案内役の祭司によると、至聖所の中にあるのは、内側も外側も金でおおわれた、美しい木の箱だそうです。上のふたは純金でできていて、恵みの座と呼ばれていました。恵みの座の両はしには、美しく彫刻された、金の天使が置かれていました。どちらの天使も、うやうやしく、箱のある下のほうを向いています。天使たちの間には、神様がそこにおられることをあらわす、まばゆい光が輝いています。

恵みの座は、神様の大きな愛と恵みを思い出させてくれます。神様の救いの計画がなかったら、私たちのだれも、イエス様と永遠に生きることはできません。けれども神様が、私たちを救うための特別な計画をたててくださったので、だれでもイエス様を選ぶなら、彼とともにいつまでも生きることができるのです。もちろん、サタンの提供する、滅びと死を選ぶこともできます。

考えてみよう：もし十戒がなかったら、私たちは、罪とは何かを知ることができたでしょうか？いいえ。**ローマ人への手紙7章の7節**で、パウロが何と言っているか読んでください。罪がどのようなものかを、私たちが知ることを、サタンは望んでいますか？もちろん、望んでいません。律法は罪について私たちに教えてくれること、また私たちは十戒に従うことを選ぶ決心ができることを、サタンはよく知っています。彼はまた、私たちが従うことを選んでも、イエス様の助けなしには、そうすることはできないことも知っています。サタンは、神様のすばらしい計画を、私たちに知ってほしくないのです。それを知れば、私たちは、この世界におられたときの、イエス様の生き方をまねることができるようになるからです。神様のご計画は、私たちを助けてくれる、すばらしい力について教えてくれます。私たちが罪を犯しても、イエス様の生涯が私たちをおおってくれることができるように、彼は、私たちの罪の罰金を払ってくださったのです。私たちの

ためにイエス様がしてくださったこと、また今もしてくださっているすべてのことを、感謝したいとは思いませんか？

木曜日

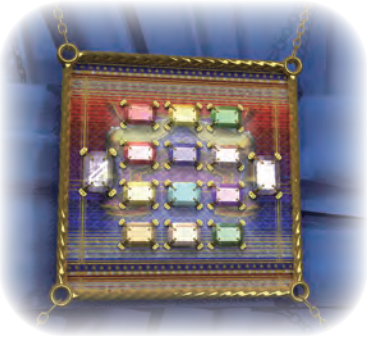
聖所の天井は、亜麻布でできているそうです。白いフェンスのような、無地〔全体が同じ色で模様のないこと〕ではありません。それはまるで、天使たちの雲のように見えます。これらの天使たちが、亜麻布に注意ぶかく織り込まれているのです。そういった天使たちが、どちらの部屋の天井にも織り込まれているわけですが、私たちには見えません。このように、目には見えなくても、私たちの世界じゅういたるところに天使たちが飛びまわって、私たちの救いのために働いてくれているのです。

「布の天井の上にある屋根は、何でできているのですか？」と、案内役の祭司に尋ねてみました。すると、聖所の屋根は、四つの層〔重なり〕になっている、との答えが返ってきました。

亜麻布のすぐ上には、ヤギの毛でできた覆いがあります。次の覆いは、雄羊の皮でできています。いちばん上にかかっているのが、ジュゴンの皮でできた覆いです。それが、雨を防いでくれます。

次に、「大祭司の服装は、ほかの祭司のとは違っているのですか？」という質問をしてみました。大祭司の服装は、ほかの祭司の服装と違って、とても美しいそうです。白い衣の上に、彼は、青い衣を重ねて着ています。肩からは、胸当てと呼ばれるものを下げています。胸当ての上には 12 個の美しい宝石があって、それぞれ、イスラエルの 12 部族の一つひとつをあらわしています。神様は、いつでも私たちのことを心にとめておられ、また私たちは、神様にとってとても大切であることを、胸当ては思い出させてくれるそうです。すばらしいですね。

ふたたび外に出ると、この美しい聖所をつくるのに、半年もかかったと、案内役の祭司が教えてくれました。


Sean Eichelberger

考えてみよう： 聖所にあるすべてのものは、イエス様と、私たちをサタンから救うためのすばらしい計画について教えてくれます。さらに聖所は、イエス様のすばらしい愛について、私たちに教えていますか？

金曜日

これまで、聖所のツアーをしてきましたが、聖所について、どれくらい思い出すことができますか？

聖所は、何で囲まれていましたか？それは何色で、何でできていましたか？

幕は、全部でいくつありましたか？何色の色が使われていましたか？それぞれの色の意味を、覚えていますか？

入口から外庭に入って、最初に見えたものは何でしたか？そこでは、一日に二度、何が行われましたか？それは、何を意味していましたか？その祭壇では、他にもいけにえがささげられていましたか？

幕屋の中の最初の部屋は、何と呼ばれていましたか？そこにあった備品の名前は、何でしたか？それぞれの備品の意味を、覚えていますか？

第二の部屋は、何と呼ばれていましたか？そこには、何がありましたか？見かけは、どのようなものでしたか？その部屋に入ることのできる、ただひとりの人とは、誰でしたか？その人の服装は、どのようなものでしたか？またそれは、ほかの祭司とは違っていましたか？聖所は誰について、また何について、私たちに教えていますか？

聖所の訪問は、楽しかったですか？

もっと学ぼう！

★出エジプト記 25 － 27 章；30 章；31 章；35 章；36 章；39：32 － 40；

★人類のあけぼの上巻 p. 405-423

★あがないの歴史 p. 186-193

小さな灯台守—パート2

エイミー・シェラード

メリーのお母さんは、亡くなっていて、メリーとお父さんの二人で、灯台に住んでいました。彼女のお父さんは、灯台守〔灯台の番をする人〕でした。ある日の夕方、町に行ったお父さんが、いつまでたっても戻ってきません。灯台にひとり取り残されたメリーは、とても心細くなりました。

実は、近くの岩の後ろには、難破船荒らし〔わざと船を難破させたり、難破した船からいろいろな物を略奪したりする人〕と呼ばれる悪い人たちがひそんでいたことを、メリーは知りませんでした。メリーのお父さんが出ていくのを見た彼らは、灯台に残っているのは、女の子ひとりだけであることが分かりました。すぐに彼らは、彼女のお父さんが灯台に戻るのをじゃまして、近くを通る船に危険を教える明かりをともさせないようにしようという、計画を立てたのでした。

その日の晩、このあたりを通ることになっていた船の中には、とても高価な積荷をのせているものもありました。灯台からの明かりがなければ、嵐の中、船は岩にぶつかって難破〔暴風雨などのために船が壊れたり、暗礁にのりあげたり、沈んだりすること〕してしまうだろうと、難破船荒らしたちは考えたのでした。そうなれば、彼らは難破した船に襲いかかって、高価な物を奪うことができます。難破した船の船乗りたちが、死のうが、けがをしようが、この悪い人たちにはどうでもいいことでした。

町へ行ったお父さんは、買い物をすませてから、灯台に戻ろうとしていました。灯台の明かりをともす時間が、せまってきています。灯台にわたる場所に近づいたとき、難破船荒らしたちが隠れ家から出てきて、襲いかかってきました。彼らは、メリーのお父さんを地面に打ち倒し、すばやく彼の手足をロープでしばりました。それから彼を小屋に運び入れ、朝までそこに閉じ込めておいたのです。「お願いですから、放してください」とけん命に頼んでも、彼らはただ、ばかにしたように笑うだけでした。難破船荒らしの仲間のうち、ふたりは小屋に残って見張りをし、あとの連中は、急いで海岸に戻っていきました。

お父さんは、しばられたまま横たわりながら、「ああ、かわいそうなメリー！たったひとり、灯台にとり残された彼女は、いったいどうするのだろう」と心の中で叫びました。「だれも明かりをともさなければ、何隻もの船が、難破してしまうだろう。そうなったら、何百人もの船乗りたちが、命

を失うことになる」。

外はすっかり暗くなり、灯台の中にいたメリーは、ますます心細くなり、とても怖くなりました。お父さんは、どこにいるのでしょう?今晩このあたりを通る船は、また船乗りたちは、どうなってしまうのでしょう?彼女は、もしかしたら自分が、明かりをつけることはできないだろうかと考えました。明かりのある場所は高すぎて、届きそうにありません。それでも彼女は、マッチを手にとって、明かりのところまでテーブルを引っぱってきました。テーブルの上にのぼり、できるだけ背伸びをしましたが、それでも芯には届きません。

とつぜん、「棒を使ったらどうだろう」という考えがひらめきました。「棒にマッチをくくりつけたら、火が芯に届くかもしれない。そうすれば、明かりをともすことができるわ」。しかし、棒はどこにも見当たりません。

外では、嵐がますます激しくなっています。うなるような風の音と、危険な岩に打ちつける波の音が聞こえます。海の上では、船乗りたちが、海岸のほうを見て、けん命に明かりをさがしていました。「自分たちは今、どこにいるのだろう?方角を誤ってしまったのだろうか?」彼らは、船をどこに進めるべきか、分からなくなってしまいました。おまけに、難破船荒らしの連中は、船が岩にぶつかって壊れるのを、今か今かと待っていました。

小屋では、メリーのお父さんが、暗くさびしい灯台にひとりぼっちでいるはずの、娘のために祈っていました。「神様、どうかメリーを守ってください。また、どうにかして、船が岩にぶつからないようにお助けください!」

(続く)

第6章

ナダブとアビウ

子供のための日々の
聖書研究ガイド

暗唱聖句

「ぶどう酒と濃い酒を飲んではならない」。
—レビ記10：9

日曜日

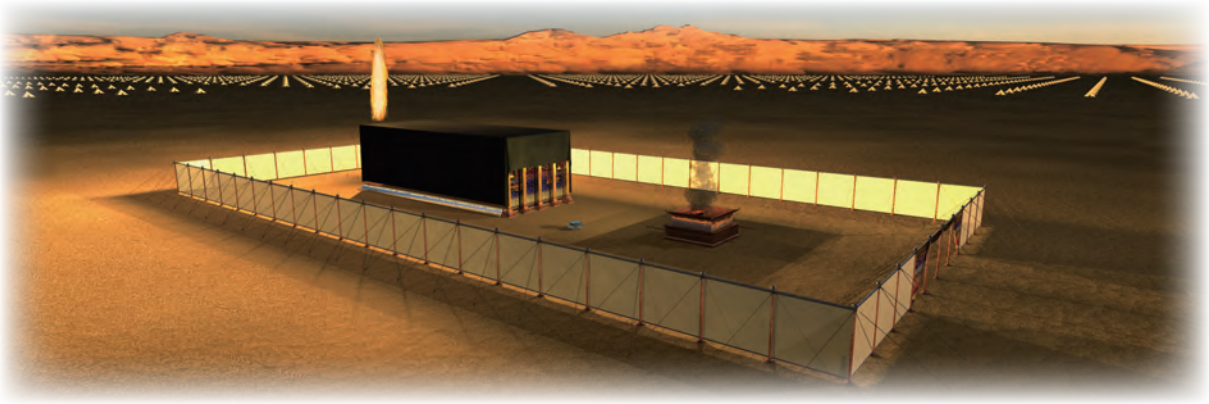
先週とその前の週は、想像の中で、聖所を訪ねました。イスラエルの人たちが建てた、旧約聖書の時代の幕屋です。それは、彼らにとって、最初の教会でした。神様が、その建物の図案〔デザイン〕をモーセに与え、その図案に正確にしたがって、聖所が建てられたわけです。

イスラエルの人たちが建てた聖所は、いわゆる模型でした。それは、私たちをサタンから自由にするための、神様のすばらしい計画を示したものでした。本物の聖所はどこにありますか？それもまた、神様の宮と呼ばれていますね。

次にあげる質問に、いくつ答えられるか、数えてください。聖所の真上には、昼も夜も、何がありましたか？昼間、それは何の役割をはたしましたか？夜の間は、どのように見えましたか？それは、イエス様について、何を教えていましたか？

聖所の中には、神様の臨在〔神様がおられること〕を示す、特別な何かがありましたが、それは何でしたか？神聖な箱の上に輝いていた、まばゆい光を覚えていますか？

聖所の中には、部屋がいくつあって、



Sean Eichelberger

それぞれ何と呼ばれていましたか？

十戒は、どこに置かれていましたか？

実のところ、聖所の内側と周囲にあるすべてのものは、イエス様と彼の愛について、私たちに教えてくれています。内側と外側にあった物の名前を、すべて言うことができますか？また、それぞれの物は、イエス様とその愛について、どのようなことを教えていますか？

考えてみよう：イスラエル人は、いつでもイエス様に信頼していることが、なかなかできませんでしたね。イエス様は、彼らを助けるために、できるだけのことをしておられましたね。今日イエス様は、昔のイスラエルの人たちのすぐそばにおられたように、私たちのすぐそばにおられますか？

Sean Eichelberger

月曜日

何百万人もの、テント暮らしをしている人たちの中で、しかも砂漠で、自分もテント暮らしをしているようすを、想像してみてください。あれほど大勢の人たちといっしょにいると、いろんな問題が起こってくるのではないでしょうか？

しかし、実際にイスラエル人のキャンプを見ることができたら、すべてがきちんと整っていたことに、きっと驚くことでしょう。

真上を明るい雲でおおわれていた聖所は、野営地〔キャンプ〕のちょうど真ん中にあり、その周囲は、かなりの距離を置いてから、数えきれないほどのテントがたちならんでいました。

何千、何万というテントは、12の大きなグループに分けられていて、どのテントも、まっすぐな列の中に、きちんと並べられていました。どのグループのテントも、キャンプの中心にある聖所を向いていました。

東がわには３つのグループが置かれ、聖所の正面に面していました。南がわにも３つ、西がわにも３つ、北がわにも、それぞれ３つのグループが置かれていました。そして、すべてのテントが、神様のテント〔幕屋〕に向かって立てられていたわけです。

なぜ、12のグループに分けられていたと思いますか。創世記の時代にさかのぼると、ヤコブには12人の息子がいたことが思い出されますね。それぞれの息子の

家族が、部族を形づくるようになり、それぞれの部族は、その部族のもととなった息子の名前で呼ばれていました。

どのグループの場所にも、その部族の特別な旗がたてられていたので、人々が道に迷うことはありませんでした。

考えてみよう：野営地〔キャンプ〕のまん中にあるもの、つまり聖所が、もっとも大事な部分でした。さらに、至聖所の中心には、十戒をおさめた神聖な箱がありました。このような位置関係をみると、何がどれほど大切であったか、分かってくるのではないでしょうか？

火曜日

そのころのイスラエル人に混じって、テント生活をしてみたいとは思いませんか？そこは、どこもかしこもきちんとしていて、見わたすかぎり、ゴミひとつ落ちていない清潔なキャンプでした。あなたもそこにいたら、きっと注意ぶかく、身のまわりをきれいにしたことでしょう。

しかし野営地では、ひとつだけ、分からないことに出くわしたことでしょう。12の部族またはグループに分けられていたと言われていますが、レビとヨセフの部族はどうして見当たらないのでしょう？

ヨセフについては、彼の二人の息子に部族が分けられました。エフライム族とマナセ族です。それから、人々が金の子牛を拝んだときに、何が起こったか覚えていますか？そのとき、神様への忠誠〔忠実で正直な心〕をたもったのは、レビ族だけでした。神様は彼らに栄誉を与え、彼らの中から、聖所の務めをする人たちを選ばれました。ですから、祭司になる人は、かならずレビ族の出身であったわけです。

レビ族のテントは、聖所に一番近いところにありました。聖所での、特別な働きにたずさわっていたからでした。

雲に導かれて、別のキャンプ地へと移動したときは、レビびとが聖所の天幕を解体〔組み立ててあるものを分解すること〕し、それを運んで、ふたたび組み立てたのでした。

アロンと彼の息子たちも、もちろんレビ族の出身でした。最初に聖所がつくられたとき、神様は彼らを、最初の祭司に選ばれました。アロンと彼の息子たちは、聖所の務めをするために必要なすべてのことを、とても注意ぶかく学ばなくてはいけなかったことでしょう。神様がモーセを通して語られたことに、正確に従わなくてはいけなかったわけです。

アロンと彼の息子たちの用意ができたときに、とても特別な何かが起ころうとしていました。そのことについては、明日学びましょう。

考えてみよう：あなたは、整理整とんがきちんとできますか？お父さんとお母さんの指示に、注意ぶかく従っていますか？

水曜日

七日間、モーセとアロンとアロンの息子たちは、とても特別な務めの準備をしていました。体もきれいに洗っ

ていました。モーセは、アロンの息子たちに、白い衣を着せ、白い帽子をかぶらせました。アロンには、大祭司だけが着ることになっていた、美しい衣を着せました。アロンは、頭にも、特別な物をかぶりました。その正面には、青いリボンで結ばれた金の板があり、そこには「主に聖なる者」と書かれてありました。

アロンの衣の両肩のところには、それぞれに６部族の名が刻まれた、縞メノウがありました。胸当てのそれぞれの側には、特別な宝石がはめ込まれていました。そのひとつはウリムと呼ばれ、もうひとつはトンミムと呼ばれるものでした。神様に対して何かを尋ねたときに、右側の石が光れば、それは「はい」または「よろしい」という返事を意味しました。神様が「いいえ」または「だめ」とお答えになるときは、左側の石が暗くなりました。

アロンの衣の青い部分のまわりには、青と紫の編み糸でできた、小さなザクロがぶら下がっていました。それぞれのザクロの間には、小さな金の鈴があり　ました。外庭にいる人たちは、聖所の中でアロンが動くたびに、鈴の音を聞くことができました。

聖霊を心に宿さなくてはならないことを思い出させるために、アロンと彼の息子たちと、聖所の中にあるすべての備品には、特別な油が注がれました。

特別ないけにえも、ささげられました。いけにえからしたたり落ちる血は、外庭の祭壇と、アロンと息子たちの右耳と右手の親指と右足の親指の先に塗られました。儀式が終わると、何が起こりましたか？**レビ記９：23－24**。

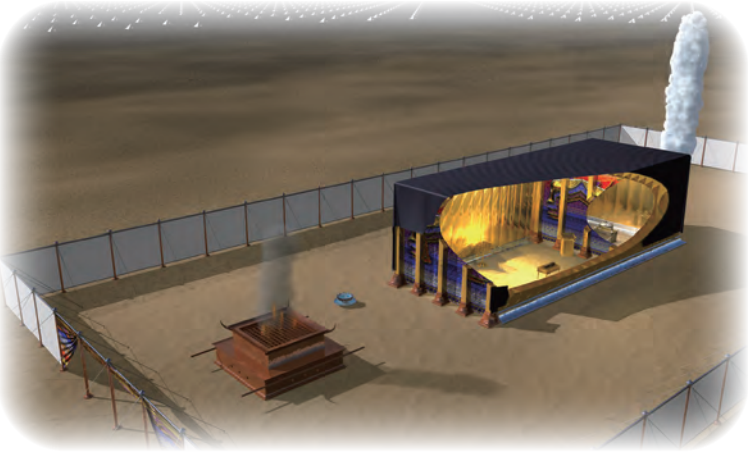
考えてみよう：アロンと彼の息子たちの右耳と右手の親指、そして右足の親指に塗られた血は、何を意味していましたか？それは、イエス様が私たちのために血を流してくださったので、彼は私たちが、よいものだけを聞き、よいことだけを行い、良いところだけに行くように助けてあげることができるのです。

木曜日

アロンの二人の息子たちの名前は、ナダブとアビウといいました。彼らは、モーセとアロンに続く、イスラエルの主な指導者でした。彼らは、神様と山で過ごしたことだってありました。**出エジプト24：９－11**。祭司として神様にささげられ、聖所でのりっぱな務めにたずさわるようになってから、それほど長いさい月もたっていないのに、彼らのしでかしたことは、とても信じがたいほどです。

ナダブとアビウは、聖所で自分たちが行うべき仕事について、正確に知っていました。ところがある日、モーセは別の人たちを聖所に行かせて、彼らをそこから運び出すことになったのでした。なぜなら、彼らがそこで、死んでしまったからです。みんながショックを受けました。いったい、何が起こったのでしょう？**レビ記10**

章の1節と2節を読んでください。


Sean Eichelberger

香炉というのは、運びやすいように鎖がついている、金属製の小さな器で、特別なものでした。祭司は、香の祭壇に神様ご自身がつけられた、特別な火からとった神聖な火を、香炉の中で燃やしました。彼らはその火に、神聖な香をふりかけ、香炉をゆっくりと静かにゆらしました。すると、甘い香りがそこら中にただよい、人々は、イエス様が自分たちの祈りを美しくしてくださることを、思い出したのでした。イエス様に信頼する彼らの祈りを、神様は、喜んで聞いてくださいました。

神聖を汚すことは、神聖な〔特別に尊い〕聖所では、決して許されないことでした。香の祭壇に神様ご自身がつけられた火は、神聖なものでした。神聖な香は、神様ご自身がつけられた神聖な火だけにふりかけるべきであることを、ナダブとアビウはよく知っていました。ところが、彼らはそれをしなかったのです。彼らは、おそらく自分たちが料理か何かに使った火からとった、いわゆるふつうの火に、その香をふりかけたのです。

神様は、彼らが示したそのような不敬〔礼儀にはずれること〕を、だまって認め許すことはできませんでした。それはまるで、神様に向かって、イエス様に信頼する必要はないと言っているようなものでした。神様は、彼らをただちに罰しなければなりませんでした。もしそうしなかったら、多くの人たちが、ナダブとアビウもそうしたからと言って、自分たちが従わないことの言いわけにしたことでしょう。

人々はショックを受けました。アロンがどのように感じたかは、想像できますよね。しかしモーセは、彼に、何も起こらなかったかのように、聖所の務めを続けなさいと言いました。父親であっても、息子たちの死を悲しんでいるように思われて、彼らの罪の言いわけをつくってはいけなかったのです。

考えてみよう： 指導者は、何事においても、とても注意ぶかく行動しなくてはい

けません。民は、神様よりも、たやすく指導者について行くことがよくあります。子供たちは、ほかの子供たちのやることや言うことを、かんたんにまねてしまいますよね。あなたはどうですか?ほかのだれが何をしようとも、私たちは、正しいことを選びましょう。

金曜日

ナダブとアビウは、おとなになっていました。けれども子供のころ、いつでも神様に従うことを、彼らは学んでいませんでした。ある非常に悪い習慣を、身につけてしまっていました。ワインやビールのような、お酒を飲むことが、好きになっていたのです。

あの日、聖所の中で、彼らの頭脳〔あたま〕は正しく働いていませんでした。なぜなら、お酒を飲んで、よっぱらっていたからです。お酒を飲むことについて、神様が何と言っておられるか、いくつかの聖句を読んでください。箴言 20：1；23：29－33。それから神様は、どんな規則をつくられましたか?レビ記 10：8－11。

考えてみよう：たとえ少しのお酒でも、人に悪い考えや行動を起こさせることができるのを、サタンは知っています。コリント人への第一の手紙 6 章 10 節の中に、酒を飲んでよっぱらう人は、天国に入れないとあります。天国にお酒はないので、お酒を飲みたがる人たちは、天国へ行っても幸せにはなれないのです。一生の間、けっしてお酒は口にしないことを、今、イエス様と約束してはいかがですか?それは、すばらしい約束です。指導者は影響力が強いことを、サタンもよく知っています。指導者たちが罪を犯すなら、ほかの人たちも、彼らのしている悪いことを見て、そのようなことをしてもいいんだと考えるようになります。イエス様だけが、私たちの完全な模範であることを、人はかんたんに忘れてしまうんですね。

もっと学ぼう！

★出エジプト記 28－29 章；39：1－31；レビ記 8－10 章；
★人類のあけぼの上巻 p. 424-429

小さな灯台守—パート3

エイミー・シェラード

メリーは、ひとりぼっちでした。難破船荒らし〔わざと船を難破させたり、難破した船からいろいろな物を略奪したりする人〕と呼ばれる悪い人たちが、お父さんを捕まえて、灯台に戻ることができないようにしてしまいました。その晩は嵐になってしまいましたが、彼らは、灯台の明かりがともされないように、たくらんだのでした。船を難破させて、積荷の中の、高価な物をうばいとるためでした。

幼いメリーは、灯台の中でたったひとりでしたが、芯に火をつけて明かりをともそうと、けん命になっていました。しかし、高いところにある芯には、なかなか火がとどきません。彼女は思わずその場にすわりこんで、泣きたくなりました。と、そのとき、下の部屋にある、お母さんの大きな古い聖書のことを思い出したのです。でも、大切な聖書の上に立つなんて、とてもできない、いや、やってはいけないと思いました。

そのときメリーは、神様の言葉が命を救うのだと、お母さんが言っていたことを思い出しました。そう、メリーはまさに、それをしようとけん命になっていたのです。彼女がなぜ、聖書の上に立とうと考えたか、神様はきっと分かってくださることでしょう。

メリーは、急いで下へ行きました。それから重たい聖書を持って、上に戻ってきました。そして、芯の真下にあったテーブルの上に、それを注意ぶかく置きました。それからマッチを手にとり、うやうやしい態度で、お母さんの大切な聖書の上に足をのせたのです。手をいっぱいに伸ばすと、何とか芯にとどきました！マッチに火をつけるとすぐに、明るい光が部屋を満たしました。その光は、怒り狂った波のあたりまで届きました。

メリーは大きな声で、「イエス様、ありがとうございます」と言ってから、ほっとしてため息をつき、それからテーブルをおりました。そして、「イエス様、ふたたび潮が引くときには、お父さんが無事に帰って来られるようにしてください」と祈りました。

嵐の中、船乗りの人たちは、明かりを見ました。そのおかげで彼らは、危険な

岩から船を遠ざけて、安全に航海を続けることができたのです。

小屋の中で横たわっていたお父さんも、明かりを見ました。どうやって明かりがついたのかは見当もつきませんでしたが、その手助けをしてくださった神様に、感謝の祈りをささげました。難破船荒らしの連中も、明かりを見ました。自分たちの計画が台なしになったので、彼らは怒っていました。しかしもう、彼らにはどうすることもできません。

その嵐の夜、灯台の明かりは、一晩中、荒れ狂う海を照らしました。朝になって、難破船荒らしたちは、メリーのお父さんを小屋から出してくれました。そして、ふたたび潮が引くとすぐに、彼は灯台に戻ってきました。幼い娘のメリーを腕に抱きしめたお父さんは、どれほどほっとしたことでしょう!そしてメリーも、お父さんが無事に帰ってきてくれて、どれほど安心したことでしょう!

お父さんは、難破船荒らしにつかまって、灯台に戻れなくなった話を、くわしくメリーにしました。メリーもまた、ひとりぼっちになってどれほど怖かったか、自分がどうやって芯に火をつけることができたかを、お父さんに話して聞かせたのでした。

彼女は、「私がどうして聖書の上にのったのか、神様は分かってくださるはずだと思ったの」と言いました。「どうしても、船と船乗りの人たちを助けたかったの」。お父さんも、神様が、彼らの祈りに答えて、彼女を助けてくださったと確信しました。

メリーのお母さんが幼い娘に教えたことは、真実でした。聖書は、ランプのようなものです。それは、あの難破船荒らしのようなサタンから、どのように遠ざかるかを、私たちに教えてくれます。イエス様がおいでになるとき、私たちが天国に行く用意ができていないようにするために、サタンはいろいろな悪だくみをし、あらゆる悪事を働きます。しかし、聖書は、私たちをサタンから遠ざけて、いつでも正しい道を歩ませることができるのです。

第７章
ふたりの勇敢なスパイ

子供のための日々の
聖書研究ガイド

暗唱聖句

「先に立って行かれるあなたがたの神、主は…あなたがたの目の前で、…あなたがたのために戦われるであろう。」
―申命記１：30

日曜日

「雲がのぼっていくぞ！」たしかに、聖所をおおっていた雲が、空の高さにまでのぼっていっています。その意味を知らない人はいません。民数記９：17。カナンに向かって、ふたたび進み始めることになったのです。

雲がのぼっていく、ほんの数週間前に、イスラエルの人たちは、ちょうど１年前にエジプトを出たのと同じ日に、過ぎ越しの祭りを祝ったのでした。２－５節。

あの忘れられない夜から１年。そのあいだに、実にいろいろなことが起こりました。神様は、十戒をお告げになってから、これらの戒めを石の板に書かれました。神様の命令にしたがって、聖所も建てました。神様の特別な民となるために行うべきことは、すべてモーセに示されました。モーセは、それらをすべて契約の書と律法の書に書きしるしました。イスラエルの人たちは、神様のおっしゃることにすべてしたがうと、約束したのでした。

雲がのぼったので、みんなが荷造りをしていました。レビびとたちは、移動のために注意ぶかく聖所をとりはずしています。みんなが、各自の役割をよくわかっていて、てきぱきと動いています。

祭司たちは、聖所の備品〔そなえつけてあるもの〕の一つひとつにカバーをかけています。それらは、係のレビびとたち

が運ぶことになっています。ほかのレビびとたちは、とりはずした聖所の部品をもって、先に行くことになっていました。そして次の野営地〔キャンプ〕に着いたら、備品が到着する前に、聖所の組み立てを終えるのでした。

完全な秩序〔正しい順序・筋道〕のうちに、すべてがなされました。だれもが、ラッパの合図にしたがって動きました。民数記 10：1－6，17，21。

各部族の指導者は、自分たちが動き出す順番を、ちゃんとわかっていました。もちろん、美しい雲が、イスラエルのあゆみを導いてくれました。

考えてみよう：実に、百万人いじょうの人たちが動き出そうとしていました。人間のほかに、たくさんの家畜もいました。このときまでには、みんなが神様に信頼することを学び、神様にとってできないことは何もないと信じられるようになっていたと思いますか？できることなら、彼らにふたたび文句を言わせて、すべてをめちゃくちゃにしようと、サタンはねらっていたと思いますか？彼らは、神様に信頼しつづけるでしょうか？それともまた、サタンのうそに耳をかたむけるでしょうか？

月曜日

ついに、カナンへの旅の準備がすべてととのいました。雲が先頭を行きます。ラッパの合図とともに、人々が動き出しました。民数記 10：13。

シナイ山のふもとにある、壁のような山々に囲まれた野営地〔キャンプ〕に戻ってくることは、もう二度とないでしょう。旅路〔旅の途中〕に、りっぱな道路などはありません。いいえ、道と呼べるものすら、ありませんでした。行く手はきびしく、困難なものでした。じきに、雲が、おそろしい荒地へと彼らを導いていることが分かってきました。

ふたたび、烏合の衆〔入り混じった人々〕が、文句を言い出しました。民数記 11：4－6。

モーセは、大変がっかりしました。水もおいしいマナも十分あるのに、「今すぐ、肉が食べたい」と言い出したのです。モーセは、どうすればよいのでしょう？やはり、神様に相談するしかありません。

肉を食べるのはよくないことを、神様はご存知でした。それでも、彼らの望み

どおりに、ウズラの大群をおくられたのでした。人々は、飛んできたウズラを片っぱしから捕まえて、思うぞんぶん食べました。肉をよくばって食べた多くの人たちは、病気にかかって死んでしまいました。

考えてみよう：なんとしても自分の好き勝手にやろうとしたときに、めんどうな問題をまねいてしまったことはありませんか？両親は、私たちを愛しており、私たちにとって何がいちばんいいかを知っています。あなたは、お父さんとお母さんを信頼していますか？

火曜日

つぎに起こったことは、先週学んだナダブとアビウの物語くらい、信じがたいものです。

モーセのお兄さんとお姉さんである、アロンとミリアムは、これまで彼の心強い味方でした。ところが、モーセの妻であるチッポラが現れると、彼らは彼女をねたみました。彼女が夫のモーセに、あれこれさしず〔指示や命令〕をしている、と思ったのでした。モーセは、自分たちよりも、彼女の言うことをきくようになったと、彼らは思いました。

しかもチッポラは、よその国の人間でした。彼女は神様を愛していましたが、イスラエルの人たちとは、言葉も見かけもちがっていました。彼女は自分たちよりも劣ると、彼らは思ってしまったのでした。人が人を差別するのは、とてもいけないことです。けっして神様が喜ばれないことです。

チッポラについてアロンとミリアムが考え、言ったことは、本当のことではありませんでした。モーセは、だれの言うことよりも、神様の言うことを聞こうと思っていました。神様は、アロンとミリアムを愛しておられたように、チッポラを愛しておられました。

その神様が、とてもきびしいことを言われました。**民数記 12：4－8**。神様が語り終わって、雲がのぞかれると、三人はひどいショックを受けました。なんとミリアムが、らい病〔ハンセン病〕にかかっていたのです。そのころらい病は、もっとも恐ろしい病気と考えられていました。もうこれで、彼女はおしまいです。**9 節と 10 節**。

モーセはミリアムに向かって、「当然のむくいだよ、姉さん」と言うこともできましたが、彼は、どうしましたか？**11－15 節**を読んでください。

考えてみよう：アロンとミリアムはつらい目にあいましたが、彼らには、学ぶべき教訓がありました。私たちも、指導者のことを悪く言うべきではありません。かえって、彼らのために祈るべきです。もし彼らのほうが変わらなくてはいけないのであれば、神様が、さまざまな方法を使って、それをしてくださるでしょう。私たちも、欠点やまちがった考えを変えたり改めたりするには、イエス様の助けが必要ですよね。イエス様は、すべての人を同じように愛しておられます。

水曜日

いよいよ、イスラエルの人たちが、約束の地に入るべき時がきていました。彼らは、カナンに近い、カデシというところにキャンプを張りました。みんな、胸がわくわくしてきました。神様は、モーセになんと言われましたか？ **民数記 13：1－2**。

神様の命令にしたがって、スパイ〔密偵、斥候〕が選ばれました。スパイに選ばれた人たちは、神様が与えると約束してくださった土地を、さぐり調べるために出ていきました。

そこには、どんな人たちが住んでいましたか？強そうな人たちでしたか？それとも、弱そうな人たちでしたか？彼らは、どんな都市に住んでいましたか？そこは、作物がよく育つところでしたか？家畜のための牧草は、豊かにありましたか？

スパイたちが出かけてから、6週間近くもたっていました。イスラエルの民は、彼らがもどってくるのを、首を長くして待っていました。そしてようやく、スパイたちが全員もどってきました。カナンの地で、作物がちゃんと育つかどうかは、ひと目でわかりました。見本として、いくつかの食べ物をもちかえっていたからです。中には、びっくりするようなものもありました。ひとふさのブドウが、ふたりの人でかつがなくてはいけないほど、大きかったのです。

みんなで、スパイたちの報告を聞きました。はじめに、どのようなことが言われましたか？ **27節**。人々は、うれしくて、思わず笑顔になりました。ところが、すぐに笑顔が消えてしまったのです。つづけて話を聞いているうちに、心の中は、恐れに満たされていきました。都市を囲んでいる壁が、どれほどがんじょうなものか、またそこには、どんなに強い敵が住んでいるか、といったことが語られました。そこに住んでいる人々は巨人のように大きくて、自分たちはイナゴ〔バッタ〕のように思われたと、スパイたちは言ったのでした。

ここで、**民数記 14章 1－4節**を読んでください。とても悲しい、残念なことが書かれています。イスラエルの民は、まったく変わっていなかったのです。モーセとアロンは、何をしましたか？ **5節**。

神様に信頼している人は、モーセとアロンしかいなかったのでしょうか？

考えてみよう：ただ信頼してもらえたら、

神様にとってできないことは何もないことが、どんなにくり返し示されてきたことでしょう！私たちは、たとえ何が起こっても、神様に信頼することを学ぶ必要があります。

木曜日

ふたりのスパイだけが、ちがう考えをもっていました。そのうちのひとりはカレブ、もうひとりは、モーセの忠実な弟子のヨシュアでした。人々がさわぎ出したとき、カレブは、彼らに向かってなんと言いましたか？民数記 13：30。

それからすぐに、ほかのスパイたちは何と言いましたか？31 節。

10 人のスパイたちは、おくびょうものでした。彼らは指導者でしたが、彼らが人々に示した模範は、ひどいものでした。指導者たちのなかで勇敢だったのは、カレブとヨシュアのふたりだけでした。心から神様に信頼していたからです。彼らの言葉を読んでください。民数記 14：6－9。

人々は、カレブとヨシュアを殺したいと思うほど、かんかんに怒っていました。ところがすぐに、彼らの気が変わりました。何が起こったのですか？10 － 12 節。

ふたたび神様は、モーセに向かって、この不信仰な民をほろぼして、新しい国をつくりなおそうかと言われました。しかし、モーセはまたも、神様の誘いをことわりました。エジプトやまわりの国々が、イスラエルの神は、民に約束したことを守れない、力のない神だと言って、神様をばかにするでしょうと答えたのでした。

もちろん神様には、じゅうぶんな力がありました。神様にできないことは、何ひとつありません。ただし、ひとつだけ、これまで一度もしたことがなく、これからも決してなさらないことがあります。無理やりご自分に信頼させることは、決してなさらないのです。

もういちど、イスラエルの人々をゆるしてくださいと、モーセはけん命に頼みました。神様は、ゆるしてくださいましたか？20 節。しかし、彼らが心から神様を信じ、その力に信頼しないならば、けっして約束の地には入れないことを、神様はご存知でした。そして、彼らはまだ、神様に信頼することを選んではいませんでした。

神様は、モーセをとおして、なんと言われましたか？29 － 31 節。

カレブとヨシュアをのぞいて、シナイで兵士が数えられたときに（民数記 1：1－3）、まだ 20 才になっ

ていなかった人たちだけが、カナンの地に入れるということでした。その時まで、あと何年かかると言われましたか？民数記 14：34。

考えてみよう：心から神様を愛し、信頼し、したがうのを選ぶことは、そんなに大切ですか？いずれ、一人ひとりが、神様に信頼するかどうかを決めるときがやってきます。神様に信頼せず、したがわないように私たちを誘うことができれば、私たちはイエス様といっしょに住めなくなることを、サタンは知っています。しかし私たちには、選ぶ自由が与えられているのです。そのことを喜び、正しい選びをしましょう。

金曜日

小さい子供がなきさけぶのを、聞いたことがありますか？「いやだ！ごめんなさい！おりこうになるから、罰を与えないで！」罰せられるのは、決して楽しいことではありません。けれども、ほとんどの子供は、自分が悪いことをしても、本当に悪かったとは思いません。ただ、罰せられるのがいやなだけです。たとえ次から従ったとしても、ただ罰せられるのがこわいだけかもしれないのです。そんなときは、両親を心から愛し、したがっているわけではないのです。

これと同じように、人は神様に対して、見せかけだけの服従〔命令にしたがうこと〕を示すことがあります。イスラエルの人たちは、自分たちが罰を受けなければならないことを知ったとき、あわてて神様にしたがおうとしました。民数記 14：39－45。

神様は、なおもイスラエルの人たちを愛しておられました。しかし、親のほうが、子供たち自身よりも子供のことを分かっているように、神様のほうが、イスラエルの人たちよりも、彼らのことを分かっておられました。だれかが神様にしたがったとしても、こわいからという理由でしたがっているのであれば、神様はお喜びになりません。そのような見せかけだけの服従は、サタンを喜ばせるだけなのです。

考えてみよう：昔の神の民について学ぶとき、多くの人は、自分だったら、彼らのようなばかなまねは決してしないと思うかもしれません。しかし今の人間も、昔の人間とくらべて、何も変わってはいないのです。これらの聖書の物語は、つねに正しい選びをすることの大切さを、私たちに教えてくれます。

もっと学ぼう！

★民数記 10－14章
★人類のあけぼの上巻 p. 445-472
★あがないの歴史 p. 194-201

フロリーのおたんじょうび会―パート1

エイミー・シェラード

フロリー・スウィフトは、とてもわくわくしていました。彼女は明日、8才の誕生日をむかえることになっていました。おたんじょうび会には、お友だちを6人おうちに呼んでもいいと、お母さんが約束してくださっていました。お昼ごはんにお友だちを招いて、夕方までいっしょに楽しく過ごすことになっていました。

お母さんが尋ねました。「明日のおたんじょうび会に呼びたい6人のお友だちには、もう声をかけてあるの?」フロリーがまだ招待していないと答えると、お母さんは驚きました。

フロリーは、お母さんに尋ねました。「これからお友だちに声をかけに行こうと思うんだけど、アンおばさんをいっしょに連れて行ってもいいかしら?呼びたいお友だちは、みんな近くに住んでいる人ばかりなの」。

アンおばさんは、スウィフト家に住みこみで働いている、お手伝いさんでした。お母さんは、「いいわよ」と言ってくれました。

アンおばさんは、フロリーの遊び友だちのほとんどは、となりの通りにある、大きくてりっぱな家に住んでいる子供たちであることを知っていました。ですから、フロリーが別のほうに向かっていったので、彼女は驚きました。アンおばさんは、「いつもいっしょに遊んでいるお友だちを招待すると思っていたけれど、そうではないの?」と尋ねました。

フロリーは、「いいえ、彼女たちとは、いつでも楽しく遊べるわ」と言いました。それからふたりは、せまい通りをぬけ、ぼろぼろの、古い家の前でとまりました。フロリーがドアをあけました。それからふたりは、かいだんを上っていきました。

フロリーが2階のドアをノックすると、「どうぞ、お入りください」という、弱々しい声が聞こえてきました。フロリーがドアを開けました。ふたりが部屋に入ると、中には、ドレスを縫っている女の人がいました。女の人は、フロリーを抱きしめました。すると、フロリーと同い年くらいの女の子があらわれて、フロリーに向かって手をさしだしました。

フロリーはアンおばさんに、「この人はグレイおばさん。ときどき、うちのお母さんのためにお洋服を縫ってくれるのよ。そして、この子はお友だちのメリーよ」と言って、ふたりを紹介しました。「メリーは目が見えないけれど、編み物がじょうずなのよ。」

それからフロリーは、グレイおばさんに向かって、「グレイおばさん、メリーを私のおたんじょうび会に招待してもいいかしら?パーティは明日なの」と尋ねました。「アンおばさんが、車でむかえに来てくれるわ。」

グレイおばさんは、「まあフロリー、あなたはなんて優しいんでしょう!」と言いました。「メリーは、ほとんど家から出たことがないので、とても喜ぶと思うわ。」

アンおばさんとフロリーがうちに帰ったあとも、メリーとお母さんはにこにこしていました。

次にふたりは、同じ通りを進んでいき、近くの小さなお店にやってきました。お店のかんばんは、大きなブーツの形をしていました。お店の中では、おじいさんがくつの修理をしていて、その近くでは、足の不自由な男の子がいすにすわって、てかてかした革のきれっぱしで遊んでいました。

男の子は、「あっ、フロリー、よく来てくれたね」と叫びました。「バラの花をおくってくれて、ありがとう。とてもきれいだった。できるだけ長くかざっておいたんだけど、みんな枯れてしまったよ。」

フロリーは、にこりと笑いました。「あのね、ジェイミー。明日、私のおたんじょうび会があるんだけど、うちに来てくれないかしら?そしたら、もてるだけのバラをもって帰っていいわよ。」

ジェイミーは思わず、自分の不自由な足と、松葉づえを見ました。おじいさんには、ジェイミーの考えていることが、よく分かりました。「心配しなくてもいいんだよ。私が、おんぶして、つれて行ってあげるから。なあに、フロリーのおうちは近くだから、そんなのわけないさ。」おじいさんは、ジェイミーに向かって言いました。

フロリーとアンおばさんがお店を出ていくとき、男の子とおじいさんは、うれしそうに手をふっていました。それから間もなく、ふたりは、もうひとつのみすぼらしい家に来ていました。フロリーとアンおばさんは、そこに住んでいるおばあさんに、あいさつをしました。ふたりは、彼女を「ナーシー」と呼んでいました。ナーシーは、フロリーがまだ小さかったころに、彼女の家で働いていました。

フロリーが、ナーシーをおたんじょうび会に招待すると、このおばあさんの目から涙があふれてきました。「まあ、こんなとしよりを覚えていてくれたのですね!」涙の向こうには、えがおがありました。そして彼女は、おたんじょうび会に行くことを約束したのでした。

(続く)

第8章
荒野での反乱

暗唱聖句

「すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。」
ーピリピ人への手紙２：14

日曜日

またも、イスラエルの人たちは、神様の力に信頼しませんでした。彼らは、カナンの地に住んでいた強そうな敵をやっつけるのは無理だと言った、10人のスパイたちを信じてしまったのでした。

シナイで数をかぞえたとき、20才以上だった兵士の中で、カナンに入れるのはカレブとヨシュアだけであると、神様はおっしゃいました。カレブとヨシュアだけが、神様の力を信じたからでした。しかも、実際にカナンに入るのは、それからおよそ40年も先のことでした。申命記2:14。

それを聞いた人々は、まったく喜ぶことができませんでした。そして、すぐに気が変わったのでした。彼らは、自分たちが罪を犯したことを認めてから、モーセに向かい、自分たちはカナンへ行きたいのだと言いました。神様もモーセも、彼らが本当には変わっていないことを知っていました。しかし、神様はいっしょに行ってくださらないとモーセが注意したのに、何人かは、それでもカナンに攻め入ろうとしました。神様がいっしょにおられなければ、勝ち目はありません。彼らは、アマレク人とカナン人から返り討ち〔逆に相手にうたれること〕にあい、多くの者が殺されてしまいました。

前回、アマレク人と戦ったときは、イスラエル人が勝っていました。ヨシュアの軍隊は神様に信頼〔信じて頼ること〕し、神様が共におられたからでした。その時のことを、覚えていますか？祈っていたモーセの手を、アロンとホルが、１日中かかえていましたね。その時のことを覚えていた彼らは、こんども勝てると思ったのでしょう。しかし神様は、信じようとしない彼らを祝福することができませんでした。本当に悪かったと思っている人が、またすぐに逆らって行動するでしょうか？

こうしてふたたび、彼らは荒野へ戻ることになりましたが、そのことを喜んでいる人は、だれもいませんでした。

考えてみよう：何か悪いことをしたときに、心から悪かったと思っていることを、どうやって知ることができるでしょうか？「ごめんなさい」とあやまる以外に、何ができると思いますか？あやまちを心から悪かったと思っていないのに、心から喜ぶことができるでしょうか？

月曜日

野営地〔キャンプ〕では、ふたたび問題が起こりました。こんどの問題児は、３人の指導者でした。その中心が、コラという人でした。あとのふたりは、ダタンとアビラムでした。３人とも重要な人物で、じきに、ほかの多くの指導者たちまで、彼らの仲間に加わったのでした。

コラは長い間、いやな気持をいだいていました。モーセとアロンを、ねたんでいたのでした。

彼はレビ人であったので、ずっと前から幕屋〔聖所〕の仕事にたずさわっていました。ところが、自分はなぜ祭司になれないのか、納得できずにいました。しかも、自分は大祭司になるべき人だと、彼自身は思っていたのでした。

コラの友だちであったダタンとアビラムは、ふたりとも、ルベン族の指導者でした。ルベンはヤコブの長男であった人でしたが、神様は、別の息子に長子の特権を与えていました。そのことをよく思っていなかったダタンとアビラムは、民を治めるモーセの仕事は、自分たちに任せられるべきだと考えていたのでした。

コラとその友だちは、人々に対してはい顔をしながら、すべてのことをモーセのせいにしていました。そのうちに、おおぜいの人が彼らの味方になったので、自分たちの考えをモーセに伝えることにしまし

た。民数記 16：2－3。

彼らの話を聞いたモーセは、すぐに祈りました。それから彼らに向かって、だれが本当にきよくて、大祭司にふさわしいかは、神様が決めて、それを知らせてくださると言いました。どんなテストが行われようとしていましたか？4－7 節。

次の日、コラはそこに来ていましたが、あとのふたりは来ていませんでした。モーセが彼らを呼びに行かせると、彼らは何と答えましたか？12 節。

モーセは、次に何をするようにと言いましたか？16 － 18 節。

考えてみよう：民も指導者も、神様が選ばれた指導者に文句を言ったミリアムがどうなったかを、すぐに忘れてしまったようです。こんどは彼らが、教訓を学ぶ番でしたが、それは、さらにつらい経験となりました。それは、どのようなものでしたか？

火曜日

神様は、コラとダタンとアビラムを愛しておられました。彼らには、最後のさいごまで、あれほどのさわぎを起こしたことを悪かったと思い、正しい道に立ちかえるチャンスが与えられていたのでした。彼らは、どうしましたか？

次の日の朝、コラと 250 人の指導者たちは、香炉〔香をたくための器〕をもって、聖所に来ていました。人々は、これから何が起こるのか、一心に見守っていました。ダタンとアビラムは、まだ自分たちのテントにいました。彼らと最後の話をしようとモーセがそこへ行ったとき、コラもそこにやってきました。モーセは、彼らが考えを変えるように説得しようとしましたが、だめでした。もちろん神様も、そのことをご存知でした。

神様はモーセに、「彼らのテントから離れるよう、人々に語りなさい」と言われました。「彼らの物には、さわってもいけない」と。

人々はすぐに、彼らのテントから離れました。彼らは、今にも何か恐ろしいことが起こるだろうと思って、びくびくしていました。民数記 16：28 － 35。

それからあっという間に、すべての決着がつきました。サタンを信じる道を選んで、神様に敵対することが、どんなに恐ろしいことであるかを、神様はお示しになりました。サムエル記上 15 章の 23 節を読んでください。神様に逆らうというのは、サタンを礼拝するのと同じことなのです。

考えてみよう：時には、たとえ従いたくなくても、したがわなくてはいけないことがありますか？それはつまり、自分では選ぶことができない、ということですか？いいえ、ちがいますね。どんな時でも、自分で選ばなくてはいけません。自分で決めるのです。自分から進んで、喜んでしたがうでしょうか？それとも、ふくれっつらをして、いやいやながらしたがうでしょうか？そうです。従うときの態度も、自分で選ぶのです。たとえしたがっていても、いやいやながら従うのであれば、それは心の中で反抗しているということです。そのような形だけの服従〔したがうこと〕では、

だれも幸せになれません。いやいやながらしたがっている人を見て、喜ぶのはだれですか？

水曜日

コラは、天国でたくさんの天使たちをだましたサタンと、同じ方法を用いました。彼とその仲間たちは、とてもずるがしこいやり方で、イスラエルの人たちをだましていたために、今でも彼らはいい人たちだと考えている人が多くいました。

コラとその仲間たちが死んだ次の日に、人々は、モーセがどんな悪いことをしたと言って、彼を責めましたか？民数記 16：41。

モーセとアロンは、どんなにがっかりしたことでしょう！神様も、どんなに悲しまれたことでしょう！

モーセに文句を言ったのは、神様の栄光を見た人たちでした。その栄光は、神様がモーセと話をされたときに現れたものでした。彼らは、モーセが神様と話してからもどってきたときの、光りかがやく彼の顔を見ていました。神様が、民の指導者としてモーセをお選びになったことの証拠を、彼らはなんども見ていました。モーセが人々と話していたとき、神様は、さらなるしるしを与えてくださいました。42 節。

神様から選ばれた大祭司はだれであるかについて、神様は、どのような証拠を与えようとしておられましたか？モーセは、何をするように言われましたか？民数記 17：1－5。

それぞれの部族の指導者が、自分の名前の書かれた杖をもってきました。これらの杖を使って、モーセは何をしましたか？7 節。

つぎの日の朝、指導者たちはみな、何が起こったかを見にもどってきました。モーセが幕屋の中に入って、12 本の杖を調べました。どのようになっていましたか？8 節。

アロンの杖を見た部族の指導者たちが驚いているようすを、想像できますか？神様がだれをお選びになったかは、これではっきりしました。コラとかれの仲間たちはまちがっていたということを、みんなが分かったわけです。彼らは、神様に逆らっていたのでした。

考えてみよう：コラが破ったのは、どの戒めでしたか？ほかの人たち、とくに神様が選ばれた指導者について何かを言うとき、私たちはどれほど気をつけなくてはいけないことでしょうか？

木曜日

アロンの杖は、聖なる箱の中に、大切にいれられました。そこには十戒のほかに、すでにあるものが入っていました。それは、マナの入った金のつぼでした。はじめてマナが降ったときに、アロンが集めていれたものでした。ヘブル 9：3－4。

聖なる箱にいれられた三つのものは、イスラエルの人たちに何を思い出させてくれましたか？神様はまず、ご自分の規則〔ルール・きまり〕はけっして変わらないことを、私たちに覚えてほしいと望んでおられます。それらの規則にしたがうことは、私たちがサタンから守られ、幸福に暮らすための、たったひとつの方法なのです。神様がご自分で石に書かれたのは、そのためなのです。

芽をだしたアロンの杖は、神様が私たちを導いておられ、神様を助けるために人間を用いられることを、私たちに教えてくれます。けっして、神様のメッセージを伝える預言者にそむいてはいけません。そうすることは、神様にそむくことなのです。

マナは、神様が私たちのめんどうを見てくださること、また、私たちはいつでも神様に信頼できることを思い出させてくれます。さらにマナは、神の言葉である聖書を勉強することのたいせつさについても教えてくれます。マ**タイによる福音書4章の4節**を読んでください。さらに、安息日は聖なる日であることも思い出させてくれます。安息日だけは、マナが腐ってだめになることはありませんでした。

考えてみよう：こういったことを、今でも覚えている必要がありますか？こういったことを、サタンは私たちに忘れさせようと、けん命になっているのです。私たちも、むかしのイスラエルの人たちと同じように、神様に頼ることができるでしょうか？サタンはすべての人を滅ぼそうとがんばっていますが、神様は一人ひとりを愛しておられ、その愛はサタンの力にまさっています。**マラキ書3章の6節と、箴言3章の12節**は、父なる神様と、み子であられる神キリストについて、何を語っていますか？

金曜日

あなたにとって、40年というのは、長い時間に思われますか？今から40年後、あなたは何才になっていますか？

モーセは40才のとき、エジプトからミデアンに逃れました。それから40年間、羊飼いとして働きましたが、その後40年間、イスラエルの人たちをひきつれて、荒野ですごしました。そのころ、彼は何才になっていましたか？

アロンはモーセのお兄さんでしたが、兄弟の中では、ミリアムがいちばん年上でした。エジプトのナイル川の岸辺で、赤ちゃんモーセを入れたかごを見守ったときのことを、彼女はなんども思い出したことでしょう。あれから、実にいろんなこと

が起こりました。荒野での40年が終わりに近づいたころ、ミリアムは死にました。

荒野で暮らしていたころ、イスラエルの人々は、あちらこちらへと移り住みました。しかしついに、はるか昔、神様が約束された地に入っていくときが来ていました。カナンに近いカデシに、彼らはもどっていました。そこの宿営〔キャンプ〕からは、神様が与えると約束しておられた地の、美しい丘の連なりが見えました。その時のイスラエルの民は、反抗的な彼らの親たちとちがって、すなおにしたがう人たちだったでしょうか?

考えてみよう: 罪がこの世に入って以来、私たちにとって、神様にしたがうのとサタンにしたがうのとでは、どちらがたやすくなっていますか?神様がイエス様を与えてくださったおかげで、選びさえすれば、サタンの奴隷という身分から解放される道がそなえられました。神様の大きな愛をよろこび、感謝しましょう。

もっと学ぼう!

★民数記14:39－45;16章;17章;

★人類のあけぼの上巻p. 471-490

フロリーのおたんじょうび会—パート2

エイミー・シェラード

8才の誕生日を目前にしていたフロリーは、おたんじょうび会に、6人のお友だちを呼んでもいいと、お母さんから言われていました。誕生日の前の日、フロリーとアンおばさんは、6人のお友だちを招待するため、彼らの家をたずねあるきました。なんと、招かれたお友だちは、貧しい人たちばかりでした。

つぎの場所に向かって歩きながら、フロリーは、招待したお友だちのことを思い返していました。「目の見えないメリーと、足の不自由なジェイミーと、大好きなナーシーおばあちゃん。さて、つぎはエイミーのおうちへ行きましょう。」彼女は、アンおばさんに言いました。「エイミーは、わたしより少しだけ年上なの。」

立ち止まったのは、これまでおとずれたよりも、もっとみすぼらしい家でした。玄関にあらわれたエイミーは、大声で泣いている赤ちゃんを抱いていました。彼女は、悲しそうな、つかれた顔をしていました。でも、フロリーを見たとたんに、彼女はうれしそうな顔をしました。エイミーが、フロリーに言いました。「このあいだは、安息日学校に行けなくてごめんなさい。暗唱聖句はぜんぶ覚えたんだけど、赤ちゃんが病気になってしまって、この子の看病をしなくてはいけなかったの。」

フロリーは、「あなたのお母さんは、明日、わたしのおたんじょうび会に、あなたを行かせてくださるかしら?」とたずねました。

ちょうどその時、エイミーのお母さんがあらわれました。彼女は、フロリーのようなすてきな女の子が、エイミーをおたんじょうび会にさそったことを、たいそう喜んでくれました。フロリーとアンおばさんが出ていくころには、エイミーはすっかりにこにこ顔になっていました。

アンおばさんが、「つぎはどこ?」とたずねました。フロリーは、「ホワイトさんのおうちよ」と答えました。「そこには、トミーという男の子が住んでいるの。彼は耳が聞こえなくて、お話もできないの。でも、わたしはトミーを招待したいの。きっと、ほかの子たちも、彼に親切にしてくれると思うし、彼はナーシーおばあちゃんが大好きになるはずよ。」

トミーのお母さんであるホワイトさんは、とても信じられない、というような顔をし

ました。彼女は喜んで、明日トミーをフロリーの家へつれていくと、約束しました。

トミーの家を出ると、「あと一軒ね」とアンおばさんが言いました。

すると、フロリーが、「分かっているけれど、これでおうちに帰りましょう」と言いました。「うちに帰ってから、招待状を書くわ。」家にもどったフロリーは、まごころをこめて、最後の招待状を書きました。

「親愛なるスウィフト夫人、明日１時にはじまる誕生日会に、あなたを招待いたします。フロリー・スウィフトより。」

フロリーは、照れ笑いをうかべながら、アンおばさんにその招待状を手わたしました。彼女は、「それを、お母さんにわたしてくださらないかしら」とささやいて言いました。「もちろん、アンおばさんもぜひ来てくださいね。それから、ほかにだれを招いたかは、お母さんに言わないで。」

だれがおたんじょうび会にやってくるかも知らずに、お母さんはせっせとごちそうの用意をしてくれました。

つぎの日、アンおばさんが、「お客さんがいらしたわよ」と、フロリーに言いました。期待どおり、１時までには、招かれた客みんながそろいました。フロリーは、ごちそうがいっぱいのっている食卓の席に、一人ひとりを案内しました。ごちそうを作ってくれたお母さんをはじめ、みんなが食事を大いに楽しみました。

デザートの誕生日ケーキを食べたあと、リビング〔居間〕にうつりました。お母さんのひくピアノに合わせて、みんなで歌をうたいました。それからゲームをしたり、写真や本を見たりしました。

帰るとき、お客さんたちは、お母さんとフロリーに、すばらしいパーティーのお礼を言っていました。

その日の夕方、二人きりになったとき、お母さんが、「どうして、あのような人たちを招待しようと思ったの?」と、フロリーにたずねました。

「このあいだの安息日に、私たちが、おなかをすかせた人に食べさせ、足の不自由な人の手をとってあげ、貧しい人を助けてあげ、困った人に親切にしてあげると、イエス様はとても喜ばれると先生が教えてくれたの。私はただ、イエス様を喜ばせたかっただけなんだけど、喜んでもらえたと思う?」

「もちろんよ」とお母さんが言いました。「今日あなたがしたように、私たちが人々に親切にしてあげるとき、それはイエス様にしたのと同じことだと、イエス様はおっしゃったのよ。だから、イエス様はとても喜んでおられるはずだわ。」

フロリーはにっこり笑って、お母さんを抱きしめました。そして、「わたしも、とってもうれしかったわ」と言いました。

(完)

第9章
悲しいあやまち

子供のための日々の
聖書研究ガイド

暗唱聖句

「そして、わたしがこの地から上げられる時には、すべての人をわたしのところに引きよせるであろう。」
ーヨハネによる福音書 12：32

日曜日

イスラエルの人たちが荒野ですごす40年が、もうすぐ終わろうとしていました。またまた水が足りなくなり、のどがかわいてきました。ホレブでモーセが岩をたたいて水を出してから、このときまで、必要なものはいつでも備えられてきました。40年間、荒野のあちらこちらを移り住みましたが、彼らがどこへ行っても、神様が水を用意してくださいました。ですから、神様がこれからも水を備えてくださるだろうと、彼らは期待していたことでしょう。もしかしたら、砂漠に水がでるのは奇跡であるということや、これらの奇跡を行われた神様に感謝することを、忘れていたのかもしれません。

ところが、カデシに宿営〔キャンプ〕したものの、飲み水がありませんでした。彼らは、神様に祈ったでしょうか？いいえ。代わりに、どうしましたか？民数記 20：1－3。

彼らのしたことは、私たちが前に聞いたあることと似ていませんか？彼らはまたも、自分たちの必要を満たしてくださる神様に信頼するのは、いやだと言ったのでした。このとき、モーセとアロンはどうしましたか？また神様は、何をしなさいと言われましたか？6－8節。

初めて岩から水が出たときにモーセがしたことと、今回かれがすべきであったこ

ととの間には、ある違いがありましたが、それがなんであったか分かりますか？彼は、神様から言われたとおりのことをしましたか？9－11節。

モーセはいらいらし、怒っていました。それは言い訳になりましたか？12節。

考えてみよう：神様はなぜ、モーセに、あれほどきびしい罰を与えられたのでしょう？悪いのは、民〔イスラエルの人々〕のほうではなかったのですか？これまでずっと、モーセはじっとがまんしてきました。ところが今になって、民をカナンへ導くことができなくなってしまったのです。彼がしたことの、何がそんなにいけなかったのですか？何かを欲しくなったとき、あなたは、それをすぐに手にいれたいと思いますか？欲しいものがすぐに手に入らないからといって、怒ったり、ふきげんになったりすることはありませんか？

月曜日

ここで、きのう読んだ物語について、しばらく考えてみましょう。まず、何十年も前にモーセがたたいた岩には、とくべつな意味がありました。ちょうど、聖所のすべてのものがイエス様を示しているように、あの岩もイエス様をあらわしていました。

イエス様は、いちどだけ打たれることになっていました。彼が私たちのために死なれることになっていたので、人は、サタンから自由になるために必要となる、すべてのゆるしと助けが得られることになったのです。私たちにできるのは、ただ、イエス様にお願いすること、つまり彼に祈り求めることだけです。聖書を勉強し、イエス様について学ぶとき、私たちは命の水を飲むのです。モーセが二度も岩をたたいたので、岩についてのすばらしい教訓が得られなくなってしまいました。パウロの言葉を読んでください。Ⅰコリント10：4。

人々は、すべてをモーセのせいにしていました。そして、「われわれがあなたがたのために、この岩から水を出さなければならないのであろうか」とモーセが言ったことは、彼らのほうが正しいと言ったようなものでした。なぜなら、「われわれが…」と言うことによって、神様ではなく、自分たちがすべての原因であることを認めてしまったからでした。

指導者が神様に反すると、ひじょうに重大な結果を招くようになることは、すでに学んできましたね。そうなると、神様にしたがうのは、それほど重要なことではないと、人々は考えるようになります。モーセは、自分のしたことの言い訳をしましたか？まったくしませんでしたね。彼は、自分が罪を犯したことと、もう民をカナンの地に連れていけなくなったことを、みんなに語りました。小さい罪というものはありません。また神様は、かれが指導者だからという理由で、彼を大目に見ることはできませんでした。モーセは、ひじょうにがっかりしました。しかしこれで、人々は、神様が公正〔公平〕なお方であることを知ったのでした。

考えてみよう：自分がまちがっていたこ

とを認めたモーセの行動は、正しかったですか？私たちは、自分がまちがったことをしたとき、どのような態度をとってしまうことがありますか？

火曜日

エドムは、ヤコブの双子のお兄さんであった、エサウの子孫たちの国でした。イスラエルの人たちが、エドムを通ってカナンに入るというのが、神様のご計画でした。そこでモーセは、そのことについて、エドムの王様に、ていねいなメッセージを送りました。民数記 20：14－17。どのような答えが返ってきましたか。18 節。

イスラエルの人たちがもういちどお願いすると、つぎの返事はどういったものでしたか？ 19－21 節。もし彼らが神様に信頼し、訴えるのをやめていなければ、神様は、彼らにエドムを通らせ、安全に行かせることがおできになったはずです。ところが彼らは、遠回りの、もっとつらい道を行かなくてはなりませんでした。

神様は彼らに、けっしてエドムの人々と戦ってはいけないと言われました。そこには、神様を完全には捨てていない多くの人たちがいて、その人たちを滅ぼすべきではありませんでした。

イスラエルの人たちがホル山にやってきたとき、神様はモーセに、アロンの死ぬ時がきたと言われました。アロンはこれまで、大祭司として働いてきました。大祭司というのは、聖所のつとめにおいて、イエス様を代表する人でした。彼は神様を愛し、モーセの心強い味方でした。アロンもまた、民からなんども悩まされてきましたが、人々はかれを愛していました。

シナイ山のふもとで、アロンは金の子牛をつくらせて、人々に拝ませたことがありました。また彼は、ミリアムといっしょになって、モーセとチッポラに文句を言ったこともありました。モーセが岩を二度たたいたときは、彼に賛成していました。神様は、そんなアロンをゆるし、愛しておられましたが、罪は罪だということを、人々に分からせなくてはいけませんでした。

アロンの息子であるエレアザルといっしょに、ふたりの年老いた兄弟がホル山をゆっくりと登っていくのを見て、みんなは悲しくなりました。もう二度とアロンに会えないことが、分かっていたからでした。モーセとエレアザルが山からもどってきたとき、エレアザルは、大祭司の衣を着て

いました。アロンが死んだことが、一目でわかりました。モーセとエレアザルが、彼の死んだ体を山にうめたのでした。アロンの死を悲しむため、カナンへの旅をつづける前に、人々はそこに30日間とどまりました。

考えてみよう：ひどいやけどか、切り傷のあとが残っている人を、見たことがありますか？大きいけがややけどの跡は、一生消えることがありません。傷跡をもっている人に、そのことを尋ねてみたら、傷を負ったときのことを話してくれるかもしれません。罪を犯しても、あとが残ります。神様は喜んでゆるしてくださいますが、罪が私たちの体と心にどんな傷跡をのこすかをご存知なので、神様は悲しまれるのです。罪は、ほかの人々をも傷つけてしまうことがよくあります。しかし、いつの日か、罪は永遠になくなるのです。

水曜日

イスラエル人たちは、自分たちのいちばんの敵が、自分自身であることを悟ることができないようでした。彼らには、何かあればすぐに文句を言うくせがあり、そのために、神様は彼らを助けたくても、助けられないことがよくありました。

カナンとの国境〔国と国とのさかいめ〕に沿って進んでいた彼らに、神様は、滅ぼすべき国はどれか、また害してはいけない国はどれかを告げられました。どうして、そのようなことをなさったのでしょう？なぜなら神様は、完全にサタンにつくことを選んでいない国がどれかを、正確にご存知だったからでした。その人や国にわずかでも望みがあるかぎり、神様は、生きかたを変えるチャンスを与えようとなさるのです。

カナンのすべての国々は、イスラエルのことを知っていました。彼らにも、神様がイスラエル人をとくべつに守っておられることが分かりました。彼らみんなに、神様のことを学ぶチャンスが与えられていました。ところが、彼らのほとんどは、サタンにしたがうことを選んだのでした。彼らのおこなっていた悪は、口にするのも恐ろしい、あまりにもひどいものでした。まるで、ソドムや洪水前の人々のようでした。神様は、どんな人間でも、滅ぼしたくないと考えておられます。しかしカナンには、けっして変わろうとしない国が、いくつもあることをご存知でした。これらの国々は、罪悪という恐ろしい病気を、ほかの国々にまでうつしてしまうのでした。そのような国は、滅ぼすしか手がありませんでした。

イスラエル人たちがやってくることを耳にした、あるカナンの王様は、兵隊をひきつれて彼らに向かっていきました。何が起こりましたか？民数記21：1－3。

考えてみよう：神様は、とてもむごいことをなさる方だと、多くの人が考えています。神様はただ、何が最善〔いちばんいいこと〕かをご存知なのです。神様はすべての人を愛され、いつでも公平です。ですから、私たちは神様に信頼することができるのです。本当のたたかいは、神様

とサタンとの間でなされていますが、サタンはいつもずるい手を使います。

木曜日

エドムの王様は、イスラエル人たちがエドムを通るのをゆるさなかったので、神様はかれらに遠まわりをさせて、カナンの中で、最初に行かせようとしていた場所へ導かれました。でもそれは、楽な旅ではありませんでした。

しばらくすると、人々はまたも文句を言い出しました。これまで神様がどれだけ彼らを助けてこられたかを、まったく分かっていないことを、神様はご存知でした。そのうえ、食べ物と水も、毎日じゅうぶんに用意してくださっていました。さらに、彼らとかれらの家畜が、野生の動物に殺されたり、毒ヘビにかまれたりすることがないように守ってこられたのでした。

そこで、これまでどれほどの祝福を受けてきたかを分からせるために、神様は、保護〔守り〕のみ手を引っ込めることにしました。すると、どうでしょう！人々は、次からつぎへとヘビにかまれ、おおぜいの人が死んでしまったのです。今となっては、自分たちが文句を言っていたことも忘れてしまいました。みんな、恐ろしくてびくびくしていました。安全な人は、ひとりもいないように思われました。

人々は、モーセのもとに押しかけました。彼らは、なんと言いましたか？**民数記 21：7**。

神様はモーセに、何をするように言われましたか？それから、何が起こりましたか？**8節と9節**。

なんと変わった治し方でしょう！命のない、青銅のヘビが、どうして死にそうな人をいやすことができたのでしょう？実際、そんなことはあり得ないと考えたある人たちは、ヘビを見ようとしませんでした。そして、彼らは死んでしまったのでした。

考えてみよう：時には、私たちがどれほどの祝福を天からいただいているかを分からせるために、神様は、これらの祝福をとり去られることがあります。これらの祝福はすべて神様からのものであり、そもそも私たちは、ひとつの祝福ですら受けるにふさわしくない者であるのに、そのことをたびたび忘れてしまうのです。いつでも、感謝の心をもつようにしましょう。

金曜日

青銅のヘビは、何を意味していましたか？それを見るだけで、ほんものの毒ヘビにかまれた人たちが、どうして助かったのでしょう？そのことについて、しばらく考えてみましょう。

聖書の**黙示録 20 章 2 節**の中で、サタンはなんと呼ばれていますか？

罪がはいってくる前、アダムとエバは、自然に神様の律法にしたがっていました。ところが罪がはいってきた後は、したがうよりも、さからうほうが自然になってしまいました。そこで、このような人間を救い出すために、神様はすばらしい計画を立てられました。それは、罪深い人間が、イエス様の助けによって、ふたたび従えるようになるための計画だったのです。

そして、私たちを助けることができるようになるために、イエス様は人間になる必要がありました。神様に頼るとき、人は十戒にしたがうことができるようになることを、証明〔証拠を示して明らかにすること〕しなければなりませんでした。

けれども、それだけではありませんでした。罪を犯した者は、かならず死ななくてはなりませんが、イエス様は、全世界の罪の代価〔損害〕を支払おうとしておられたのです。すべての人が、生か死かのどちらかを選べるようになるためには、彼が死ななくてはなりませんでした。しかもそれは、永遠の死という恐ろしいものでした。**ローマ6：23**。

イエス様が死んでくださったので、私たちは、彼が約束してくださったすばらしい贈り物、つまり永遠の命をいただけるようになりました。私たちは、選びさえすれば、サタンの力から自由になれるのです。つぎの段落のあいているところに、あなたの名前を書きいれてください。

サタンが、「_____は罪を犯した。_____は私のものだ。_____は永遠に滅びて当然だ」と言うとき、イエス様は、つぎのように言われます。「そのとおり。_____は罪を犯した。でも、_____はあなたのものではない。私がの罪の代価を払って買い戻したので、_____は私のものだ。私は_____のために、永遠の死を味わった。私の手にある釘の跡を見なさい。私は、_____と、世界中のすべての人のためにそうしたのだ。_____は、もうあなたの奴隷ではない。間もなく、私とともに、永遠に生きるのだ。私は毎日、_____が、あなたではなく、私のようになるのを助けてあげている。」

ヨハネによる福音書 3 章 14 節で、イエス様はなんと言われましたか？人の子が

「上げられ」るとは、どういう意味ですか？ここでイエス様が話しておられた相手の人は、荒野での青銅のヘビについて、よく知っていました。それが、人々をかんでいたヘビに似ていたように、イエス様も、この世界に来られるときは、ほかの人たちと変わらない姿をしていました。ローマ8：3。荒野で青銅のヘビがあげられたとき、それを見上げた人たちがいやされたように、イエス様も、サタンというヘビにかまれた人々が、彼を見上げていやされるために、十字架にあげられて死なれたのでした。

荒野でモーセがあげたヘビを見ることは、イエス様が十字架でしようとしておられたことを、信仰の目で見ることをあらわしていました。イエス様は、彼に信頼するすべての人を、救おうとしておられたのです。

考えてみよう：私たちはみな、サタンというヘビにかまれてしまいました。しかし、一度たりとも、イエス様をかむことはできませんでした。イエス様でも、もしサタンにかまれたら、罪びとになってしまうのでした。罪びとになってしまったら、私たちのために死んで、罪の代価を払うことができなくなります。サタンに負けることなく、イエス様が罪の代価を払ってくださったことについては、どんなに感謝しても、感謝しすぎるということはないはずです。イエス様を見上げつつ、歩みつづけましょう。

もっと学ぼう！

★民数記 20：1-21；21：1-9
★人類のあけぼの下巻 p. 1-36
★あがないの歴史 p. 202-208

あと1分—パート1

エイミー・シェラード

「お母さん、お願いだから、今日みんなでどこへ行くのか教えて」と、ラリーがせがみます。お母さんと、妹の三人で、朝ごはんを食べているときのことです。

妹のハイディーもくわわります。「そうよ、お願いだから教えてよ。」ところがお母さんは、にこにこしながら首を横にふりました。

「それは秘密よ。ただ言えるのは、10時ちょうどには、居間にいらっしゃいということだけです。10時に家をでますからね。」お母さんは、それだけしか話してくれませんでした。

ラリーは、うで時計を見ました。「心配しなくてもいいよ、ハイディー。もうじき、分かることだから。」そう言ってから、窓の外をちらっと見た彼は、とつぜん立ち上がりました。「チャーリーだ。作業場で、あるものを見せてあげるって、彼に約束していたんだ。」それからすぐに、ラリーは友だちをでむかえるため、外に出ていきました。

ふたりの男の子たちは、9時すぎまで、いっしょに遊んでいました。それからラリーは、家にもどらないで、組み立てている途中だったたこを仕上げることにしました。

しばらくたってから、ふたたび腕どけいを見たラリーは、思わずぎょっとしました。10時を3分すぎていたのです。大あわてで家にもどった彼は、居間にだれもいないのを見て、ほっとしました。

ラリーは、叫びました。「ハイディー、どこにいるの?」しかし、返事がありません。

階段をかけのぼって、お母さんの部屋に行きました。もしかしたら、出かける用意をしているかもしれません。けれども、部屋にはだれもいませんでした。お母さんと妹が、これほどすばやく出ていったなんて、信じられませんでした。まだ、10時をほんの数分しかすぎていません。ラリーは、走ってふたりを追いかけることにしました。ところがその時、ふたりの行き先を知らないことを思い出したのです。どこに向かって走ってよいかも、分かりませんでした。

お手伝いさんのジェーンが、台所にいました。彼女は、ラリーのことをかわいそうに思いましたが、彼が何もきかなかっ

たので、ほっとしていました。お母さんと妹がどこへ行ったのか、夕食の時間までは話さないようにと言われていたのです。

ラリーは、自分ががっかりして涙を流しているすがたを、ジェーンに見られたくなかったので、作業場にもどって、たこ作りをつづけました。そして作業をしながら、しばらく考えていました。お母さんと妹は、まもなく帰ってくるだろうとばかり思っていました。かえってきたら、ほんの数分も待ってくれなかったことで、お母さんに文句をいうつもりでした。

夕食の時間になったので、家にもどってみると、驚いたことに、テーブルに並べられたお皿は、ひとりぶんだけでした。お母さんが、いちにちじゅう家を留守にしたことは、これまでほとんどありませんでした。それにしても、ふたりはどこへ行ってしまったのでしょう?ひとりで食事をすることになったラリーは、さびしくて仕方がありませんでした。

ジェーンがパイをもって入ってきたとき、ラリーは、どうしてお母さんがまだ帰らないのか尋ねました。

ジェーンは悲しそうな顔をし、ちょっとためらっていましたが、思いきって言いました。「ラリー、気の毒だけれど、あなたのお母さんは、今日はもどらないわ。それどころか、明日になっても帰ってこないの。彼女とハイディーがもどるのは、来週の月曜日の朝よ。」

「月曜の朝だって!」ラリーは、まったく信じられませんでした。「ふたりは、どこへ行ったの?」

こんどはもっと、言いづらいことでした。ラリーには、ふたりがどこへ行ったのか、言いたくなかったのです。なぜなら、言えば、彼はもっとがっかりするに決まっているからです。

(つづく)

第10章
よくばりな預言者バラム

子供のための日々の聖書研究ガイド

暗唱聖句

「令名は大いなる富にまさり、
恩恵は銀や金よりも良い。」
箴言 22：1

日曜日

ここちよい、すずしい風！緑の草や木！旅をしているところは、以前よりもはるかにすばらしくなっています。とうとうイスラエルの人たちは、長年つきあってきたからからの砂漠にお別れをしたのです。今かれらは、モアブの地に近づいていました。

モアブ人は、ロトの子孫でした。彼らは偶像をおがんでいましたが、かれらに危害を加えてはいけないと、神様はイスラエル人に言われました。そこでイスラエルの人たちは、モアブの土地をとおらずに、そのはしを回って行ったのでした。

間もなくすると、アモリ人の国にやってきました。アモリ人たちは偶像をおがんでいて、しかも神様を憎んでいました。イスラエル人が自分たちの国にやってきたことを、アモリ人たちはかえって喜びました。なぜなら、かれらと戦っても、勝てると思っていたからです。彼らの王様は、シホンといいました。モーセはシホンに、友好的な〔親しみのある〕メッセージを送りました。民数記 21：21－22。

シホンは、モーセの頼みを断っただけでなく、イスラエル人と戦うために、兵隊をひきつれて出ていきました。

イスラエルの人たちは、恐怖に満たされました。あのような強力な軍隊に、どうやって勝つことができるでしょうか？けれども神様は、かならず勝てると、すでに約束しておられたのです。さらに、その戦いが終わったら、カナン中のすべての国々はイスラエルを恐れるように

なるだろうと、神様は約束しておられました。**申命記 2：24 － 25**。

モーセは、雲を注意して見ていました。雲は、前に向かって動いていました。神様が彼らといっしょにおられることが、それで分かりました。民〔イスラエルの人たち〕も、できるだけの準備をすべてやりました。それから、何が起こりましたか？**民数記 21：24**。

何百年もむかし、神様はアブラハムに、カナンにいる悪人たちには、悔い改める〔あやまちを反省して生き方を変える〕ための時間をもっと与えたいと言っておられました。今やすべてのカナン人は、神様がご自分の民をエジプトから救い出して、かれらを助けてこられたことを知っていました。彼らには、じゅうぶんな時間が与えられました。けれども、聖霊を断ったために、もっと悪くなってしまったのでした。

考えてみよう：ペテロ第二の手紙 3 章の 9 節は、神様についてなんと言っていますか？神様が私たちを愛しておられ、しんぼう強くあつかわれることを、私たちはもっと喜び感謝すべきではないでしょうか？

月曜日

巨人？そうです。バシャンの王様オグの兵士たちは、巨人ぞろいでした。高くてがんじょうな城壁？そうです。そのことについても、スパイ〔密偵〕たちの報告どおりでした。しかし、神様は雲の中におられて、イスラエル人に勝利を与えると約束しておられました。雲はかれらを、バシャンのほうへと導いていました。**民数記 21：33**。

オグ王とかれの軍隊は、戦いたくてうずうずしていました。イスラエルの人たちは、何千何万という巨人の軍隊を、遠くから見ることができました。彼らのりっぱな槍も見えました。オグという王様も見えましたが、彼は、兵士たちよりもさらに大きい人でした。王様と兵士たちが、イスラエルとその神様をのろう叫び声が聞こえてきました。このような軍隊に、どうやって勝つことができるでしょうか？

イスラエルの人たちがモーセを見ると、彼はとても落ち着いていました。まったく恐れていません。彼のようすを見て、みんなも勇気がわいてきました。モーセが神様の約束に信頼していることが、かれらにも分かりました。この恐ろしい敵に、かれらは勇敢に立ち向かっていきました。そして、勝利をおさめたのです。**34 節と 35 節**を読んでください。

まもなく、オグとその強力な軍隊がやっつけられたことを、カナン中の人たちが耳にしました。今やかれらは、イスラエル人が本当にこわくなりました。神様の言われたとおりのことが、起こったのです。

イスラエルの兵士たちが宿営〔キャンプ〕にもどって、神様が与えてくださった勝利のことをみんなに語ると、人々は大いに喜びました。40 年前、神様は、かれらのお父さんたちにも、あのような勝利を与えたかったのです。しかし、神様を信じ

るのはいやだと言ったので、勝利は与えられませんでした。

考えてみよう: 神様にとって、勝利をあたえるのは、わたを吹き飛ばすくらいかんたんなことです。ただし、私たちは神様に信頼しなくてはいけません。**コリント人への第一の手紙 15章57節**を読んでください。この聖句を覚えてみてはどうですか。

火曜日

モアブの王バラクは、恐れおののきました。イスラエル人がモアブ人を襲ったことはありませんでしたが、彼らがシホンとオグの強力な軍隊をうちやぶったことをバラクは知っていました。バラクと王子たちは、イスラエル人が自分たちの国にもせめてくるのではないかとびくびくしていました。

モアブ人は偶像を拝み、魔術〔人の心を惑わすふしぎな術〕を信じていました。ところが、イスラエルの神は、どの神々や魔術よりも強いことがわかったのです。だれか、自分たちを助けてくれる者はいないだろうか?そのときだれかが、遠いところに住んでいるバラムという預言者のことを思い出しました。かれには祝福したり呪ったり、未来のことを当てる力があると聞いたことがありました。そこで、バラムに助けを求めることにしました。

すぐに、使者がモアブを出発しました。何日も旅をして、ようやくバラムの家に着きました。彼らはバラムに、エジプトを出たイスラエル人たちが、カナンの地に入ってこようとしていることを話しました。イスラエル人と戦っても勝つ見込みがなく、今はモアブの近くに野営していることを話しました。使者たちはバラムに、なんといってお願いしましたか?**民数記 22：6**

いったいバラムとは、何者だったのでしょう?驚くかもしれませんが、かつてかれは神様の預言者で、いい人だったこともあったのです。たしかにこの時も、自分は神様の言うことに従うつもりだと言いました。ところが、けっきょくはお金がかれの神になっていたのです。バラクは、バラムに大きな報酬を約束していました。かれは、モアブの長老たちに何と言いましたか?**7－13節**。

長老たちはモアブにもどって、バラムの返事を王に伝えました。これで、王のバラクはあきらめましたか?それは、明日わかります。

考えてみよう: 神様がふしぎな方法でイスラエル人を導かれたことについて、バラムはすでに知っていました。かれが本当に神様に仕えていたとしたら、その場で使者たちに何と言ったと思いますか?サタンに誘惑されたら、私たちはどれだけ早く、

神様にしたがうことを選ぶべきですか?したがわないための言い訳をさがすべきですか?

水曜日

バラク王は、わらにもすがる思いでした。一体どうしたら、バラムをここにつれてきて、イスラエル人を呪ってもらえるだろうか? 報酬をもっとふやしたら、またもっとえらい使者をつかわしたら、バラムの気がかわるかもしれない。**民数記 22 章 15 から 17 節**を読んでください。

こんどこそバラムにとって、真の神様に仕えていることを証明するチャンスでした。それなのに、かれはどうしましたか?また何が起こりましたか? **18 − 21 節**。

神様はバラムの好きなようにさせましたが、自分の言葉ではなく、神様の言葉だけを語るようにと念をおしました。そしてモアブへの道中で、自分がどんなに間違っているかを分からせるために、神様はある驚くべきことをなさいました。とつぜん、バラムのロバがおかしな行動をとったのです。どんな行動でしたか?また、ロバはなぜそうしたのでしょうか? **22 − 23 節**。

バラムには見えないあるものが、ロバには見えました。しばらくたってから、ロバはふたたび、おびえたような行動をとりました。このかわいそうな動物は、ほかにどうしてよいか分かりませんでした。なぜでしたか?また、バラムはどうしましたか? **26 − 27 節**。

バラムはもう、かんかんに怒っていました。あまりに怒りすぎて、ロバがしゃべるというとてつもない奇跡を目にしても、それに気づいていないようでした。そして、まるで人に対して話すように、ロバに反発したのでした。**28 − 30 節**。

ついに、天使はバラムの目を開いて、どうしてロバがあれほど怖がったかを見させます。さあ、こんどはバラムが恐れおののく番です。天使は、バラムが恐れるのも当然の、あるものを手にもっています。そしてそれは、罪のないロバにではなく、バラムに向けられていたのでした。

考えてみよう: 人々が動物たちを残酷にあつかうのを、神様はどう思われますか?私たち一人ひとりの行動を、つねに天使が見守っているのを知っていましたか?バラムはそのことを思い出したのでしょうか?私たちは、いつもそのことを意識しているでしょうか?

木曜日

バラク王は、わくわくしてきました。ついにバラムが、イスラエル人を呪うために来てくれるそうなのです。バラク王は、喜びいさんでバラムを迎えに行きました。バラムは、神様が彼に言われたことを、王様に伝えましたか? **民数記 22:**

37－38。

次の日、バラク王は、イスラエル人の野営地が見下ろせる場所にバラムをつれて行きました。かれらが見た野営地は、どんなようすでしたか？第32課でえがかれていましたね。とても清潔で、すべてが完全にきちんとされていました。しかも、聖所の上には雲がかかっていました。イスラエル人がいつも雲に導かれていたことは、みんなが知っていました。

バラムは、イスラエル人が犠牲をささげていることを知っていたので、自分も犠牲をささげることにしました。しかも、イスラエル人よりも7倍も多くささげるつもりでした。民数記23：1－4

バラムが神様に言ったことから、神様に心を変えてもらいたいというようすがうかがえますか？

神様が語られたのは、イスラエル人への美しい祝福の言葉でした。神様が言われたことをバラク王やモアブの王子たちに伝えたときの、バラムの気持ちを想像できますか？5－10節。バラク王や王子たちは、どう思いましたか？11節。

そこで王は、別の場所で同じことを試みることにしました。しかしまたも神様は、イスラエル人を祝福なさいました。バラク王は、もう頭に血がのぼって、気が変になりそうでした。それでも、もう一回だけやってみることにしました。27－30節。

神さまがイスラエル人に与えた祝福は、さらにすばらしいものになっていました。かんかんに怒ったバラク王は、バラムを追い返そうとしました。立ち去ろうとしたバラムに、神様はさらなるお告げを与えられました。そのお告げを語ってから、バラムは帰って行きました。バラク王は怒り狂い、バラムはがっかりしていました。報酬がもらえなかったからです。

考えてみよう：きっとあなたと家族の人たちは、バラムをとおして神様が与えられた美しい祝福と預言の言葉を読んで、喜びにみたされるはずです。安息日に入る前の礼拝で、そこを読んでみてはいかがでしょう？民数記23：24

金曜日

今週の物語において、バラムは十戒のどの戒めを破っていましたか。最初の戒めですか？最後の戒めですか？それとも両方ですか？聖書を見ないで、これらの戒めを言うことができますか？ 出エジプト 20：3，17。

バラムは今でも、バラク王が約束した報酬がほしくてたまりません。その報酬を得ることを、神様がさまたげたにもかかわらずです。しばらくたってから、バラムはふたたびモアブにやってきて、あくどい計画について王に語りました。この計画なら、神様にもさまたげられないだろうという自信がありました。こんどこそうまくいくと言うので、バラクもやってみることに賛成しました。モアブ人とミデアン人がいっしょになって、彼らの神であるバアルをあがめる大きな祝いの儀式を計画して、イスラエル人をまねくことにしました。

彼らは、「どうかいらしてください。美しい女たち、歌や踊り、ごちそうやお酒もいっぱいあって、きっと楽しいですよ」といってイスラエル人をさそいました。

イスラエル人はヨルダン川をわたってカナンの地に入る用意をしていましたが、何千何万という人たち、また多くの指導者たちまでも、そのお祝いに行ったのでした。かれらは、神様の十戒を忘れてしまっていました。多くのイスラエル人が、モアブ人やミデアン人といっしょになって、バアルを拝んでいたのです。

そのことを知ったモーセは、たいへんなショックを受けました。ご自分の民がこのように神様にさからっている間は、彼らを約束の地に導くことはできないのを、モーセは知っていたのです。すぐに、バアルを拝んだ者たちを滅ぼすようにとの命令が、忠実な指導者たちに伝えられました。

もちろん神様は、罪を犯しても心から悔い改めた人たちを、喜んでゆるしてくださいました。しかし、モアブ人とバラムは、自分たちがサタンを選んでいたことを証明したのでした。後に、イスラエル人がミデアン人と戦ったときに、彼らと暮らしていたバラムは、命を落としたのでした。

考えてみよう： 利己心〔自分の利益だけを考えて、他人のことを考えない心〕は、決して幸福をもたらしてはくれませんね。ユダの手紙 11 節を読んでください。

もっと学ぼう！

★民数記 21：21-25：18
★人類のあけぼの下巻 p. 37-76

あと1分—パート2

エイミー・シェラード

ラリーのお母さんは、いいことがあるから、10時にはかならず居間にいるようにと言っていました。ラリーが遅れてやってくると、お母さんと妹は、すでに出かけたあとでした。夕食のとき、お手伝いさんのジェーンに、お母さんと妹がどこへ行ったのかたずねました。

とうとうジェーンは、ラリーの質問に答えました。「あなたのお母さんとハイディーは、列車に乗って、メリーおばさんのところへ行ったの。」ジェーンは、ラリーの肩を軽くたたきながら話しましたが、とても悲しそうな顔をしていました。「ごめんなさい、ラリー。あなたは旅行に行けなかったのよ。」

それを聞いたラリーは、たいへんなショックを受けました。お母さんとハイディーが旅行に出てしまったとの知らせは、とてもつらいものでした。メリーおばさんの農場は、ラリーにとって、世界中のどこよりも行きたいところでした。ラリーの手から、ナイフとフォークが落ちました。彼はテーブルを離れ、2階の部屋へ走っていきました。部屋の戸をしめてから、彼は、ベッドに身を投げ出しました。大きくなったとはいっても、まだ子供です。かれは、目からあふれ出てくる涙をとめることができませんでした。

思いっきり泣いてから、ベッドの上にすわりました。彼は、お母さんに言われたことを思い出していました。たしか、10時ちょうどには居間にいなさいと、なんども言っていました。それが、お母さんの秘密の計画に参加するための条件でした。

しかし、ラリーが思い出したのは、それだけではありませんでした。彼は時間に遅れるくせがあり、そのたびにいろんな人に迷惑をかけていたので、お母さんからなんども注意されていました。このまま大きくなったら、この悪いくせのために、もっと大きな問題をまねいてしまうだろうとも言われていました。いつでもきっちり時間を守り、だれからも信頼される人になりなさいというのが、お母さんの口癖でした。

お母さんとハイディーは、列車の出発時間におくれないように、どうしても10時には家を出なければいけなかったのでしょう。きっとお母さんは、自分が10時までに用意ができていることを、心から願っていたのだろうと、ラリーは思いました。しかしもし彼が遅れて、列車に乗ることができなくなったら、それはそれで、悪いくせをなおす機会になるかもしれませんでした。

ラリーは、ほかの人に親切になりたいと、心から思いました。自分がおそくなって待たせてしまったために、これまでたくさんの人に迷惑をかけてきたことを、彼は思い出しました。そして生まれて初めて、このおろかなくせが、どんなによくないことかが分かったのでした。このくせをなおそうと、かれは心に決めました。

ラリーは、メリーおばさんの農場に行けなかったことが、残念でなりませんでした。以前そこで楽しくすごした思い出が、よみがえってきました。馬にのったり、牛やニワトリにえさをあげたり、犬と遊んだり、木のぼりをしたり、森の中を散歩したりと、楽しい思い出ばかりです。ラリーと妹は、これまでなんども、またあそこに行かせてもらいたいとおねだりしました。ところが、メリーおばさんの農場は遠いところにあり、女手ひとつで自分たちを育てているお母さんはとても忙しいので、なかなか行くことができなかったのです。

ラリーには、考える時間がたくさんありました。安息日の礼拝説教も、まるで自分のために語られたお話のようでした。

牧師の先生は、ほかの人に思いやりをもつことと、時間をむだにしないことがどれほど大切かを話していました。

とうとう、月曜日の朝がやってきました。ラリーは、お母さんとハイディーを笑顔でむかえることができました。お母さんはすぐに、かれが教訓を学んでくれたことが分かりました。きっとこの大事な息子は、いつでも約束したことと、時間を守る大人になることでしょう。

（終わり）

第11章
ついに約束の地へ

子供のための日々の
聖書研究ガイド

暗唱聖句

「主はわれらのために大いなる事をなされたので、
われらは喜んだ。」—詩篇 126：3

日曜日

うれしい経験と悲しい経験を、同じときにしたことはありませんか？旅行をしたときはどうでしたか？楽しい時が終わってほしくないと思ったかもしれませんが、同時に、家族やペットや友だちが恋しくなったことはありませんか？

もうすぐヨルダン川をわたって、神様が約束してくださった美しい地にはいろうとしていたイスラエルの人たちは、とてもわくわくしていました。しかし同じときに、モーセが大好きだった彼らは、あのすばらしい指導者〔リーダー〕がいなくなったことを、さびしく思っていました。

自分たちがなんども神様に信頼するのをことわり、モーセを苦しめてしまったことを、かれらは思い出していました。とうとう、たったいちどだけ、モーセはがまんができなくなり、怒ってしまいました。彼の言葉は、人々に神様の力を信じなくさせても仕方のないものでした。モーセを愛しておられた神様は、喜んでかれをおゆるしになりましたが、それでも、かれに罰を与えなくてはなりませんでした。

アロンが死んだとき、かれの息子とモーセがそばにいました。しかしモーセが死ぬときは、たったひとりでネボ山の頂上までのぼっていきました。ただし、本当にひとりぼっちではありませんでした。実は、いちばんのお友だちが、彼といっしょにおられました。モーセはふたたび、カデシで岩をたたいて悪い言葉をだしたことを、神様にあやまりました。

山のてっぺんから、モーセは、ヨルダン川とその向こうの景色をながめていました。イスラエルの人たちは、そこに住むことになっていました。このとき神様は、モーセのために、ある奇跡をおこなってくださいました。神様はモーセに、ビデオのよう

なものをお見せになったのでした。モーセは、自分が死んだあとに起こることを見せられました。赤ん坊としてお生まれになる、イエス様も見せられました。イエス様が十字架にかけられる場面では、思わず泣いてしまいました。しかしその次に、イエス様がよみがえり、天にのぼっていかれるようすも見せられました。さらにまた、イエス様がふたたび地球に戻ってこられる場面も見せられたのでした。これが、再臨の光景です。

「ビデオ」が終わったとき、モーセはホッとため息をついたことでしょう。それから横になり、すぐに眠りにつきました。死んだかれを、イエス様と天使たちが埋葬〔死んだ体を土にうめること〕しました。

考えてみよう：モーセの物語は好きですか？その物語を、ほかの人に話して聞かせることができますか？できれば、やってみてください。

月曜日

モーセが今どこにいるのか、あなたは知っていますか？今でもかれは、イエス様と天使たちによって入れられた、あのさびしい墓の中にいるのでしょうか？いいえ。モーセが死んでまもなく、ふたたびイエス様と天使たちがきて、かれを起こしたのでした。

そこには、ほかにもだれかがいました。サタンです。サタンはイエス様に向かい、モーセは自分のものだと言ったのでした。しかしモーセは、神様の救いの計画をちゃんとわかっていました。かれはイエス様に信頼していたので、自分が死んでも、いつまでもよみがえらないとは思っていませんでした。イエス様を愛し、信頼し、したがう人たちにとって、死ぬのはしばらく眠るようなものなのです。

イエス様は、サタンと言い争いませんでした。サタンは最後に死んで、いつまでもよみがえらなくなることを、イエス様はごぞんじでした。**ユダの手紙 9 節**を読んでください。イエス様は、いとしいお友だちであるモーセにふたたび命を与えてくださり、天国へと連れていかれたのでした。

もし、イエス様がおいでになる前に私たちが死んでも、かれは、モーセにしたのと同じことを、私たちのためにしてくださいます。**Ⅰテサロニケ 4：16 － 17。**

考えてみよう：モーセは兵士であり、羊飼いであり、詩人であり、記者であり、またすばらしい指導者でした。羊飼いであったころに、聖霊がかれに、創世記とヨブ記を書かせました。かれはほかにも、

出エジプト記、レビ記、民数記、そして申命記を書きました。モーセは生まれつき短気〔すぐ怒ったりいらいらしたりすること〕でしたが、神様の助けにより、忍耐〔がまんすること〕を学びました。**民数記 12 章の 3 節**には、モーセについてなんと書かれていますか？イスラエルの民に向かっては、いちどだけ短気をおこしたことがありました。私たちも、イエス様から忍耐を学ぶことができますか？

火曜日

モーセはいなくなりました。かれがいないと、だれがどうやって、イスラエル人を率いればよいのでしょう？人々は、聖所の上にある雲を見あげました。雲はまだそこにありました。神様はヨシュアをおえらびになって、モーセの代わりにイスラエルの指導者とならせるつもりでした。

モーセは死ぬ前に、ヨシュアとなんども話をしました。ヨシュアがやるべきすべてのことを、モーセは注意ぶかく書きとめていました。モーセはまた、民と顔を合わせて、十戒を注意ぶかくおさらい〔復習〕していました。**申命記 5 章**を読んでください。昔エジプトを出てから起こったすべてのことを、かれは人々に思い起こさせていました。

もし従うなら、神様がいろいろな方法で祝福してくださるだろうと、かれらに伝えていました。もし従わなければ、どのようなことが起こるかということも、伝えていました。もしもサタンにしたがうことを選ぶなら、神様は、どうして彼らを祝福することができるでしょうか？とりあえず、イスラエルの人たちは、神様にしたがうことを約束しました。

ヨシュアは勇気があって頭もよく、モーセとともに何年も忠実に働きましたが、さすがのかれも、モーセの助けなしにイスラエルを率いることを恐れました。神様は、ヨシュアの気持ちをよくごぞんじでした。そこで神様は、どんな約束をしてくださいましたか？**ヨシュア記 1：5**。

ヨシュアとの話の中で、神様は、四度も同じはげましの言葉を語られました。**ヨシュア記 1：6－7，9，18**。

神様がいっしょに行ってくださって、勝利を与えられるとの約束を、ヨシュアは信じました。彼らがまず占領〔戦って支配〕することになっていたのが、エリコという都市でした。その都市は、ヨルダン川の向こう岸にあり、高くてがんじょうな城壁で囲まれていました。しかしヨシュアは、勇気にみちあふれていました。

考えてみよう：こんにち、高くてがんじょうな城壁に囲まれた都に住んでいる敵はいませんか？いませんね。では、ほかの種類の敵はいませんか？ほかの人たちと違うことを恐れる心は、どうでしょうか？ときには、本当のことを語るのが、こわくなることはないでしょうか？ほかに、どんな敵が考えられますか？イエス様は、私たちにも、「強く、また雄々しくあれ〔勇気を出しなさい〕」と言っておられます。

水曜日

「トントン!」だれかが戸をたたいています。兵士たちです。

エリコがどれほど大きくて強い都市なのか、またそこに住んでいるのはどんな人たちなのかを調べさせるために、ヨシュアは、ふたりのスパイ〔密偵〕をおくっていました。ふたりのスパイは、ラハブという女の人の家に泊まっていましたが、どういうわけか、そのことがエリコの王様に知れてしまったのでした。兵士たちはなんと言いましたか?ヨシュア記2：3。ラハブは、どうやってスパイたちを助けましたか? 4節。

十戒の中に、うそをついてはいけないという戒めがありますが、ラハブは神様の戒めを知りませんでした。本当の神様についても、ほとんど知りませんでした。ただ、イスラエルの神様は、ほかの神々とちがって、とても力強いおかたであることだけは知っていたようです。

ラハブは、スパイたちをかくまうことにしました。彼女はかれらに、エリコの人々は、イスラエル人を大変こわがっていることを伝えました。11節を読んでください。そのことを聞いたスパイたちは、カナン人を恐れさせるとの神様の約束を思い出したはずです。

エリコの王様は、どんなことをしてでもイスラエル人を自分の都からしめだそうとしていましたが、神様の力のほうがまさっていて、イスラエル人が勝つだろうとラハブは考えていました。

ラハブは、イスラエルがこの都を征服したら、自分と自分の家族を守ってほしいとお願いしました。かならず守ってあげると、スパイたちは約束しました。12－21節。

なんとかエリコをぬけだしたスパイたちは、しばらく丘に隠れてから、イスラエルのキャンプに戻っていきました。それからかれらは、ヨシュアにどんな報告をしましたか? 24節。

考えてみよう：ラハブは、偶像ではなく、本当の神様に信頼することをえらびました。ヘブル人への手紙11章の31節を読んでください。神様は、私たち一人ひとりをよく知っておられます。ラハブが神様をえらんだときは、とても喜ばれたことでしょう。毎日、私たちが神様をえらぶときも、たいへん喜んでくださるのです。

木曜日

「急いでしたくしなさい! 食べ物を、三日分だけ用意しなさい!」その命令を聞いたイスラエルの人たちは、とてもわくわくしました。三日後、すべての用意ができました。ヨシュアはみんなに、これからやるべきことを伝えました。ヨシュア

記3：2－4（人々と契約の箱との間は、900メートルくらいあけることになっていました）。

ヨルダン川のすぐ近くまできたとき、子供たちは、うきうきしてきたことでしょう。雨の多い季節だったので、川の水は、岸からあふれそうなくらいいっぱいでした。中には、紅海をわたったときのことを思い出している人もいました。人々をわたらせるために、神様はもういちど水を分けられるのでしょうか？

先頭の祭司たちが、契約の箱をかついで、川へと近づいていきます。いよいよ、川に足をつけました。すると、そのとたんに、奇跡が起こったのです。

流れてきた川の水がせきとめられて、高くつみあげられていきます。残りの水は流れていき、目の前の川が、かわいた地になってしまいました。16節と17節。

祭司たちが、川のまん中で立ちどまりました。みんなが無事ヨルダン川の向こう岸についたとき、何が起こりましたか？ヨシュア記4：15－18。

それぞれの部族では、力の強い人がひとりずつ選ばれて、祭司らが立っていた川のまん中あたりから、石を一個ずつ運び出すことになりました。十二個の石は、どこに置かれましたか？また、それはどうしてでしたか？20－24節。

考えてみよう：イスラエル人がヨルダン川をわたったとの知らせは、あっというまに、エリコやほかのすべての都市へと広まりました。かれらは、どのように感じたと思いますか？ラハブは、どうだったでしょう？

金曜日

「お前はだれだ？味方か、それとも敵なのか？」自分の目の前にあらわれた、体の大きな兵士を見あげて、ヨシュアはたずねました。祈っていたら、その人がとつぜん現れたのでした。その兵士は、なんと言いましたか？ヨシュア記5：13－6：2。

イエス様ご自身が、ヨシュアに話すことがあって、かれのところに来られたのでした。なんということでしょう！ヨシュアには見えませんでしたが、イエス様のすぐ近くには、ひかりかがやく天使たちの軍隊がいました。ヨシュアはかれの軍隊をつれて、エリコのまわりを一日に一回、六日間つづけて行進するようにと、イエス様は言われました。とくべつな兵士たちが先頭を行き、つぎにラッパをふく人たち、そのつぎに契約の箱をかついだ祭司たち、最後にのこりの兵士たちがつづくことになってい

ました。

七日目には、都のまわりを七回まわるようにと言われました。それから合図とともに、みんなが大声で叫ぶことになっていました。そうすると、ラハブが住んでいたところ以外の城壁が、ことごとくくずれるということでした。そのとき、兵士たちは都に攻めこんで、すべてのものを滅ぼすのでした。金や銀、青銅や鉄でできたものだけは、こわさないことになっていました。

ヨシュア記6章の1節を読んでください。六日間、イスラエルの軍隊と契約の箱をかついだ祭司たちが、都のまわりを回るのを見ていたエリコの人々が、どんな気持ちでいたか想像できますか？その間、聞こえるのは、行進の足音と、ときどき祭司たちが吹くつのぶえの音だけでした。エリコの人々にとっては、とても気味の悪い光景だったはずです。

それから、七日目がやってきました。軍隊が都のまわりを回りつづけるので、城壁の上にいた人々は、いったい何周するのだろうと、かぞえながら見ていました。七周まわり終えたとき、ものすごく大きな叫びがあがりました。するとたちまち、都の城壁がくずれおちたのです。くずれずに残ったのは、ラハブが住んでいたところだけでした。ふたりのスパイたちは、どうしましたか？**23節**。ラハブもスパイたちも、約束を守ったのでした。

考えてみよう：イスラエルの軍隊には、何人の兵士たちがいましたか？イスラエル軍のほかに、どんな軍隊がいましたか？**ヨシュア記5：14**。サタンとかれの天使たち

も、そこにいたと思いますか？戦いに勝利したのは、どちらの軍隊でしたか？こんにちでも、私たちがサタンと戦うとき、必要ならば、イエス様はご自分の全軍をおくってくださることを知っていましたか？イエス様は、エリコのときと同じく、今でも力づよいおかたなのです。

もっと学ぼう！

★**申命記31-34章；ヨシュア記1－4章；5：13－6：27；**
★**人類のあけぼの下巻 p. 77-116**
★**あがないの歴史 p. 213 ー 222**

ヒルダの納屋にて―パート1

イヴォンヌ・ダースト

ヒルダは、湖のそばの農場に住んでいる、小柄なおばあさんでした。彼女のご主人は、もうなんねんも前に亡くなっていました。年をとって背中がまがっても、農場の大きくて古い家に、ひとりで住んでいました。

ヒルダには子供がいませんでしたが、春と夏の忙しいあいだは、弟とおいっこが、農場の手伝いに来てくれました。かのじょは、三匹のコリー犬をかっていて、牛やニワトリの世話もしていました。なによりも聖書を読むのが楽しみで、イエス様を愛し、信頼していました。

ヒルダの納屋〔物をおさめておく小屋〕は、丘のすぐそばにある、古くて大きな建物でした。中には、干し草と穀物をたくわえてある部屋もありました。農機具も、その中にありました。長くてきびしい冬の間は、動物たちもそこに入れてやしないました。

毎日、朝と夕に、ヒルダは小さい道を歩いて納屋へ行きました。かのじょが姿を見せると、動物たちは、えさがもらえると思って大喜びするのでした。彼女はまず、ガタガタするはしごをのぼって二階へいき、そこから干し草のかたまりを投げ落とし、穀物の入ったバケツをおろしました。それから、はしごをつたって下におりました。

ここからが大変です。つぎに、スコップで家畜のおりから糞を運び出し、ニワトリのふんはほうきで掃きだします。

ボーニーというヒルダのお友だちが、近くの湖の反対側にある農場に住んでいました。ここからは、そのボーニーが語ったお話です。

ある寒い冬の朝、朝ごはんを食べて、農場の仕事をすませたあとに、とつぜん、ヒルダのところに行くべきだと感じました。暖かい家の中にいたかったのですが、どうしても行かなければとの思いが、ますます強くなりました。

私は自動車にとびのり、湖のまわりにある雪の積もった道路をとおって、ヒルダの家に向かっていました。ところが、玄関のドアをノックしても、ヒルダは出てきま

せんでした。犬のほえる声も聞こえません。大声でかのじょの名を呼びましたが、返事はありませんでした。

私は、「ヒルダは、きっとまだ納屋にいるんだわ」と思い、そこに向かいました。

小屋のドアを開けると、犬たちがほえだしました。牛たちも大声でモーモーないているし、ニワトリたちはまだ止まり木にいます。なにか、ようすが変です。

私は、「ヒルダ、ここにいるの?」と呼びかけました。しかし、返事はありません。ヒルダに何かあったのでは、と思いました。動物たちが、まだえさをもらっていないことは、すぐに分かりました。どう考えても変です。

私が納屋にはいっていくと、ほえていた犬たちが、喜んでしっぽをふり始めました。中に入ると、足が水につかりました。ヒルダの納屋で、大きな問題が起こっていることが、ひと目で分かりました。床は、水びたしでした。とても汚くてくさい水です。スカートのすそを持ち上げなければ、まともに歩くことができませんでした。

さらに進もうとすると、前に立ちはだかっていた牛たちが、どいてくれました。犬たちについて行くと、ヒルダのいるところまで案内してくれました。

やっぱり、ヒルダがいました。レンチ〔ボルトなどを回す工具〕を手に、かがんだまま何かをしています。呼びかけると、驚いて顔を上げましたが、何も言いません。私を見てホッとした顔をしたので、ここに来たのは正しかったのだと思いました。

（つづく）

第12章
祝福と呪い

暗唱聖句

「…その罪は必ず身に及ぶことを知らなければならない。」
—民数記 32：23

日曜日

「イスラエルの神が、エリコの城壁をくずされた！」この知らせは、たちまちのうちに、カナン中に広まっていったことでしょう。もうだれも、安心してはいられなくなりました。しかし、ひとつだけ大きな問題がありました。イスラエル人たちは、ヨシュア自身でさえ、戦いに勝ったのは神様の力によるものであったことを忘れていました。神様の力が働かなければ、イスラエルに勝ち目はなかったのです。

次にヨシュアは、アイの都を占領することにしました。そこで彼は、スパイ〔密偵〕を送って、そこを調べさせました。戻ってきたスパイたちは、アイはとても小さいので、そこを占領するには、二、三千の兵士を送るだけで十分だとヨシュアに言いました。ヨシュアは、そのようにしました。ヨシュア記7：3—4。

アイに向かって出発した軍隊の中に、心配そうな兵士はひとりもいませんでした。イスラエル軍はこんども勝利するにちがいないと、だれもが信じていました。ところが、その自信はすぐにくずれてしまいました。まったく信じられないことが起こったのでした。みんなは、どう思いましたか？5節と6節。

ヨシュアは、ある大事なことを忘れていました。その計画が、神様のみこころと合っているかどうか、神様にたずねるのを忘れていたのです。もしそれをしていたら、神様はヨシュアに、まず解決すべき問題があることをお伝えになったことでしょう。

神様は、ご自分の民を愛しておられました。しかし彼らは、神様に信頼し、神様が

やりなさいと言われるすべてのことにきっちり従うことがどれほど大切かを、知る必要がありました。そうするとき、神様は祝福を与えることができるのです。

民を祝福し、幸福にしようという神様のご計画をだめにしようと、サタンはけん命になっていました。はたして彼らは、同じときに、サタンの計画と神様のご計画にしたがうことができたでしょうか?

さて、ヨシュアとイスラエル人たちは、どうすればよいのでしょう?明日、そのことについて学んでいきましょう。

考えてみよう: 自分たちの計画を立てるときに、イエス様は私たちにどうしてほしいと望んでおられますか?イエス様に相談してほしいと望んでおられますか?私たちが相談するならば、どんなことが起こっても、イエス様はいっしょにいて助けてくださるでしょうか?

月曜日

イスラエルの軍隊は、アイに負けてしまいました。ヨシュアとイスラエルの指導者たちは、まったく信じられませんでした。彼らがどれほどショックを受けたか、おぼえていますか?ヨシュア記7:6。

自分たちは、ヨルダン川をわたるべきではなかったのではないかとさえ、ヨシュアは思いはじめました。7節。

ヨシュアはどうして、そのように思ったのでしょう?神様ご自身が、ヨルダン川をわたりなさいと彼らに言われ、彼らを助けるために、大きな奇跡もおこなってくださったのでした。そのうえ、エリコの城壁をくずし、その都を与えてくださったのでした。

ヨシュアと長老たちが、あれほどまでに悲しんだ本当の理由はなんでしたか?ヨシュアは、心から神様を愛していました。神様がどんなにすばらしく、力強い方かを、みんなに知ってほしいと思っていました。ですから、アイとの戦いにやぶれたことで、人々は神様を信じなくなるだろうと考えたのでした。イスラエルの神はたいしたことないので、びくびくする必要はないだろうと、カナン人たちは思ったことでしょう。8節と9節。

もちろん神様も、ヨシュアを愛しておられました。かれと長老たちがどんな気持ちでいるかも、よくごぞんじでした。でも彼らは、悲しんでいる場合ではありませんでした。解決しなければならない、重大な問題がありました。

いったい、何が悪かったのでしょう?イスラエルの軍隊はなぜ、アイとの戦いにやぶれてしまったのでしょう?

考えてみよう: すべての計画について、わたしたちはイエス様に相談する必要がありますか?もちろんですよね!かれは、私たちのすべての計画に関心をもってお

られ、私たちはいつでも、かれに助けていただく必要があるのです。

火曜日

アカンは、あたりを見回しました。だれも見ていません。彼はいそいで、あるものを隠しました。

アカンとは、どんな人でしたか？かれはユダ族の出身〔生まれながらの土地や身分〕で、イスラエル軍の兵士でした。かれはあの日、ほかの兵士らといっしょに、くずれた城壁をふみこえてエリコに入り、悪人たちをことごとく滅ぼしました。助け出されたのは、ラハブとその家族だけでした。

エリコの都は完全に焼いてしまうようにと、神様はイスラエルに命じておられました。家も、宮殿も、神殿も、中の美しいりっぱなものも、ことごとく焼かなくてはいけませんでした。すべてです！燃えないものは、神様へのとくべつな供え物として、ささげられることになっていました。もしだれかが誘惑に負けて、何かを盗んでしまったなら、その人だけでなく、イスラエルの宿営〔キャンプ〕全体に呪いがもたらされることになっていました。ヨシュア記6：18－19。

アカンは、その命令にしたがいませんでした。イスラエルの兵士らが宿営にもどったとき、アカンはいそいで自分のテントに行きました。「すぐにテントをしめるんだ！シャベルはどこだ？いそげ！」アカンが自分の盗んだものを家族に見せたとき、かれらは思わず、驚きの声をあげたことでしょう。金や銀、またバビロンからとりよせられた美しい着物！妻と子供たちは、大喜びしたはずです。

おおいそぎで穴をほり、盗んできたものを包んでから穴に入れ、土をかぶせてから、そこにマットか何かをしいたかもしれません。これで、お金持ちです。秘密を知っている人は、だれもいません。本当にそうでしょうか？詩篇139：1－4。

考えてみよう：ここまでの物語から学べる教訓を、いくつぐらい思いつくことができますか？ヨシュアは、何を忘れていましたか？アカンは、どの戒めにそむきましたか？

水曜日

イスラエル軍は、アイとの戦いに負けてしまいました。そのわけを、ヨシュアは知らされました。しかし、その犯人を、どうやってさがせばよいのでしょう？

神様はヨシュアに、犯人のさがしかたを教えてくださいました。まず、犯人がいる部族の名を、神様にたずねることになりました。そうしたら、部族の名が示されるの

でした。つぎに、その部族内の一つひとつの氏族について神様にたずね、犯人がいる氏族の名を示してもらうことになりました。つぎに、その氏族内の一つひとつの家族について神様にたずね、罪を犯した人の家族が示されることになりました。

神様はこの方法を用いることで、犯人に、罪を告白〔白状〕してゆるしをもとめる機会〔チャンス〕を与えようとしておられました。しかし、だれも告白しなかったばあいは、さいごに神様が、犯人の名前を明らかにすることになるのでした。

自分の部族の名が呼ばれないか、みんながそわそわしている様子を想像できますか?とうとう、神様によって、犯人のいる部族の名が発表されました。それは、どの部族でしたか?**ヨシュア記 7：16**。

もちろん、アカンはその部族の人でした。つぎに、犯人のいる氏族がえらばれました。きっとユダ族の人たちは、みんなとても緊張していたことでしょう。**17 節**。

もちろん、アカンはその氏族の人でした。さあこんどは、それぞれの家族をしらべる番です。またも、犯人のいる家族がはっきりと示されました。そのつぎに、何が起こりましたか? **18 節と 19 節**。

こうして、犯人であるアカンがとらえられました。それでもまだ、本当に悪かったとは思っていませんでした。いずれにせよ、自分がしたことを認めて、それはまちがっていたと、言わなくてはいけなくなりました。自分の罪のために、三十六人の命が失われたことを、かれは知っていました。そしてそのために、かれと家族のみんなも、死ななくてはいけませんでした。

アカンの両親は、神様の十戒をうやまい、戒めにしたがうことを、きちんと教えていなかったようです。アカンもまた、そのことを子供たちに教えませんでした。悲しいことですね。

モーセはイスラエルの人たちに、したがわないことの危険について警告していました。このとき、かれの言ったとおりのことが起こってしまったのでした。**民数記 32：23**。

考えてみよう：あなたの両親が、あなたを甘やかさないことを喜ぶことができますか?お父さんとお母さんは、あなたを心から愛しているのです。私たちが罪を犯すなら、それによって自分自身が傷つくことを学んでいますが、罪は、ほかの人たちをも傷つけるのです。

木曜日

これで一応、みんながほっとしました。人々は、アカンのしたことを悲しく思いましたが、これで神様がふたたび自分たちを祝福してくださることが分かって感謝しました。それから神様は、

かれらに何をするようにと言われましたか？ヨシュア記８：１－２。

待ち伏せとはなんですか？敵が来るまでかくれていて、敵がやってきたら、不意に〔思いがけず〕攻撃をしかけることです。イスラエル軍のひとつのグループは、都の後ろにかくれ、のこりの兵士らは、ヨシュアとともに都の前からせめることになりました。

アイの人々は、イスラエル軍を恐れていたと思いますか？いいえ。前の戦いで彼らをやっつけることができたので、こんども勝てると思っていました。夜のあいだに、イスラエル軍のひとつのグループは、こっそり自分たちがかくれるべき場所に行きました。ヨシュアは、もうひとつのグループの兵士らといっしょに残りました。朝はやく、アイの王様は、イスラエル軍がふたたび都に向かってくるのを見ました。そこで、かれとその兵士らは、敵をむかえうとうと、あわてて出て行きました。おそらく彼は、またもや敵を追い散らすことができると思ったことでしょう。14－17節。

ヨシュアは、かくれていた兵士たちに、自分が立ち止まり、アイに向かって槍をさしのべるのを見たら、都にせめていくようにと話してありました。その作戦は、うまくいきましたか？18－21節。この時、主の軍勢の大将が、彼らとともにおられました。そして、戦いに勝ったのです。このとき神様は、アイの人々の持ち物を、戦利品〔戦争で敵からうばったもの〕としてもちかえってもいいと言っておられました。２節と27節。

考えてみよう：この時は、すべてうまくいきましたが、どうしてですか？

金曜日

イスラエルの人たちは、これまで長年のあいだ、テント生活をしていました。彼らはこんどこそ、ちゃんとした家に住みたかったので、美しいカナンの地にいた多くの敵を、一日でも早く追いだしたいと思っていました。けれどもヨシュアは、さらなる戦いをつづける前に、とても大切な話をしなければならないと言ったのでした。

モーセは死ぬ前に二度、イスラエルの人たちと特別な集まりをもたなければならないと、ヨシュアに語っていました。そこで何をして、何を語るべきかを、きちんと教えていました。その集まりには、みんなが出ることになっていました。そう、イスラエルの人たち全員です。すべてのお父さんとお母さん、すべての子供たちも。そ

の集まりは、シケムというところでもたれることになりました。

人々は、シケムのことを知っていました。そこは、アブラハムが最初の祭壇をたてたところでした。またそこは、彼らの祖先ヤコブが住んでいたところでもありました。

シケムは、近くに危険な敵がいっぱいいる場所でした。しかしヨシュアは、彼らが神様にしたがっているかぎり安全であると、念をおしていました。はたして、その通りでした。そこに向かっていく途中、彼らのじゃまをする者はひとりもいませんでした。

シケムには、ふたつの丘にはさまれた、美しい谷がありました。丘のひとつはゲリジムで、そこは祝福の山と呼ばれるであろうと、モーセが言ったところでした。もうひとつはエバルといって、呪いの山と呼ばれることになっていました。六つの部族がひとつの丘のうえに立ち、あとの六部族が、もうひとつの丘のうえに立ちました。

ヨシュアが、従うときにもたらされる祝福について読んだあと、ゲリジムにいる部族が「アーメン」と言いました。それから、従わないときにもたらされる呪いについて読んだあと、エバルにいる部族が「アーメン」と言いました。

エバル山で、ヨシュアはいけにえ〔ささげ物〕の祭壇をたてました。それは、従わなくてのろいを受けることになっても、もしそれを心から悔い改めるなら、神様は喜んでゆるしてくださるということを、人々に思い起こさせるためでした。神様は、私たちをサタンから救い出すために、すばらしい計画を立てられたのですから。

考えてみよう：たしかに、それは大切な集まりでしたね。もし人々が十戒にしたがうなら、すばらしい祝福が与えられることを、思い起こさせられました。もしサタンにしたがうなら、神様は彼らを祝福することができず、かわりにどんな恐ろしいことが起こるかも、彼らは知っていました。モーセが書いた、美しい言葉を読んでください。申命記 30：11－20。

もっと学ぼう！

★申命記 27 章、28 章；ヨシュア記 7 章、8 章

★人類のあけぼの下巻 p. 115-128

ヒルダの納屋にて—パート2

イヴォンヌ・ダースト

農場でひとり暮らしをしていた、ヒルダというおばあさんについて、ボーニーが話しています。ある雪のふる朝、ボーニーは、すぐにヒルダを訪ねなければ、と思いました。行ってみると、ヒルダは納屋にいました。かがんだ姿勢の彼女は、手にレンチ〔ボルトなどを回す工具〕をもっていました。

「ヒルダ、いったいどうしたの?」と私は尋ねました。でも、それがばかな質問であることが、すぐに分かりました。納屋〔物をおさめておく小屋〕の床は水びたしで、しかもそれは、きたなくて、ひどいにおいのする水でした。夜のあいだに小屋が水びたしになり、ヒルダは、その水を止めようとしていたのでした。

牛を飼っていた場所には、とくべつな水の容器があって、それは、パイプのついた大きなコップのようなものでした。牛が水をのみたくなったら、鼻をコップのような容器にお

し入れます。すると、容器のなかに水が流れこみ、牛がのめるようになっていました。夜のあいだに、一頭の牛が水をのみ終わって鼻を容器から出したあとも、どういうわけか水が止まらなくなってしまいました。水はひとばんじゅう流れでたので、納屋の床は水びたしになり、ヒルダおばあさんは、けん命にその水を止めようとしていたのでした。助けが必要なのは、あきらかでした。

「あなたに助けてもらうなんて、ほんとうに申しわけないわ。」ヒルダがあやまりました。「これだけの水を全部ここからだすのは、たいへんな仕事になるわ。おまけに、そこらじゅう牛やニワトリのふんだらけで、とてもくさいし。」

わたしは彼女に、「そんなことは心配しないで。お手伝いできて、うれしいんだから」と言いました。

水を止めたあとで、私はヒルダといっしょに、牛たちを納屋のすみっこに移しました。それから、ぐらぐらするはしごを上って、小屋の天井裏へいき、干し草を一輪車のうえにおとしました。それから、穀物がぎっしり入ったバケツをおろしまし

た。牛とニワトリたちは、ようやく朝ごはんにありつけるので、大喜びです。

でも、ここからが大変な作業です。水やふんををすくったり、押しやったり、運んだりして、納屋の外にだすのです。なんとか、納屋の半分をきれいにすることができました。それから、きれいになったところに牛とニワトリを移し、またすくったり、押しやったり、運んだりしました。そしてようやく、納屋の中はすっかりもとどおりになりました。やれやれです。

それからヒルダの家に行って、犬たちを洗ってあげてきれいにし、最後に自分たちもシャワーに入り、かわいた服に着がえました。とても気持ちよかったです！

ふたりで、おいしいスープを飲んでいるとき、ヒルダが尋ねました。「ところで、どうして今日うちに来たの？わたしが納屋に入って数分もたたないうちに、あなたがやってきたのよ。あれだけの仕事をひとりでやれば、まる一日かかると思っていたのに・・・こんなに早く終わって、ほんとうに助かったわ。」

わたしは、自分がどうしてもヒルダの家に行かなくてはと感じたことを、彼女に話しました。「あなたの保護天使が、助けが必要だと、わたしの保護天使に言ったのだと思うわ」と、わらって言いました。

ヒルダも、にこにこして、「きっとそうね」と言いました。「わたしは、まっすぐ立つこともできないくらい年を取ってしまったけれど、イエス様は、これまでと変わらず私を愛してくださって、今でも私のめんどうをみてくださることを、あらためて知ることができたわ。」

ヒルダの言うとおりでした。わたしは彼女に、その日の朝、神様がわたしに送られたメッセージにしたがって本当によかったと言いました。

その日わたしは、イエス様が望まれることを、いつでも喜んでやろうという気持ちをもつことが、どんなに大切かを学びました。たとえそれが、かわいそうなおばあさんのために、きたなくてくさい水を小屋からだすという、たいへんな仕事であったとしても、イエス様にしたがえば、なんとも言えない喜びが与えられることを学びました。

（終わり）

第13章
ギベオン人

子供のための日々の
聖書研究ガイド

暗唱聖句

「偽りを言うくちびるは主に憎まれ、
真実を行う者は彼に喜ばれる。」
箴言 12：22

日曜日

イスラエル人のキャンプ〔宿営〕からあまり遠くないところに、ギベオンという重要都市がありました。ヨシュア記 10：2。

カナンの中部と南部を旅していた人たちは、ときどきそこを通りました。カナンの王たちは、もちろん、イスラエル人がギベオンを占領することを望んでいませんでした。エリコとアイで神様が行われたふしぎなわざについて知ってはいながら、かれらは何をしようと決めましたか？ヨシュア記 9：1－2。

カナンには、ヒビびとと呼ばれる人たちがいて、かれらはギベオンに住んでいました。かれらは、自分たちの神々よりも、イスラエルの神様のほうが強いと考えました。ですから、ほかの王たちがイスラエルと戦おうとしていたのに、ギベオン人たちは別の計画を立てていました。なんとかイスラエルの人たちに気にいられて、命を助けてもらおうと考えたのでした。それは、どのような計画でしたか？ヨシュア記 9：3－5。

大使というのは、自分の国の代表として、よその国に送られる人たちのことです。かれらがよその国を訪れるときは、できるだけいい服を着て、えらい人のかっこうをします。なぜなら、本当にえらい人たちだからです。ギベオンの大使たちは、どうしてこじきのようなかっこうをしたのでしょうか？それは、まったくおかしなことでした。しかし、それは計画の一部だっ

たのです。

準備ができしだい、大使たちは出発しました。イスラエル人の宿営に着いたかれらは、ヨシュアと話がしたいと言いました。かれらを見たヨシュアと長老たちは、まず彼らのみすぼらしいかっこうに驚いたことでしょう。いったい何のためにここへ来たのか、ふしぎに思ったはずです。かれらは、なんと言って自己紹介をしましたか？ **6節**。

考えてみよう：もしあなたがその場にいたら、かれらを信じたでしょうか？それとも、うそを見破ったでしょうか？ヨシュアと指導者たちに、だれが本当のことを教えてあげることができましたか？だれかがうそをついたときに、だまされることのないよう、神様はわたしたちを助けたいと望んでおられますか？

月曜日

ヨシュアとその部下たちは、訪ねてきた人たちをまじまじと見つめました。かれらは、うそをついているのだろうか？それとも、本当のことを言っているのだろうか？カナン人と仲良くしてはいけないと神様から言われていたので、真実をはっきりと知る必要がありました。

契約〔約束〕がどれだけ重大なものか、覚えていますか？契約を交わしたら、どちらのがわも、それぞれの約束を守らなくてはいけなくなります。イスラエルの人たちは、シナイ山で神様と契約を交わしました。もし彼らが十戒にしたがうなら、神様はかれらを祝福すると約束なさいました。ところがじきに、かれらは金の子牛を拝んでしまい、そうすることで契約を破ってしまったのでした。

イスラエル人たちは、自分たちに約束を守る力はないことに、まだ気づいていませんでした。約束を守るには、神様を信じて任せきるしかないことを、神様はかれらに気づいてもらいたかったのです。かれらは何度もなんども、したがうと約束しましたが、何度もなんども、信じて任せることをしませんでした。信頼することを選ぶとき、神様はかれらのために、すばらしい祝福を与えることができるのでした。そうしないと、かれらに害を加えるすきを、サタンに与えてしまうことになるのでした。

訪問者たちの話を聞いていたら、神様がイスラエル人のためにしてくださったことについて、よく知っていることが分かりました。ヨシュアとその部下たちは、かれらのかび臭いパンと、古ぼけたブドウ酒のふくろを注意ぶかくしらべました。**ヨシュア記 9：14**。ところが、大事なことを忘れていましたね。それは何でしたか？

考えてみよう：だれかに聞かないで何か

をやって、問題を起こしてしまったことはありませんか？

火曜日

もしあなたがあの場所にいて、ギベオンから来た人たちの話を聞いていたら、やはり彼らのうそを見破るのは、むずかしかっただろうと思いませんか？彼らのかっこうや持っていたものを見て、かれらが神様について言ったことを聞いたら、この大使たちは正直な人たちだと考えたのではないでしょうか？

とうとうギベオン人たちは、ヨシュアとその部下たちを信じこませてしまいました。ヨシュアとその部下たちは、何をするのを忘れていましたか？ヨシュア記 9：14。

ずっと遠くに住んでいる人たちと契約を結んでもだいじょうぶだろうと考えて、ヨシュアとイスラエルの指導者たちは何をしましたか？イスラエル人たちが本当のことを知るようになるまで、どれくらい時間がかかりましたか？真実を知ったイスラエルの人たちは、どう感じましたか？ 16 － 18 節。

イスラエルの人たちは、ぜんぜん喜びませんでした。かれらを殺さないという約束をした後でも、ギベオン人と戦うことを望みました。うそをついてだましたのは、彼らのほうなのですから、約束を破ってもかまわないと思ったわけです。ところが、ヨシュアとイスラエルの指導者らは、そのことについてなんと言いましたか？ 19 節と 20 節。

それは、正しいことでした。たとえだまされてした約束であっても、それを守るのは大事なことでした。しかし、うそをついたギベオン人は、自分たちのしたことが間違っていたことを、いずれ知るようになります。

考えてみよう：もしヨシュアが前もって尋ねていたら、神様は、ギベオン人について彼に話されたでしょうか？両親が「だめ」と言っていることを、「やっても大丈夫だろう」と考えて、やりたくなってしまったことはありませんか？どうして親たちは「だめ」と言うのでしょうか？子供に分からないことでも、親にはわかることがありますか？

水曜日

目の見えない人に、白い紙と黒い紙をてわたしたとします。それから、「白い紙をえらんでください」と言っても、その人は正しい選びができるでしょうか？まちがって黒い紙をえらんでも、目の見えない人を責めることができますか？しかし、かれが黒い紙をえらんだからと言って、それが白い紙に変わるわけではありませんね。黒は黒、白は白です。

ギベオン人たちは、十戒のことを知っていましたか？いいえ。かれらはまるで、白い紙と黒い紙とを分けている、目の見えない人のようでした。神様は、そのことをご存じでしたか？もちろんです！しかし、だからと言って、彼らがうそをついたという事実が変わるわけではありませんでした。

真実は真実、うそはうそなのです。神様は真実を、サタンはうそを語ります。

神様は、イスラエル人をカナンに住まわせて、ほかの国々に神様のことをあかしする国をつくらせようとしておられました。その地で、かれらは、世界中に神様の光をてらす民となるはずでした。カナンにいる人々にも、神様を信じてしたがうチャンスが与えられましたが、彼らはサタンのうそを信じることにしたのでした。今やかれらは、触れるものはなんでも死なせてしまう病気のような、悪い民になってしまいました。ですから神様は、しかたなく、かれらを滅ぼすように言われたのでした。

しかし、神様がすべての人を愛しておられることを、けっして忘れてはいけません。すべての人が、サタンではなく、神様を選ぶことを願っておられるのです。ラハブを覚えていますか？彼女が神様を信じるえらびをしたことを、神様はご存じでした。またギベオン人が、神様の力を信じることにしたことも、ご存じでした。かれらは偶像を拝むのをやめるつもりだったので、神様はイスラエル人に、かれらを滅ぼしてはいけないと言うつもりでした。ですから、殺されないためにうそをつく必要はなかったのです。

神様がモーセに与えられた大事な律法のひとつに、イスラエル人ではないのに、神の民になりたいという人たちに関するものがありました。そのような人たちをどう扱うべきか、その律法は教えていました。**レビ記 19：33－34；民数記 15：14－16。**

考えてみよう：ご自分の民が、全世界をてらす光となることが、神様のご計画でした。今でも、その計画は変わっていませんか？あなたと家族の人たちは、世の光となっていますか？私たちはどうやって、神様の光をてらすことができますか？

木曜日

「たいへんだ！ギベオン人がイスラエルの仲間になったぞ！」その知らせは、あっというまに広まりました。カナンの王たちは、ひじょうに恐れながらも、かんかんに怒っています。**ヨシュア記 10：1－2。**

エルサレムの王は、いそいでほかの四人の王たちに伝言をおくりました。いっしょに何をしようというメッセージでしたか？**3節から5節**を読んでください。

五人の王たちが攻めてくることを知って、ギベオン人たちは、どのように感じたと思いますか？かれらはイスラエル人と契約しましたが、それは、うそをついて結んだ契約でした。うそがばれてし

まっても、イスラエルの人たちは、約束を守ってくれるでしょうか？これからも仲間でいてくれるでしょうか？ギベオン人たちは、何をしましたか？ヨシュアは、何をしましたか？こんどこそ、神様に尋ねましたか？ 6－10節。

ギベオン人たちは、どんなにほっとしたことでしょう！敵どもが彼らの都を滅ぼそうとして、そこを取り囲むと、すぐにイスラエル軍が助けにきてくれたのです。敵は山のほうへ逃げていき、イスラエル軍がそのあとを追いました。山をこえて下っていったときに、何が起こりましたか？ 11節。神様が、大きな雹を降らせたのです。

山のてっぺんに着いたヨシュアは、まず空を見あげました。もうすぐ日が暮れようとしています。暗くなってしまったら、逃げている敵は、山の中にかくれてしまうことでしょう。そうしたら、敵を完全にうちやぶることができなくなるどころか、かれらは勢いをとり戻して、ふたたびギベオン人のところに攻めてくるでしょう。時間はあまりありません。

ヨシュアとかれの軍隊は、最後まで戦いつづけなくてはいけません。しかし、じきに暗くなってしまいます。一晩じゅう歩いて、一日じゅう敵を追いまわしたあとでも、疲れをおぼえている暇はありません。どうしてもその日のうちに、この戦いを終わらせる必要がありました。

考えてみよう：このときまでに、イスラエル人は、神様にできないことは何ひとつないことを学んでいましたか？それは、私たちもつねに覚えているべきことですか？

金曜日

「神は、自分自身を助ける者たちを、お助けになる」とだれかが言っているのを、聞いたことがありますか？では、「神は、自分で自分を助けることのできない者たちを、お助けになる」とだれかが言っているのを、聞いたことはありませんか？

聖書の言葉ではありませんが、ある意味で、上のふたつのことわざ〔昔ながらの教訓〕は、どちらも正しいといえます。

イスラエル人たちは、できるだけのことをしていたので、神様は、かれらを助けてくださいました。さて、かれらは、もうひとつ奇跡を必要としていました。神様の助けにより、ヨシュアは、おどろくべき信仰の言葉を語りました。すると、神様は、これまでいちども行ったことのないことをしてくださったのです。ヨシュア記 10：12－15。

神様が助けてくださったので、ギベオン人もイスラエル人も感謝したと思いますか。もちろんですね。

神様を拝み、神様にしたがうことを選ぶだけで、イスラエル人たちから喜んで受けいれられるようになることを、ギベオン人たちは知りませんでした。その結果、かれらはうそをついてしまいましたが、神様はヨシュアに、かれらとの契約をやめるようにとは言われませんでした。だまされたことを知ったイスラエルの人たちがギベオン人を滅ぼそうとしたときに、ヨシュアと

長老たちは、どうすることにしましたか？ヨシュア記9：21，25－27。

以前の身分〔地位〕をなくし、これからはしもべとして生きていくことになりましたが、ギベオン人たちは文句を言いませんでした。ヨシュアが約束を守ってくれたことと、神様がかれらの命を助けてくださったことを、感謝していたのでした。

考えてみよう：あの日、戦いに勝利した秘訣〔とっておきの方法〕は、イスラエル人ができるだけのことをして、あとは神様に任せたことでした。私たちがサタンとの戦いに勝つ秘訣も、これと同じではないでしょうか？まずは、正しい道を選ぶことです。それから、気が進んでも進まなくても、正しいからやると決めたことを実行するのです。そうすれば、神様は、正しいことを行う力を与えてくださいます。それをつづけると、正しいことを行うのが楽になってきます。

もっと学ぼう！

★ヨシュア記9章、10:1-15

★人類のあけぼの下巻p. 129-136

エリザベスの長い一日

エイミー・シェラード

「わたしが大きくなって、女の子が生まれたら、その子にはなんでも好きなことをさせてあげるの。もしその子が、学校が終わっても残って遊びたければ、すぐに家に帰らせたりはしないわ。」ある日の午後、エリザベスは、学校から帰ってきて、こう宣言したのでした。彼女が大きな不満をもっているのは、明らかでした。

お母さんは、しばらく考えてから、エリザベスに話しかけました。「エリザベス、明日は一日じゅう、あなたのやりたいようにしていいわよ。」エリザベスは、信じられませんでした。

「ほんとうにいいの、お母さん?」と、エリザベスは尋ねました。するとお母さんは、「ええ、ほんとうよ」と答えたのでした。

「ああ、はやく明日にならないかな!」うれしそうに飛びはねながら、エリザベスはお母さんに言いました。

つぎの日の朝、いつもよりおそい朝食をすませたエリザベスは、このように言いました。「きょうは、学校に行きたくないわ。」

お母さんはにこやかに、「好きなようにすればいいわ」と言いました。そこでエリザベスは、しばらく自分の部屋にもどりました。きょうは、ベッドもなおさず、おへやもきれいにしないでおこうと思いました。

しばらくたってから、彼女は外に出てみることにしました。外に出たエリザベスは、庭の木のブランコで遊んでいました。三十分くらいたつと、ブランコもあきてしまい、家の中にはいってきました。そして、「お母さん、何か食べてもいいかしら?」とたずねました。

「欲しいものを、なんでもとって食べていいわよ」とお母さんが言いました。エリザベスは、くだもののケーキを大きめに切って、それを食べました。

朝の時間は、ゆっくりとすぎていきました。ひとりで遊ぶのは、思ったほど楽しくありませんでした。でも、やりたいことをやってもいいと言われているので、何をしたらいいか、お母さんに聞くことはできませんでした。

ようやくお昼ごはんの時間になりましたが、エリザベスは、あまりおなかがすいていませんでした。食べ終わってから、「午後は学校に行こうと思うんだけど・・・」と言って、食事のあとかたづけもしないで、テーブルを離れました。台所から出ていくときに、「わたしの帰りがおそくなっても、心配しないでね」とつけ加えました。お母さんは、「分かったわ」と答えました。

放課後、数人の友だちから、川遊びに行かないかと誘われました。お母さんがそばにいたら、きっと反対するだろうと思いました。なぜならエリザベスは、ひどい風邪がなおったばかりで、川に入ったら、また病気になってしまうかもしれないからでした。しかしそれでも、友だちといっしょに行くことにしました。

川遊びも、思ったほど楽しくありませんでした。みんなで水をかけ合ったあとに、体の大きい女の子が、ふざけてエリザベスを後ろからおして、川に落としてしまいました。彼女は泣きだしましたが、ほかの女の子たちは笑っていました。

家にもどったときのエリザベスは、服がずぶぬれだったので、とても寒く、みじめで悲しい気持ちになっていました。そんな彼女に、お母さんは、なんて言ったと思いますか？「あなたは一日、ずっと好き勝手なことをしてきたんだから、着がえるなり、体をふくなり、かってにしなさい」と言ったのでしょうか？

いいえ。お母さんは、エリザベスをあたたかいお風呂に入れてあげて、かわいた服を着せてあげました。それから、体のあたたまる夕食を食べさせてくれたのでした。ねる時間になって、お話も読んでくれました。そして、あたたかくて気持ちのいいベッドに寝かせてくれたのでした。

お母さんが、おやすみのキスをしようとしたとき、エリザベスは、お母さんの首にだきつきました。そして、こう言ったのです。「小さな子供に、せわをしてくれるお母さんを与えてくださったのは、イエス様なのね。お母さんは、子供よりなんでもよく知っているので、子供にはお母さんが必要なんだわ。」お母さんはうれしそうにほほえんで、おやすみのキスをしてくれました。

朝起きたときのエリザベスの考えと、夜寝るときのエリザベスの考えと、どちらが正しいと思いますか？